

令和5年度

川崎市健康安全研究所年報

第11号

(通巻第59号)



KAWASAKI CITY

川崎市健康安全研究所

(発行：令和6年度)

はじめに

川崎市健康安全研究所は、全国に 84 か所(令和 6(2024)年 4 月現在)設置されている地方衛生研究所の一つです。川崎市における地方衛生研究所の歴史は古く、昭和 27(1952)年に「川崎市衛生試験所」として川崎市中央保健所の一角に設置されました。昭和 45(1970)年に川崎区大島町に業務の場を移して「川崎市衛生研究所」となった後、平成 25(2013)年に現在のキングスカイフロント(Kawasaki INovation Gateway at SKYFRONT)地区に移転し、名称も「川崎市健康安全研究所」と改め、現在に至ります。

地方衛生研究所は、昭和 23(1948)年の地方自治法改正に伴って「地方衛生研究所設置要綱」が策定されたことを機に全国に設置され、調査研究、試験検査、研修指導及び公衆衛生情報の解析・提供の業務を通じて、公衆衛生の向上のために重要な役割を果たしてきました。その後、平成 6(1994)年に地域保健の体系が抜本的に見直されることになり、同年に厚生労働省から示された「地域保健対策の推進に関する基本的な指針」に基づいて、平成 9(1997)年に厚生省事務次官通知「地方衛生研究所の機能強化について」が発出されました。これにより、地方衛生研究所は「地域における科学的かつ技術的に中核となる機関」として再編成することが示されたのですが、いずれの時期の設置要綱にも地方衛生研究所を法的に位置付ける記載はなく、行政機関でありながら法の裏付けがないという矛盾を抱えていました。

大きな転機を迎えたのは、令和 2(2020)年に世界的な流行を引き起こした新型コロナウイルス感染症の発生でした。特に、流行初期に国内での PCR 検査を全て引き受けたのは地方衛生研究所であり、ここから一気に世間の注目を集めることになりました。もちろん検査だけではなく、川崎市健康安全研究所では発生動向にも注視し、新型コロナウイルス感染症以外の疾患を含めて広く情報発信を行ってきました。令和 4(2022)年に「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」等の一部が改正され、これに伴って改正された「地域保健法」が令和 5(2023)年 4 月から施行されることになりました。ここには、保健所を設置する地方公共団体は、「法律に基づく調査及び研究並びに試験及び検査」を実施し「専門的な知識及び技術を必要とする業務」を行い「地方衛生研究所等の体制」を整備するように定められています。これを機に、地方衛生研究所の業務は全て法に基づく業務となり、川崎市健康安全研究所も法的根拠をもって日々の仕事に従事していると胸を張って言えるようになりました。

月日の流れるのは早いもので、川崎市健康安全研究所がキングスカイフロント地区に移転してから今年で早や 11 年が経ちました。私たちの施設は、検査を担当する微生物部門及び理化学部門、感染症情報を担当する感染症情報センター、精度管理や対外的な交渉、研究のサポート等を担当する企画調整、そして所内全ての事務的作業を担う総務で成り立っています。

私たちは、試験検査、調査研究、研修指導、情報発信を業務の 4 つの柱として、サーベイランスの強化、リスクコミュニケーションを含めた機能強化を図りつつ、市民の健康を守るために働いてい

ます。これらの業務を全うするためには、市民の方々のご理解やご支援、そして川崎市の関係各部署、地方衛生研究所をはじめとした他の研究機関、キングスカイフロント地区の皆様との連携が欠かせません。皆様との関係を大切にしつつ、これからも広く公衆衛生の向上のために力を尽くしていきたいと思っております。

川崎市健康安全研究所 所長 三崎 貴子

歴代所長

福田 諄	昭和	45年	6月	～	昭和	49年	3月
杉原 正造(所長事務取扱)	昭和	50年	4月	～	昭和	50年	7月
本庄 茂敏	昭和	50年	8月	～	昭和	51年	10月
依田 源次(所長事務取扱)	昭和	51年	10月	～	昭和	52年	3月
長田 信	昭和	52年	4月	～	昭和	57年	1月
中村 武雄	昭和	57年	2月	～	昭和	61年	3月
和田 明	昭和	61年	4月	～	平成	2年	3月
吉澤 秀明	平成	2年	4月	～	平成	5年	3月
原田 忠彦	平成	5年	4月	～	平成	6年	3月
大村 敏郎	平成	6年	4月	～	平成	9年	3月
安藤 正義	平成	9年	4月	～	平成	11年	3月
佐藤 欣弥	平成	11年	4月	～	平成	13年	3月
黒澤 登	平成	13年	4月	～	平成	17年	3月
小川 正之	平成	17年	4月	～	平成	20年	3月
丸田 茂貴	平成	20年	4月	～	平成	22年	3月
妙摩 博	平成	22年	4月	～	平成	24年	3月
岡部 信彦	平成	24年	4月	～	令和	6年	3月
三崎 貴子	令和	6年	4月	～			

川崎市衛生研究所

(昭和45年6月 川崎市衛生試験所から名称変更・移転)



川崎市健康安全研究所

(平成25年3月 川崎市衛生研究所から名称変更・移転)



目次

第1章 概要

1 沿革	1
2 施設概要	2
(1) 川崎生命科学・環境研究センター(LiSE)施設概要	2
(2) 川崎市健康安全研究所の移転開設について	2
(3) 健康安全研究所施設概要	3
3 組織	4
(1) 組織と業務	4
(2) 事務分掌	5
(3) 人員配置	5
4 予算及び決算	6
5 学会参加並びに視察対応等の実績	7
(1) 学会・研究会等出席実績	7
(2) 講習会・研修会等受講実績	9
(3) 会議等出席実績	12
(4) 講師派遣実績	19
(5) 研修指導実績	21
(6) 視察・見学受け入れ実績	23
(7) 研修報告会開催実績	24
(8) 「キングスカイフロント夏の科学イベント2023」への出展	25

第2章 業務実績

1 企画調整部門	26
(1) 企画調整担当	26
(2) 感染症情報センター担当	28
2 理化学部門	33
(1) 食品担当	33
(2) 水質・環境担当	36
(3) 残留農薬・放射能担当	40
3 微生物部門	54
(1) 消化器・食品細菌担当	54
(2) 呼吸器・環境細菌担当	59
(3) ウイルス・衛生動物担当	61

第3章 試験検査

1 月別検査件数	67
2 依頼別・項目別検査件数	70
3 食品別検査項目内訳	75
(1) 食品別検査項目内訳(理化学検査)	75
(2) 食品別検査項目内訳(食品細菌検査)	76
4 水質別検査項目内訳	77

第4章 調査研究

1 令和5年度調査研究課題一覧	78
2 調査研究報告等実績一覧	80
(1) 令和5年度学会発表実績(口演発表)	80
(2) 令和5年度学会発表実績(示説発表)	81
(3) 令和5年度学会発表実績(誌上発表)	81
(4) 令和5年度論文掲載実績	82
(5) 令和5年度行政報告等実績	83
(6) 令和5年度その他執筆実績	84
(7) 令和5年度表彰等受賞実績	84
3 調査研究報告	85

第5章 職員に関する事項

1 人事記録	92
2 職員名簿	93

【第1章 概要】

1 沿革

年月	事項
昭和27.1	川崎市条例第2号(昭和27年1月9日)により公衆衛生の向上及び増進に寄与するため川崎市立衛生試験所が設置される。庁舎は川崎市砂子1丁目7番地 川崎市中央保健所2階の一部を使用
昭和27.2	川崎市事務分掌条例(昭和22年川崎市条例第16号)に基づく事務分掌規則により「庶務係」及び「試験係」が設置される。
昭和36.7	市内に4か所の原子炉関係施設が設置され、市民からの強い要望に応じて、川崎市立川崎病院構内に放射能測定室を設置し、業務を開始
昭和36.10	川崎市事務分掌規則の改正により試験係が廃止され、新たに、試験第1係、試験第2係が設置される。
昭和37.9	川崎市中央保健所庁舎が改築され、同時に同庁舎4階に移転する。
昭和40.4	試験第1係、試験第2係が廃止され、新たに、微生物係、臨床検査係、理化学環境検査係が設置される。
昭和42.7	川崎市事務分掌規則の改正により理化学環境検査係が廃止され、新たに、食品化学係、環境検査係が設置される。
昭和44.4	川崎市立川崎病院構内に設置の放射能測定室を閉鎖し、環境検査係内に移す。
昭和44.9	川崎市大島5丁目5番地2(元川崎市交通局トロリーバス車庫跡地)に庁舎新築起工する。
昭和45.5	新庁舎竣工する。
昭和45.6	川崎市条例第2号が改正され、川崎市衛生研究所条例(昭和45年3月31日条例第14号)が新たに施行される。(名称変更と設置場所の変更) 川崎市事務分掌規則の改正により課制を施行、2課7係が設置される。 微生物課(①庶務係、②細菌検査係、③臨床検査係、④ウイルス検査係) 理化学課(①食品検査係、②水質検査係、③環境検査係)
昭和45.6	川崎市衛生研究所新庁舎の開庁式が挙行される。
昭和46.3	川崎市衛生研究所条例の一部を改正する条例が公布される。(昭和46年3月23日条例第6号)
昭和46.8	川崎市衛生研究所放射線障害予防規程(昭和46年7月29日訓令第14号)が施行される。
昭和46.10	川崎市事務分掌規則の改正(昭和46年10月15日規則第71号)により、1室、2課6係となる。同時に川崎市役所機構改革により公害局公害研究所が新設され、庁舎共同使用となる。
昭和47.4	川崎市が指定都市に指定される。(地方自治法第252条の19第1項)
昭和48.12	公害研究所が新庁舎建設に伴い移転する。
昭和50.4	川崎市衛生研究所条例が一部改正施行される。(昭和50年4月1日条例第6号) 川崎市衛生研究所条例施行規則が全面改正施行される。(昭和50年4月1日規則第21号)
昭和50.7	4階に実験室を増築する。
昭和61.10	川崎市事務分掌規則等の一部改正により、課、係制を廃止し、主幹・主査制を導入する。
平成元.3	1階に安全実験室を設置する。
平成3.3	電子顕微鏡室を設置する。
平成4.3	3階に有機溶媒排気装置を設置する。
平成4.4	川崎市事務分掌規則等の一部改正により、事務分掌の内容を変更する。
平成4.5	主査(衛生動物検査担当)及び主査(残留農薬検査担当)を増設する。
平成6.4	川崎市衛生研究所条例が一部改正施行される。(平成6年3月30日条例第13号)
平成6.7	川崎市衛生研究所条例が一部改正施行される。(平成6年3月30日条例第6号) 手数料(第7条関係別表)を大幅に改定する。
平成9.5	神奈川県から医薬品検査業務が本市に移管されたことに伴い、4階に医薬品検査施設を増設する。
平成10.4	川崎市衛生研究所条例が一部改正施行される。(平成10年3月24日条例第4号) 医薬品検査手数料を新設する。
平成12.4	川崎市衛生研究所条例が一部改正施行される。(平成12年3月24日条例第12号) 手数料(第7条関係別表)を一部改定する。
平成16.2	川崎市衛生研究所条例が一部改正施行される。(平成15年12月25日条例第48号)
平成16.3	川崎市衛生研究所条例が一部改正施行される。(平成16年3月24日条例第8号) 川崎市衛生研究所条例が一部改正施行される。(平成18年3月31日条例第34号)
平成20.3	川崎市衛生研究所条例が一部改正施行される。(平成20年3月25日条例第20号)

年月	事項
平成21.4	組織再編により第2類事業所となる。 衛生動物検査部門をウイルス検査部門に統合する。
平成24.4	組織再編により第1類事業所となる。 副所長及び企画調整担当を設置する。 環境検査部門を水質検査部門に統合する。
平成25.2	川崎区殿町3丁目25番13号川崎生命科学・環境研究センター2階に移転する。
平成25.3	平成24年10月10日条例第42号により、川崎市衛生研究所条例が川崎市衛生試験検査手数料条例として一部改正施行される。(名称等の変更) 組織改正により衛生研究所を再編し、健康安全研究所を設置する。 感染症情報センターを健康安全研究所内に設置する。
平成25.4	平成24年10月10日条例第42号により、川崎市衛生研究所条例が川崎市衛生試験検査手数料条例として一部施行される。(手数料の改訂) 企画調整担当課長を設置する。
令和5.4	令和4年10月21日条例第57号により、川崎市衛生試験検査手数料条例が一部改正施行される。(手数料の改訂)

2 施設概要

(1) 川崎生命科学・環境研究センター (LiSE) 施設概要

川崎生命科学・環境研究センター(LiSE; Life Science and Environment research center)は、市の研究施設である「川崎市健康安全研究所」及び「川崎市環境総合研究所」に加え、民間の研究施設が入居した施設であり、殿町国際戦略拠点キングスカイフロントにおける、ライフサイエンス・環境分野の研究開発拠点として建設された。

土地は川崎市、建物は大成建設株式会社が保有し、施設維持管理は大成有楽不動産株式会社が実施するPP(Public Private Partnership)方式が採用されている。

環境に配慮した設計とされており、太陽熱や空気熱を利用した給湯システム、太陽光パネルを用いた電力供給、外壁へのダブルウォール(二重壁)使用による断熱性、メンテナンス性向上等の様々な環境対策が施されている。

表1 川崎生命科学・環境研究センター (LiSE) 建物概要

所在地	〒210-0821 神奈川県川崎市川崎区殿町3-25-13
敷地面積	6,999.93㎡
建築面積	3,110.63㎡
延床面積	11,406.09㎡(うち健康安全研究所使用部分2329.38㎡)
構造	鉄筋コンクリート造、鉄骨造
規模	地上4階、塔屋1階(うち健康安全研究所として2階フロアを使用)
竣工年月	2012年12月
設計・監理	大成建設株式会社一級建築士事務所
施工	大成建設株式会社横浜支店
建物所有	大成建設株式会社
建物維持管理	大成有楽不動産株式会社
主な施設	1F カフェ、防災センター、会議室、書庫、セミナー室等 2F 川崎市健康安全研究所 3F 川崎市環境総合研究所 4F 民間ラボ

(2) 川崎市健康安全研究所の移転開設について

本研究所は平成25年3月、川崎区大島5丁目から、川崎区殿町3丁目の川崎生命科学・環境研究センター(LiSE)2階に移転開設し、名称が「川崎市衛生研究所」から「川崎市健康安全研究所」に変更された。

移転時には、企画調整担当の新設に加え、感染症情報の収集・解析・発信を行う感染症情報センター機能を

健康福祉局健康安全室(現在の健康福祉局保健所)から移管するなど、移転開設に併せて研究所機能の強化が図られた。

研究所の役割は、川崎市の衛生行政を支える科学的・技術的中核機関として、試験検査、調査研究、情報発信、研修指導の4本柱を基盤とし、市民の健康で安全な暮らしを支えることを目的としているほか、国立医薬品食品衛生研究所をはじめとする殿町地区内外の研究機関との共同研究にも力を注いでいる。

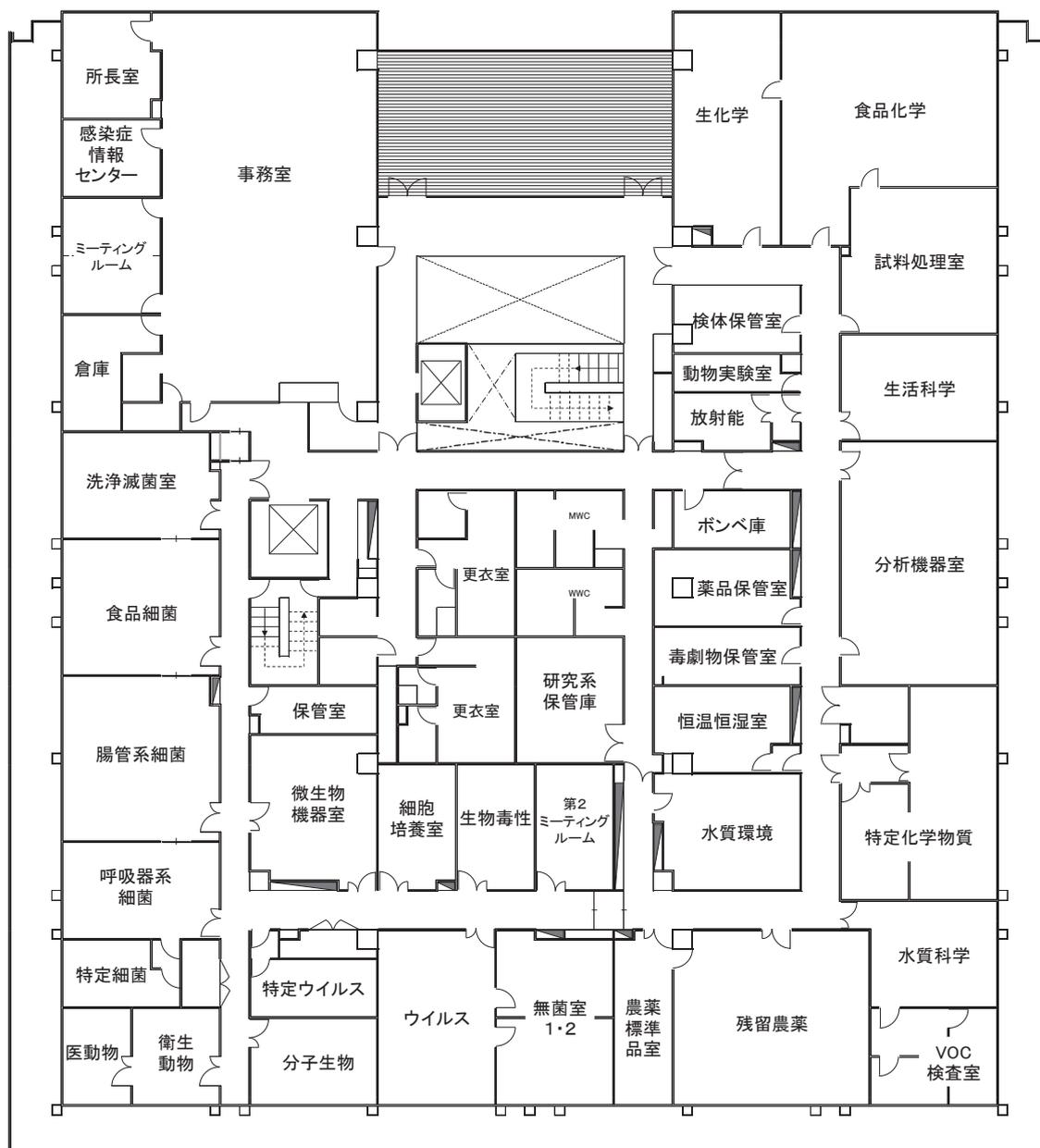
(3) 健康安全研究所施設概要

研究所施設は川崎生命科学・環境研究センター(LiSE)の2階フロア全体を占め、理化学エリア、微生物エリアの他、事務室及び感染症情報センターの4エリアで構成されている。

旧施設の衛生研究所では、事務担当以外の職員の事務机はそれぞれの検査室に配置されていたが、健康安全研究所では全ての職員について、事務室に事務机を配置し、情報の共有化が図りやすい環境となった。

また、それぞれのエリアではICカードによる入室管理が行われている。特に理化学エリア及び微生物エリアは2次セキュリティのフロアとなっており、また入室の権限についても個人ごとに別々に付与されているため、たとえ職員であっても不要な諸室には入室できないようになっている。

図1 健康安全研究所図面(川崎生命科学・環境研究センター(LiSE)2階)



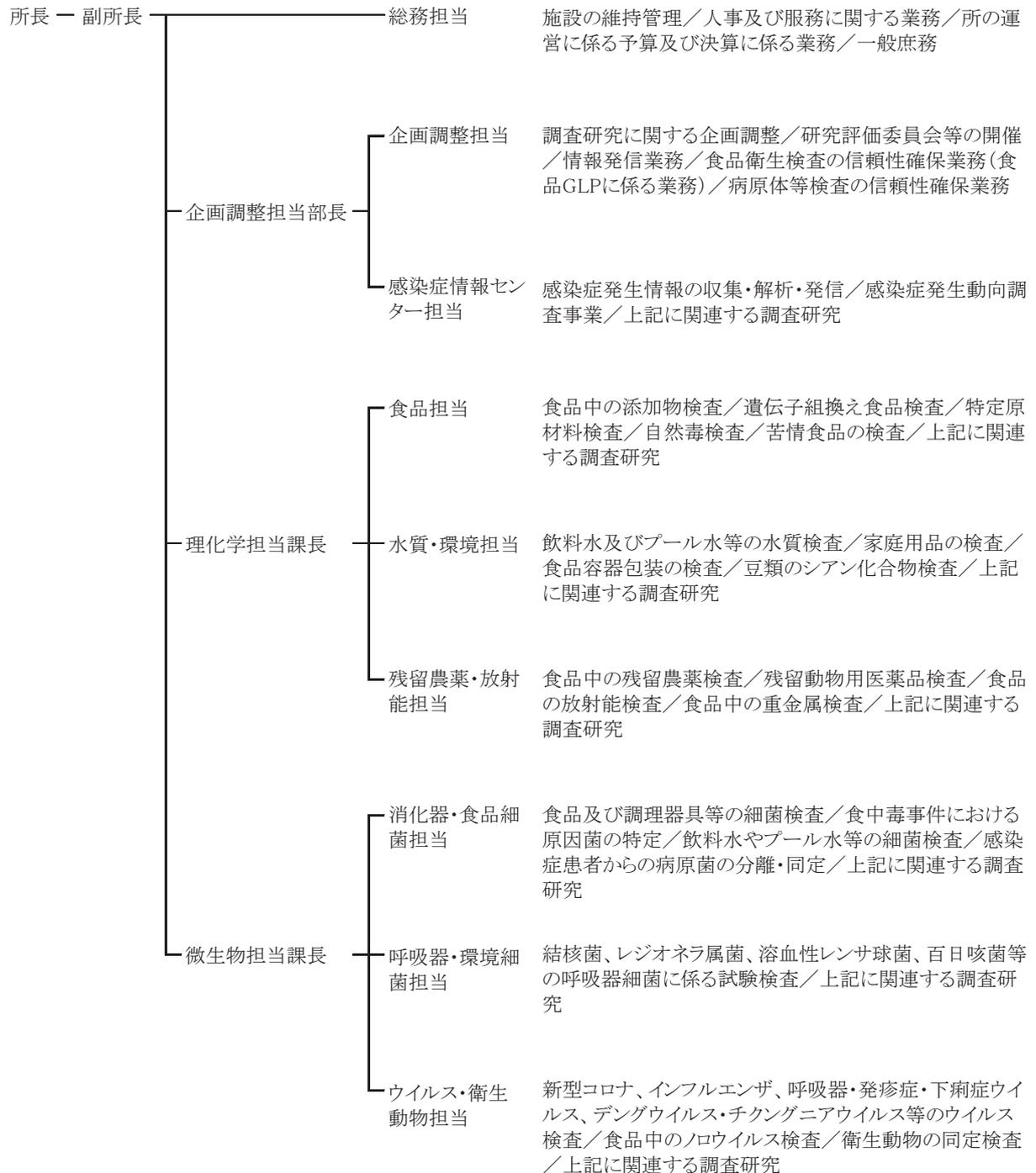
3 組織

(1) 組織と業務

本研究所の組織は、所長のもとに9担当で構成されている。

組織体制と各担当の主な業務を図2に示す。

図2 組織図



(2) 事務分掌

川崎市事業所事務分掌規則(昭和 51 年 4 月 30 日規則第 39 号)第 3 条の事務分掌は、次のとおりとする。

健康安全研究所

- ア 所の維持管理に関すること。
- イ 試験検査の企画、調査及び統計に関すること。
- ウ 公衆衛生従事者の研修に関すること。
- エ 感染症情報センターに関すること。
- オ 微生物学的試験検査及び調査研究に関すること。
- カ 衛生動物の試験検査及び調査研究に関すること。
- キ 理化学的試験検査及び調査研究に関すること。
- ク その他公衆衛生上必要な試験検査及び調査研究に関すること。

(3) 人員配置

令和 5 年 4 月 1 日現在の人員配置を表 2 に示す。

表2 人員配置

		職種						
		医師	一般事務	獣医師	薬剤師	臨床検査技師	化学	総数
所長		1						1
副所長				1				1
総務			4					4
企画調整	担当部長	1						1
	企画調整			1	1			2
	感染症情報センター			1	2			3
理化学	担当課長			1				1
	食品			1	3		1	5
	水質・環境				2		3	5
	残留農薬・放射能				1	2	1	4
微生物	担当課長				1			1
	消化器・食品細菌			1	2	2		5
	呼吸器・環境細菌				1	2		3
	ウイルス・衛生動物			2	2	2		6
合計		2	4	8	15	8	5	42

4 予算及び決算

令和5年度の歳入及び歳出をそれぞれ表3及び表4に示す。

表3 歳入

単位:円

款項目	節	予算額	決算額
使用料及び手数料			
手数料			
健康福祉手数料	保健衛生施設手数料	477,295,000	76,969,140
諸収入			
雑入			
弁償金	健康福祉費弁償金	0	222,420
雑入	健康福祉費雑入	7,630,000	1,575,468

表4 歳出

単位:円

款項目	節	予算額	決算額
健康福祉費			
保健衛生施設費			
健康安全究所費		695,934,000	559,393,090
	報酬	4,238,000	2,111,324
	給料	878,000	867,600
	職員手当等	162,000	138,600
	共済費	0	0
	報償費	327,000	140,000
	旅費	939,000	850,542
	需用費	155,288,000	67,480,046
	消耗品費	151,242,000	65,026,256
	燃料費	16,000	12,135
	印刷製本費	969,000	949,135
	光熱水費(ガス料)	35,000	29,520
	修繕費	3,026,000	1,463,000
	役務費	1,291,000	921,782
	電信電話料	122,000	122,474
	通信回線料	28,000	27,490
	郵便料	290,000	282,538
	運搬料	5,000	0
	手数料	846,000	489,280
	委託料	51,873,000	47,538,095
	使用料及び賃借料	213,594,000	204,269,495
	備品購入費	205,589,000	190,086,259
	負担金補助及び交付金	61,755,000	44,989,347

5 学会参加並びに視察対応等の実績

(1) 学会・研究会等出席実績

年月日	名称	場所
R5.4.14～16	第126回日本小児科学会学術集会	グランドプリンスホテル新高輪 国際館パミール 及びグランドプリンスホテル高輪
R5.4.22～23	第31回日本医学会総会	東京国際フォーラム
R5.4.28～30	第97回日本感染症学会総会・学術講演会・ 第71回日本化学療法学会学術集会合同学会	パシフィコ横浜ノース、オンライン
R5.5.18	第12回小児呼吸器ウイルス感染症研究会	オンライン
R5.6.5	日本食品衛生学会 令和5年度総会・公開シンポジウム	中央区立日本橋公会堂
R5.6.8～9	日本食品化学学会 第29回総会・学術大会	富山国際会議場
R5.6.10～6.11	第97回日本結核・非結核性抗酸菌症学会総会・学術講演会	京王プラザホテル
R5.6.16～18	第70回日本小児保健協会学術集会	川崎市コンベンションホール
R5.6.30、7.24、 8.30、9.29、11.7、 11.28、12.12、 12.22、R6.1.23、 1.26、3.6	バイオアナリシスフォーラム(JBF) DG2023	オンライン、川崎生命科学・環境研究センター
R5.7.5	オフフレーバー研究会第13回勉強会	東京家政大学
R5.7.5～6	衛生微生物技術協議会第43回研究会	じゅうろくプラザ
R5.7.20～22	第38回日本環境感染症学会総会・学術集会	パシフィコ横浜ノース
R5.8.28～30	日本防菌防黴学会 第49回年次大会	千里ニュータウン
R5.9.2	第5回SFTS研究会学術集会	宮崎大学(オンライン参加)
R5.9.5	地域保健総合推進事業 理化学関東甲信静ブロック会議	オンライン
R5.9.9～10	第32回日本外来小児科学会年次集会	パシフィコ横浜
R5.9.21～22	第44回日本食品微生物学会学術総会	大阪公立大学中百舌鳥キャンパス
R5.9.25～11.10	全国疫学情報ネットワーク構築会議	オンライン
R5.9.27	第70回日本ウイルス学会学術集会	仙台国際センター
R5.9.28～29	令和5年度第37回関東甲信静支部ウイルス研究部会	東京都健康安全研究センター
R5.10.12～13	日本食品衛生学会第119回学術講演会	タワーホール船堀
R5.10.21～22	第27回日本ワクチン学会・ 第64回日本臨床ウイルス学会合同学術集会	ホテルアソシア静岡
R5.10.25～27	第72回日本感染症学会東日本地方会学術集会・ 第70回日本化学療法学会東日本支部総会 合同学会	東京ドームホテル
R5.10.31～11.2	第82回日本公衆衛生学会総会	つくば国際会議場

R5.11.3	第69回日本新生児成育医学会・学術集会	パシフィコ横浜
R5.11.4～6	Master Class in Vaccinology (ワクチン学マスタークラス)2023	台北(台湾)
R5.11.9～10	第60回全国衛生化学技術協議会年会	ホテル福島グリーンパレス コラッセふくしま
R5.11.12	日本食品化学学会 第39回食品化学シンポジウム	Shimadzu Tokyo Innovation Plaza
R5.11.14～17	世界小児感染症学会(The World Society for Pediatric Infectious Diseases:WSPID)2023	ダーバン(南アフリカ)
R5.11.18	第91回神奈川県感染症医学会	神奈川県立かながわ労働プラザ
R5.11.20	第69回神奈川県公衆衛生学会	オンライン
R5.11.22	令和5年度地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部 第13回公衆衛生情報研究部会総会・研究会	千葉市役所
R5.11.24	令和5年度地方衛生研究所全国協議会近畿支部 自然毒部会研究発表会	オンライン
R5.11.25～26	第55回日本小児感染症学会総会・学術集会	名古屋国際会議場
R5.12.2～3	日本性感染症学会第36回学術大会	学術総合センター
R6.1.25～26	第37回公衆衛生情報研究協議会総会・研究会	国立保健医療科学院
R6.2.5～7	第15回JBFシンポジウム	京都市勧業館みやこめっせ
R6.2.8～9	第35回地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部 細菌研究部会総会・研究会	高崎市総合保健センター
R6.2.9	令和5年度地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部 第34回理化学研究部会総会・研究会	アクトシティ浜松コンgresセンター
R6.2.9～11	第35回日本臨床微生物学会総会・学術集会	パシフィコ横浜 ノース
R6.2.16	食品衛生学会特別シンポジウム	日本橋社会教育会館
R6.2.18	第23回食物アレルギー研究会	オンライン
R6.2.18	第15回予防接種に関する研究報告会	リロの会議室コンフォート新宿
R6.3.6～3.8	第58回日本水環境学会年会	九州大学伊都キャンパス
R6.3.22	第27回下水道疫学研究会	オンライン

(2) 講習会・研修会等受講実績

年月日	名称	場所
R5.4.20	関東化学Webセミナー 「薬品の取扱いについて - 毒物及び劇物取締法編 -」	オンライン
R5.4.20	サーモフィッシャーサイエンティフィック 環境分析Webセミナー	オンライン
R5.4.24	地衛研Webセミナー	オンライン
R5.4.24～27	AOACセミナー「ISO/IEC 17025の基礎と活用」	オンデマンド配信視聴
R5.4.25	林純薬工業株式会社 試薬のもっと上手な使い方～その① 秤量のポイントとテクニック 水道水質・環境分析セミナー	オンライン
R5.4.26	林純薬工業株式会社 試薬のもっと上手な使い方～その②	オンライン
R5.4.26	アジレントテクノロジー環境分析セミナー	オンライン
R5.5.17	島津水道水質分析セミナー	Shimadzu Tokyo Innovation Plaza
R5.5.23～24	バイオセーフティ研修	千葉
R5.5.30	Web研修17-18生命・医学系指針の改正概要について	オンライン
R5.6.7	新感染症サーベイランスシステム説明会	オンライン
R5.6.15	令和5年度病原体等の包装・運搬講習会	国立感染症研究所戸山庁舎
R5.6.15	関東化学Webセミナー 「標準物質「食物アレルギー抽出物」を用いた検査法のご提案」	オンライン
R5.6.16	認定産業医研修会	神奈川県産業保健総合支援センター
R5.6.19	令和5年度防護服等研修	川崎市健康安全研究所
R5.6.22～23	蚊類調査研修	国立感染症研究所戸山庁舎
R5.6.23	理化学試験の基礎実技研修	(公社)日本食品衛生協会 食品衛生研究所 試験検査センター
R5.6.30	令和5年度食品衛生検査施設 信頼性確保部門責任者等研修会	三田共用会議所
R5.7.3	認定産業医研修会	神奈川県産業保健総合支援センター
R5.7.14	エッペンドルフ ピペット講習	エッペンドルフ株式会社東京本社
R5.7.19	LCメンテナンス講習会	Shimadzu Tokyo Innovation Plaza
R5.7.25	特別管理産業廃棄物管理責任者講習会	オンライン、修了試験(Lプラザ)
R5.7.28	一般財団法人食品薬品安全センター FDSC食品衛生精度管理セミナー	大田区産業プラザPiO
R5.8.22	川崎市健康安全研究所職員研修会(倫理研修会)	川崎生命科学・環境研究センター
R5.8.30	AJACSオンライン17「質量分析データを解析に活用する」	オンライン
R5.9.5	JBCO技能試験2022理化学試験フォローアップセミナー	オンライン

R5.9.9	感染対策向上加算に係る新興・再興感染症発生等想定訓練	市立多摩病院
R5.9.13	第30回日本免疫毒性学会学術年会・公開シンポジウム	川崎生命科学・環境研究センター
R5.9.14	令和5年度ガラス器具取扱い講習会	川崎生命科学・環境研究センター
R5.9.15	キングスカイフロントネットワーク協議会 「新たな化学物質規制について」	川崎生命科学・環境研究センター
R5.9.26～28	令和5年度薬剤耐性菌の検査に関する研修	国立感染症研究所村山庁舎
R5.9.28	令和5年度薬剤耐性菌の検査に関する研修 (アップデートコース)	オンライン
R5.9.29	感染症危機管理研修会	オンライン
R5.9.30	感染対策向上加算に係る新興・再興感染症発生等想定訓練	中原区役所
R5.10.12～18	令和5年度国立保健医療科学院新興再興感染症技術研修	国立感染症研究所村山庁舎
R5.10.17	令和5年度「地域保健総合推進事業」 関東甲信静ブロック地域専門家会議講演 「関東のマダニ分布の更新： 動物から動物へリレーされるマダニの拡散」	オンライン
R5.10.27	第31回腸内フローラシンポジウム(腸内フローラと感染症制御)	ニューピアホール
R5.10.30～11.17	令和5年度国立保健医療科学院ウイルス研修	国立感染症研究所村山庁舎
R5.11.15	消費者庁他 食品に関するリスクコミュニケーション (食品中の放射性物質と復興の歩み)	オンライン
R5.12.1	日本食品衛生協会 食品中の残留農薬等に関するリスクコミュニケーション	新橋カンファレンスセンター
R5.12.4	MALDI-TOF MS(質量分析)を用いた酵母・糸状菌の 迅速同定の技術研修	理化学研究所バイオリソース研究センター 微生物材料開発室
R5.12.9	第27回SRL感染症フォーラム	JPタワーホール
R5.12.9～10	日本食品微生物学会技術セミナー(東日本)	麻布大学
R5.12.12	令和5年度神奈川県食品衛生監視員研修 (食品監視コース・後期)	横浜検疫所
R5.12.14	認定産業医研修会	神奈川県産業保健総合支援センター
R5.12.20	結核菌ゲノム解析研修会	川崎市健康安全研究所
R6.1.11	関東甲信静ブロック地域専門家会議	オンライン
R6.1.12	内閣感染症危機管理統括庁主催シンポジウム	東京国際フォーラム
R6.1.12	食品安全と食品防御に関する研修会	川崎市役所本庁舎及びオンライン
R6.1.17～18	動物由来感染症リファレンスセンター研修会	国立感染症研究所村山庁舎
R6.1.18	令和5年度第3回感染症危機管理研修会	オンライン
R6.1.18～19	令和5年度公衆衛生実務者研修 「遺伝子検査法について～PCRから塩基配列解析まで～」	神奈川県衛生研究所
R6.1.23	令和5年度地方衛生研究所全国協議会 理化学部会理化学分野研修会	オンライン

R6.1.25	神奈川県衛生研究所 衛生検査基礎技術研修(化学検査の基礎)	オンライン
R6.1.30	令和5年度高津区役所地域みまもり支援センター職員研修会	高津区役所
R6.2.7	令和5年度水道水質検査精度管理に関する研修会	オンライン
R6.2.8	厚生労働省実験動物管理者等研修会	オンライン
R6.2.13	令和5年度健康危機管理基礎研修	本庁舎
R6.2.14～15	令和5年度 希少感染症診断技術研修会	オンライン
R6.2.16	FETPアラムナイリフレッシュメント研修	オンライン
R6.2.23	認定産業医研修会	神奈川産業保健総合支援センター
R6.3.4	認定産業医研修会	神奈川産業保健総合支援センター
R6.3.4～6	神奈川県衛生研究所主催 「残留動物用医薬品検査について」	神奈川県衛生研究所
R6.3.8	神奈川県公衆衛生専門技術研修	神奈川県衛生研究所
R6.3.12	食品内で発見される昆虫等に関する検査技術研修会	オンライン
R6.3.12	神奈川県衛生研究所主催 「食品検査における業務管理(GLP)について」	神奈川県衛生研究所
R6.3.12～14	神奈川県衛生研究所主催 「食品中の指定・指定外着色料検査について」	神奈川県衛生研究所
R6.3.13	病原体検査訓練	川崎市健康安全研究所
R6.3.14	神奈川県水道水質検査機関技術研修会	波止場会館(横浜市)

(3) 会議等出席実績

年月日	名称	場所
R5.4.4	新型インフルエンザ等対策推進会議	書面開催
R5.4.4	日本学会会議 第二部大規模感染症予防・制圧体制検討分科会 (第25期・第23回)	オンライン
R5.4.5	第120回新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード	オンライン
R5.4.10	麻しん・風しん排除認定会議	オンライン
R5.4.11	KAWASAKI地域感染制御協議会	ソリッドスクエア
R5.4.19	第121回新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード	厚生労働省
R5.4.21	厚生労働行政推進調査事業費補助金(新興・再興感染症及び予防 接種政策推進研究事業)「一類感染症等の患者発生時に備えた臨 床対応及び行政との連携体制の構築のための研究」令和5年度 キックオフミーティング	オンライン
R5.4.21	第72回埼玉県新型感染症専門家会議	オンライン
R5.4.28	第54回川崎市新型コロナウイルス感染症対策本部会議	川崎市役所第3庁舎
R5.4.28	第93回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部 会、令和5年度第1回薬事・食品衛生審議会薬事分科会医薬品等 安全対策部会安全対策調査会(合同開催)	オンライン
R5.5.8	慶應・東邦プログラム管理委員会	オンライン
R5.5.8	令和5年度第1回神奈川県外部精度管理調査委員会	メール会議
R5.5.10	令和5年度第1回茨城県感染症対策連携協議会	茨城県庁
R5.5.17	公益財団法人予防接種リサーチセンター理事会	オンライン
R5.5.17	令和5年度第1回川崎市新型インフルエンザ等対策検討委員会	ソリッドスクエア
R5.5.19	神奈川県公衆衛生協会令和5年度第1回企画・学術部会	オンライン
R5.5.24	令和5年度第1回川崎市予防接種運営委員会事故対策部会	ソリッドスクエア
R5.5.25	令和5年度第1回東京都感染症予防検討委員会	東京都医師会館
R5.5.26	板橋区予防接種健康被害調査委員会	板橋区保健所
R5.5.26	令和5年度厚生労働科学研究費補助金(食品の安全確保推進研究 事業)「食中毒原因細菌の検査法の整備のための研究」(工藤班)班 会議	国立医薬品食品衛生研究所
R5.6.1	第6回麻しん・風しん排除認定会議	オンライン
R5.6.1	令和5年度厚生労働科学研究費補助金(健康安全・危機管理対策 総合研究事業)「公衆浴場の衛生管理の推進のための研究」(前川 班)班会議	オンライン
R5.6.2	令和5年度地方衛生研究所全国協議会臨時総会	オンライン
R5.6.6	令和5年度厚生労働科学研究費補助金(食品の安全確保推進研究 事業)「ウエルシュ菌食中毒の制御のための検査法の開発及び汚染 実態把握のための研究」(大西班)分担研究班会議	国立医薬品食品衛生研究所

R5.6.7	令和5年度厚生労働科学研究費補助金(食品の安全確保推進研究事業)「国内流通食品に検出されるカビ毒に対する安全性確保の方策の確立に資する研究」班会議	国立医薬品食品衛生研究所
R5.6.9	日韓グローバルヘルス政策対話	衆議院第一議員会館
R5.6.13	第73回埼玉県新型コロナウイルス感染症専門家会議	埼玉県庁
R5.6.20~23	第32回WHO/WPRO/TAG-VPD(WHO西太平洋地域/ワクチンで予防可能な疾患に関する技術専門家会議	マニラ(フィリピン)
R5.6.26	港区感染症対策協議会	港区みなと保健所
R5.6.28	RSウイルス感染症サーベイランスシステムの整備・流行動態解明および病態形成・重症化因子の解明に関する開発研究 キックオフミーティング	オンライン
R5.7.4	令和5年度厚生労働科学研究費補助金(食品の安全確保推進研究事業)「新型コロナウイルス感染症対策に取り組む食品事業者における食品防御の推進のための研究」(今村班)班会議	オンライン
R5.7.5	衛生微生物技術協議会総会	じゅうろくプラザ(岐阜県)
R5.7.5	衛生微生物技術協議会合同会議 (理事会、検査情報委員会、レファレンス委員会)	じゅうろくプラザ(岐阜県)
R5.7.7	令和5年度第77回地方衛生研究所全国協議会 関東甲信静支部総会	オンライン
R5.7.7	第123回新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード	オンライン
R5.7.14	令和5年度第1回川崎市予防接種運営委員会	川崎市医師会館
R5.7.19	令和5年度公衆衛生情報研究協議会第1回理事会	オンライン
R5.7.20	日本環境感染学会COVID-19対策委員会	パシフィコ横浜ノース
R5.7.24	神奈川県公衆衛生協会令和5年度第2回企画・学術部会	オンライン
R5.7.26	AMED(新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業)「ワクチンで予防可能な疾病のサーベイランス及びワクチン効果の評価に関する研究」(鈴木班)2023年度班会議	オンライン
R5.7.27	東京都感染症予防検討委員会	オンライン
R5.7.27	令和5年度第2回神奈川県感染症対策協議会	オンライン
R5.7.28	第94回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会、令和5年度第5回薬事・食品衛生審議会薬事分科会医薬品等安全対策部会安全対策調査会(合同開催)	オンライン
R5.7.28	日中笹川医学奨学金制度35周年記念行事	北京
R5.7.31	令和5年度第1回研究・調査企画会議事後評価部会	食品安全委員会
R5.8.1	厚生労働科学研究費補助金(食品の安全確保推進研究事業)「食品用器具・容器包装等の安全性確保に資する研究」班会議	東京都健康安全研究センター
R5.8.2	AMED(新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業)「薬剤耐性菌のサーベイランス強化および薬剤耐性菌の総合的な対策に資する研究」(菅井班)班会議	オンライン
R5.8.3	令和5年度第2回川崎市予防接種運営委員会事故対策部会	ソリッドスクエア

R5.8.4	第124回新型コロナウイルス感染症対策アドバイザーボード	オンライン
R5.8.4	令和5年度第2回研究・調査企画会議事後評価部会	食品安全委員会
R5.8.5	日本公衆衛生協会令和5年度地域保健総合推進事業「自治体における感染症対策の計画的な体制整備に関する調査研究」(角野班) 班会議	滋賀県庁
R5.8.9	令和5年度第2回茨城県感染症対策連携協議会	オンライン
R5.8.9	令和5年度第1回川崎市感染症対策協議会	川崎市医師会館
R5.8.19	令和5年度厚生労働行政推進調査事業費補助金(新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業)「一類感染症等の患者発生時に備えた臨床対応及び行政との連携体制の構築のための研究」(加藤班) 班会議	オンライン
R5.8.22	大阪大学感染症総合教育研究拠点第2回アドバイザーボード委員会・外部評価委員会	大阪大学
R5.8.24	町田市予防接種健康被害調査委員会	町田市役所
R5.8.25	令和5年度第1回川崎市健康福祉研究発表会運営委員会	市立看護大学
R5.9.7～8	令和5年度指定都市衛生研究所長会議	北九州市総合保健福祉センター
R5.9.8	KAWASAKI地域感染制御協議会	市立多摩病院
R5.9.12	令和5年度厚生労働科学研究費補助金(新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業)「感染症の病原体を保有していないことの確認方法の確立及び志賀毒素産生性大腸菌による溶血性尿毒症症候群に関するガイドライン整備のための研究」(伊藤班) 班会議	オンライン
R5.9.12	麻疹風疹レファレンスセンター担当者的会議	オンライン
R5.9.13	令和5年度厚生労働行政推進調査事業費補助金(新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業)「医療デジタルトランスフォーメーション時代の重層的な感染症サーベイランス体制の整備に向けた研究」(砂川班) 播磨グループ研究班会議	オンライン
R5.9.13	三重県企画調整選定委員会	オンライン
R5.9.13	第74回埼玉県新型コロナウイルス感染症専門家会議	埼玉県庁
R5.9.20～22	第16回東南アジア・ポリオ根絶地域認証委員会(South-East Asia Regional Certification Commission for Polio Eradication :SEA-RCCPE) 会議	オンライン
R5.9.25	令和5年度第2回川崎市新型インフルエンザ等対策検討委員会	オンライン
R5.9.28	東京都感染症予防検討委員会	東京都医師会館
R5.9.29	令和5年度第3回研究・調査企画会議事後評価部会	食品安全委員会
R5.10.2	令和5年度首都圏地方感染症情報センター連絡会(第1回)	オンライン
R5.10.2	令和5年度第1回川崎市感染症発生動向調査委員会	川崎市役所本庁舎及びオンライン
R5.10.4	令和5年度第3回神奈川県感染症対策協議会	オンライン
R5.10.12	令和5年度第1回日本ポリオ根絶会議	厚生労働省
R5.10.17	千葉大学真菌医学研究センター運営協議会	オンライン

R5.10.17	令和5年度第2回川崎市地域感染症対策ネットワーク委員会	オンライン
R5.10.18	令和5年度神奈川県内衛生研究所等連絡協議会所長会	藤沢市保健所
R5.10.18	令和5年度 食品・添加物規格基準に関する試験検査等 食品中の食品添加物分析法の検討 班会議	オンライン
R5.10.19	令和5年度第3回川崎市予防接種運営委員会事故対策部会	ソリッドスクエア
R5.10.24	令和5年度厚生労働行政推進調査事業費補助金(新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業)「一類感染症等の患者発生時に備えた臨床対応及び行政との連携体制の構築のための研究」(加藤班)班会議	オンライン
R5.10.25	川崎港保健衛生協議会担当者会議	かわさきファズ物流センター管理棟
R5.10.30	令和5年度第74回地方衛生研究所全国協議会総会	つくば国際会議場
R5.10.31	町田市予防接種健康被害調査委員会	書面開催
R5.10.31	令和5年度厚生労働科学研究費補助金(食品の安全確保推進研究事業)「食中毒原因細菌の検査法の整備のための研究」(工藤班)班会議	国立医薬品食品衛生研究所
R5.11.7～8	Global Health and Welfare Forum in Taiwan(台湾におけるグローバル保健福祉フォーラム)2023	台北(台湾)
R5.11.16	令和5年度第6回神奈川県感染症対策協議会	オンライン
R5.11.17	令和5年度第1回県・市感染症情報センター連絡調整会議	神奈川県衛生研究所
R5.11.17	令和5年度厚生労働科学研究費補助金(健康安全・危機管理対策総合研究事業)「公衆浴場の衛生管理の推進のための研究」(前川班)班会議	オンライン
R5.11.18	神奈川県感染症医学会理事会	神奈川県立かながわ労働プラザ
R5.11.22	令和5年度第3回茨城県感染症対策連携協議会	オンライン
R5.11.22～23	第24回ポリオ根絶認証世界委員会(GCC:Global Certification Commission 国際認証委員会)	ジュネーブ(スイス)
R5.11.28～30	第29回西太平洋ポリオ根絶地域委員会	マニラ(フィリピン)
R5.12.13	社会医学系専門医協会試験分科会Web会議	オンライン
R5.12.20	学校法人日本大学評議員会	オンライン
R5.12.21	AMED(新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業)「麻疹・風疹排除に資する持続可能なサーベイランスに関する研究」(森班)班会議	オンライン
R5.12.21	町田市予防接種健康被害調査委員会	町田市役所
R5.12.27	令和5年度第4回川崎市予防接種運営委員会事故対策部会	ソリッドスクエア
R6.1.12	第9回連携・協力に関する協議会	国立医薬品食品衛生研究所
R6.1.15	令和5年度厚生労働科学研究費補助金(新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業)「感染症の病原体を保有していないことの確認方法及び志賀毒素産生性大腸菌による溶血性尿毒症症候群に関するガイドライン整備のための研究」(伊藤班)班会議	オンライン

R6.1.17	令和5年度厚生労働科学研究費補助金(食品の安全確保推進研究事業)「食品用器具・容器包装等の安全性確保に資する研究」班会議	国立医薬品食品衛生研究所
R6.1.17	令和5年度厚生労働行政推進調査事業費補助金(新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業)「感染症予防計画のフォローアップ及び感染症指定医療機関の施設基準の見直しの検討に資する研究」(岡部班)班会議	オンライン
R6.1.20	日本公衆衛生協会令和5年度地域保健総合推進事業「自治体における感染症対策の計画的な体制整備に関する調査研究」(角野班)班会議	オンライン
R6.1.23	CHANGE全体会議	島津製作所(Shimadzu Tokyo Innovation Plaza)
R6.1.23	社会医学系専門医協会試験分科会Web会議	オンライン
R6.1.25	文部科学省科学研究費助成事業「コロナ禍への対応の実証分析を踏まえた保健所の組織・運営のあり方に関する研究」(幸田班)班会議	オンライン
R6.1.25	令和5年度公衆衛生情報研究協議会第2回理事会	国立保健医療科学院
R6.1.26	第100回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会、令和5年度第15回薬事・食品衛生審議会薬事分科会医薬品等安全対策部会安全対策調査会(合同開催)	オンライン
R6.1.30	令和5年度県内衛生研究所等における平常時連携に係る検討委員会	オンライン
R6.2.1	令和5年度厚生労働行政推進調査事業費補助金(新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業)「一類感染症等の患者発生時に備えた臨床対応及び行政との連携体制の構築のための研究」(加藤班)班会議	オンライン
R6.2.1	港区感染症対策協議会	みなと保健所
R6.2.2	令和5年度厚生労働行政推進調査事業費補助金(新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業)「新型コロナウイルス対策における抗原定性検査キットの活用実態とその影響についての研究」(岡部班)班会議	厚生労働省
R6.2.4	AMED(新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業)「既存ワクチンの有用性検証および今後の予防接種施策の向上に資する基礎的・臨床的・疫学的研究」(菅班)班会議	オンライン
R6.2.5	令和5年度第7回神奈川県感染症対策協議会	オンライン
R6.2.6	令和5年度厚生労働行政推進調査事業費補助金(新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業)「一類感染症等の患者発生時に備えた臨床対応及び行政との連携体制の構築のための研究」(加藤班)班会議	オンライン
R6.2.6	令和5年度 第2回神奈川県外部精度管理調査委員会	メール会議
R6.2.7	令和5年度第2回川崎市予防接種運営委員会	川崎市医師会館
R6.2.7	令和5年度厚生労働科学研究費補助金(食品の安全確保推進研究事業)「新型コロナウイルス感染症対策に取組む食品事業者における食品防御の推進のための研究」(今村班)班会議	オンライン
R6.2.13	千葉大学真菌医学研究センター運営協議会	オンライン
R6.2.13	令和5年度動物由来感染症対策検討会	神奈川県動物愛護センター

R6.2.13	令和5年度第5回川崎市予防接種運営委員会事故対策部会	ソリッドスクエア
R6.2.14	大阪大学感染症総合教育研究拠点(CiDER)外部評価委員会	オンライン
R6.2.14~15	希少感染症診断技術研修会	オンライン
R6.2.16	令和5年度神奈川県感染症発生動向調査解析委員会	オンライン
R6.2.20	令和5年度第3回川崎市地域感染症対策ネットワーク委員会	川崎市役所
R6.2.21	文部科学省科学研究費助成事業「コロナ禍への対応の実証分析を踏まえた保健所の組織・運営のあり方に関する研究」(幸田班)班会議	オンライン
R6.2.26	令和5年度健康危機管理基礎研修会終了後検討会	本庁舎
R6.3.1	令和5年度神奈川県内衛生研究所等連絡協議会微生物情報部会	ウェルネスさがみはら
R6.3.1	令和5年度神奈川県内衛生研究所等連絡協議会理化学情報部会	横浜市衛生研究所
R6.3.5	川崎港保健衛生協議会総会	かわさきファズ物流センター管理棟
R6.3.6	令和5年度厚生労働科学研究費補助金(食品の安全確保推進研究事業)「ウエルシュ菌食中毒の制御のための検査法の開発及び汚染実態把握のための研究」(大西班)分担研究班会議	国立医薬品食品衛生研究所
R6.3.6	公益財団法人予防接種リサーチセンター理事会	予防接種リサーチセンター
R6.3.6	令和5年度第4回茨城県感染症対策連携協議会	オンライン
R6.3.7	令和5年度結核対策推進会議	オンライン
R6.3.8	神奈川県公衆衛生学会企画・学術部会	オンライン
R6.3.12	令和5年度厚生労働行政推進調査事業費補助金(新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業)「一類感染症等の患者発生時に備えた臨床対応及び行政との連携体制の構築のための研究」(加藤班)班会議	オンライン
R6.3.12	神奈川県感染症医学会理事会	神奈川県立かながわ労働プラザ
R6.3.12	AMED(新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業)「薬剤耐性菌のサーベイランス強化および薬剤耐性菌の総合的な対策に資する研究」(菅井班)班会議	オンライン
R6.3.14	令和5年度新型インフルエンザ等対策の連携及び協力に関する医療関係5団体連携会議	川崎市役所本庁舎
R6.3.14	令和5年度第2回川崎市感染症対策協議会	川崎市役所本庁舎
R6.3.15	令和5年度厚生労働行政推進調査事業費補助金(新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業)「感染症予防計画のフォローアップ及び感染症指定医療機関の施設基準の見直しの検討に資する研究」(岡部班)班会議	三菱総合研究所
R6.3.18	済生会横浜市東部病院カンファレンス	川崎市健康安全研究所
R6.3.21	学校法人日本大学評議員会	日本大学会館
R6.3.21	令和5年度第2回川崎市感染症発生動向調査委員会	川崎市役所本庁舎及びオンライン
R6.3.21	令和5年度厚生労働科学研究費補助金(食品の安全確保推進研究事業)「食中毒原因細菌の検査法の整備のための研究」(工藤班)班会議	国立医薬品食品衛生研究所

R6.3.22	東京都感染症予防検討委員会	東京都医師会
R6.3.22	令和5年度厚生労働科学研究費補助金(新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業)「感染症の病原体を保有していないことの確認方法の確立及び志賀毒素産生性大腸菌による溶血性尿毒症症候群に関するガイドライン整備のための研究」(伊藤班)班会議	オンライン
R6.3.25	AMED(創薬基盤推進研究事業)「新規なバイオ製造法を伴うワクチン等の高度な生産技術に関わる人材育成に資する教育プログラムの作成」班会議	オンライン
R6.3.25	新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード(ADB)大臣懇談会	厚生労働大臣室

(4) 講師派遣実績

年月日	名称	会場
R5.4.13	第25期実地疫学専門家養成コース初期導入研修	国立感染症研究所飯田橋事務所
R5.4.14	効率的かつ効果的な感染対策等に関する研修会	栃木県庁
R5.5.8～9	月例医学研究会	市立函館病院
R5.5.10	病院における院内感染対策実践セミナー	山口グランドホテル
R5.5.11	新型コロナ対応における行政の取り組みセミナー	山口県庁
R5.5.18	社会福祉法人川崎市社会福祉協議会施設部会 保育協議会研修会	エポック中原
R5.5.22	第25期実地疫学専門家養成コース初期導入研修	国立感染症研究所飯田橋事務所
R5.5.22	感染症学講義	名古屋大学医学部
R5.6.5	感染症学講義	北里大学白金キャンパス
R5.7.4	ふれあい子育てサポート事業ヘルパー研修	第4庁舎
R5.7.20	前橋市医師会卒後研修会	オンライン
R5.7.21	麻生区相談支援・ケアマネジメント調整会議・研修	麻生区役所
R5.7.25	感染症学講義	県立保健福祉大学実践研究センター
R5.9.9	感染対策向上加算に係る新興・再興感染症発生等想定訓練	市立多摩病院
R5.9.15	令和5年度感染症集団発生対策研修	国立保健医療科学院
R5.9.30	感染対策向上加算に係る新興・再興感染症発生等想定訓練	中原区役所
R5.10.16	岡山市感染症危機対応訓練プレ訓練	岡山市立市民病院及び 岡山市地域ケア総合推進センター
R5.10.17	岡山市感染症危機対応訓練プレ訓練	岡山市保健福祉会館
R5.10.21	第27回日本ワクチン学会・ 第64回日本臨床ウイルス学会合同学術集会	ホテルアソシア静岡
R5.10.25	第72回日本感染症学会東日本地方会学術集会・ 第70回日本化学療法学会東日本支部総会 合同学会 ICD講習会「withコロナ時代の発熱患者診療」	東京ドームホテル
R5.10.26	第72回日本感染症学会東日本地方会学術集会・ 第70回日本化学療法学会東日本支部総会 合同学会 シンポジウム「新興感染症発生等を想定した訓練の実際」	東京ドームホテル
R5.10.26	令和5年度第2学年ブロック講義(地域医療)	聖マリアンナ医科大学
R5.10.29	2023年度(令和5年度)全国政令市衛生部局長会総会・講演	つくば国際会議場
R5.10.30	つくばブロック保育協議会Web講演会	オンライン
R5.11.2	2023年感染症事例のリスクアセスメント研修会	つくば国際会議場
R5.11.8	昭和薬科大学講義	オンライン

R5.11.15	感染対策向上加算に係る新興・再興感染症発生等想定訓練 プレ訓練	平塚市民病院
R5.11.22	地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部 第13回公衆衛生情報研究部会研究会	千葉市役所
R5.11.27	岡山市感染症危機対応訓練	岡山市立市民病院
R5.11.30	令和5年度動物取扱責任者研修	多摩市民館
R5.12.2	第37回鹿児島感染制御ネットワーク学術講演会	鹿児島県医師会館
R5.12.8	市立多摩病院職員研修会	市立多摩病院
R5.12.16	感染対策向上加算に係る新興・再興感染症発生等想定訓練 本訓練	平塚市民病院
R5.12.19	令和5年度動物取扱責任者研修	第4庁舎
R5.12.21	令和5年度川崎港検疫感染症措置訓練	かわさきファズ物流センター
R6.1.18	令和5年度第3回感染症危機管理研修会	オンライン
R6.1.22	令和5年度「地域保健総合推進事業」地方感染症情報センター 担当者会議	オンライン
R6.1.25	第37回公衆衛生情報研究協議会研究会	国立保健医療科学院
R6.2.4	HPVワクチン接種に係る医療機関向け研修会	オンライン
R6.2.5	次世代育成を考え合う研修会	本庁舎
R6.2.8	第59回川崎市学校保健大会	中原市民館
R6.2.13	令和5年度健康危機管理基礎研修	本庁舎
R6.2.24	2023年度一類感染症セミナー	オンライン
R6.2.29	第318回川崎市小児科医会研究研修会・ 神奈川小児医会共催セミナー	川崎市医師会館
R6.3.16	日本環境感染学会地域セミナー(関東ブロック)	市立多摩病院

(5) 研修指導実績

年月日	内容	対象	人数
R5.4.19	第1回FETP-Kミーティング	実地疫学専門家養成コース(FETP) 初期導入研修修了者	2名
R5.5.17	第2回FETP-Kミーティング	実地疫学専門家養成コース(FETP) 初期導入研修修了者	3名
R5.5.26	大腸菌等の検査法に係る研修	川崎市中央卸売市場食品衛生検査所職員	2名
R5.6.1～7.31	川崎市感染症情報発信システム(KIDSS)の 情報セキュリティに関するeラーニング研修	感染症対策業務に従事する職員	108名
R5.6.28	第3回FETP-Kミーティング	実地疫学専門家養成コース(FETP) 初期導入研修修了者	2名
R5.6.29	令和5年度第1回疫学ミーティング	高津区役所地域みまもり支援センター等の感染症 対策に係る職員	37名
R5.7.10	保育園サーベイランスシステム研修会	市内保育園職員	10名
R5.7.18	保育園サーベイランスシステム研修会	市内保育園職員	9名
R5.7.24	保育園サーベイランスシステム研修会	市内保育園職員	20名
R5.7.26	第4回FETP-Kミーティング	実地疫学専門家養成コース(FETP) 初期導入研修修了者	2名
R5.7.31	保育園サーベイランスシステム研修会	市内保育園職員	18名
R5.8.4	慶應義塾大学大学院マネジメント研究科 公衆衛生プログラム	慶應義塾大学大学院生等	18名
R5.8.16	第5回FETP-Kミーティング	実地疫学専門家養成コース(FETP) 初期導入研修修了者	3名
R5.8.21	社会医学系専攻医研修(慶應東邦プログラム)	慶應義塾大学医学部生	1名
R5.9.27	第6回FETP-Kミーティング	実地疫学専門家養成コース(FETP) 初期導入研修修了者	2名
R5.10.18	第7回FETP-Kミーティング	実地疫学専門家養成コース(FETP) 初期導入研修修了者	2名
R5.11.8	第1回FETP-Jインターンシップ	実地疫学専門家養成コース(FETP)研修生	4名
R5.11.15	第2回FETP-Jインターンシップ	実地疫学専門家養成コース(FETP)研修生	4名
R5.11.29	第3回FETP-Jインターンシップ	実地疫学専門家養成コース(FETP)研修生	4名
R5.11.29	第8回FETP-Kミーティング	実地疫学専門家養成コース(FETP) 初期導入研修修了者	4名
R5.12.6	第4回FETP-Jインターンシップ	実地疫学専門家養成コース(FETP)研修生	4名
R5.12.13	第5回FETP-Jインターンシップ	実地疫学専門家養成コース(FETP)研修生	4名
R5.12.20	第6回FETP-Jインターンシップ	実地疫学専門家養成コース(FETP)研修生	1名
R5.12.20	結核ゲノム解析研修会	川崎市各区役所地域みまもり支援センター等の感 染症対策に係る職員, 地方衛生研究所関東甲信 静細菌支部関係職員	67名

R5.12.27	第7回FETP-Jインターンシップ	実地疫学専門家養成コース(FETP)研修生	4名
R5.12.27	第9回FETP-Kミーティング	実地疫学専門家養成コース(FETP) 初期導入研修修了者	2名
R6.1.11	第8回FETP-Jインターンシップ	実地疫学専門家養成コース(FETP)研修生	3名
R6.1.12	食品安全と食品防御に関する研修会 (川崎市健康福祉局保健医療政策部食品安全担当 と共催)	市内の公衆衛生関係職員	34名
R6.1.17	第10回FETP-Kミーティング	実地疫学専門家養成コース(FETP) 初期導入研修修了者	3名
R6.1.19	令和5年度第2回疫学ミーティング	川崎区役所地域みまもり支援センター等の感染症 対策に係る職員	25名
R6.2.22	感染症情報センター職員研修会	川崎市各区役所地域みまもり支援センター等の感 染症対策に係る職員	52名
R6.2.28	第11回FETP-Kミーティング	実地疫学専門家養成コース(FETP) 初期導入研修修了者	4名
R6.3.21	第12回FETP-Kミーティング	実地疫学専門家養成コース(FETP) 初期導入研修修了者	3名

(6) 視察・見学受け入れ実績

年月日	名称	人数
R5.5.26	市立井田病院臨床研修医	2名
R5.6.6	名古屋市保健所職員	4名
R5.7.27	川崎市健康福祉局長	3名
R5.8.3	夏の科学イベント	37名
R5.8.4	慶應義塾大学大学院マネジメント研究科公衆衛生プログラム	18名
R5.8.14、16、23	川崎市インターンシップ	1名
R5.8.21	社会医学系専攻医(慶應東邦プログラム)	1名
R5.8.25	多摩区・3大学連携協議会インターンシップ	3名
R5.9.4	市立川崎病院臨床研修医	1名
R5.9.5	立命館大学生	11名
R5.9.13、25	川崎市職場体験研修	2名
R5.10.10	キングスカイフロントネットワーク協議会 市制100周年記念プレ事業 ～中学生を対象にしたキングスカイフロント施設見学会～	14名
R5.10.24	宮前区役所職員研修「キングスカイフロント視察」	15名
R5.11.20	市立井田病院臨床研修医	3名
R5.12.4	東海大学医学部	9名
R5.12.5	CFMD家庭医療学レジデンシー・東京 専攻医	1名
R5.12.13	国立感染症研究所FETPインターンシップ	11名
R5.12.14	東京慈恵会医科大学医学部生	1名
R6.2.1	専門職種 1day現場見学会	3名
R6.2.29	川崎市薬剤師会見学実習(薬学部5年生)	41名
R6.3.5	市立川崎病院臨床研修医	16名
R6.3.8	市立川崎高校附属中学校キングスカイフロント見学会	44名
R6.3.19	宮前地区連合町内会	39名
R6.3.26	滋賀県健康医療福祉部健康危機管理課職員	3名
計	24件	283名

(7) 研修報告会開催実績

当研究所職員が出席した学会や研修会等の内容を所内で情報共有するとともに、プレゼンテーション能力の向上を目的として、研修報告会を原則月1回開催している。

令和5年度研修報告会開催実績

開催日	報告内容
R5.5.16	第34回臨床微生物学会報告 下水サーベイランスについて
R5.6.8	第97回日本感染症学会総会・学術講演会報告
R5.7.19	第32回WHO/WPRO/TAG-VPD(WHO西太平洋地域/ワクチンで予防可能な疾患に関する技術専門家会議)参加報告
R5.9.11	日本食品化学学会 第29回総会・学術大会報告 バイオセーフティ技術講習会報告 第38回日本環境感染症学会報告
R5.11.9	第44回日本食品微生物学会報告
R5.12.11	第82回日本公衆衛生学会報告 第60回全国衛生化学技術協議会年会報告 第72回日本感染症学会東日本地方会学術集会/第70回日本化学療法学会東日本支部総会 合同学会報告
R6.2.2	日本性感染症学会第36回学術大会報告 第55回日本小児感染症学会報告
R6.3.7	令和5年度動物由来感染症レファレンスセンター研修会(野兔病の検査研修)報告 第15回JBFシンポジウム報告 第35回臨床微生物学会報告 国立保健医療科学院ウイルス研修の内容紹介 令和6年能登半島地震に伴う派遣業務報告

(8) 「キングスカイフロント夏の科学イベント 2023」への出展

多摩川を挟んで羽田空港の対岸に位置する殿町国際戦略拠点キングスカイフロントは、様々な研究機関が集積し、ライフサイエンスや環境分野の研究開発などが行われている。

キングスカイフロントでは、川崎市臨海部国際戦略本部が中心となり、子どもたちに科学技術に関心を持ってもらうことを目的とした「夏の科学イベント」を例年 8 月に開催しており、当研究所もブースを出展している。

主に小学生を対象に開催されるこのイベントは、キングスカイフロントに進出又は関係する企業・研究機関等がそれぞれの特色を活かしながら夏休みの学習に役立つ科学実験やクイズラリーなどの体験コーナーを出展するもので、「キングスカイフロント夏の科学イベント 2023」には 502 人の親子連れが参加した。

ア 開催日時

令和 5 年 8 月 3 日(火) 13:00～16:00

イ 主催(事務局)

キングスカイフロント夏の科学イベント実行委員会(川崎市臨海部国際戦略本部)

ウ 会場

川崎生命科学・環境研究センター(LiSE)、ナノ医療イノベーションセンター(iCONM)、実験動物中央研究所(実中研)、ジョンソン・エンド・ジョンソンインスティテュート東京(J&J)、ライフイノベーションセンター(LIC)、メトロニックイノベーションセンター(メトロ)、リサーチゲートビルディング トノマチ 2(RGB2)、SB カワスマ、島津製作所、東急 REI ホテル、国立医薬品食品衛生研究所

エ 出展機関

川崎市健康安全研究所、川崎市環境総合研究所、公益財団法人実験動物中央研究所、国立医薬品食品衛生研究所ほか、キングスカイフロントに集積する民間研究機関等

オ 健康安全研究所の出展内容

見習い検査員になってみよう!

「見習い検査員として研究所で検査をしてみよう!」をテーマに、普段入ることのできない健康安全研究所の研究エリア内で、細菌性食中毒、自然毒及び着色料についての検査を実際に体験し、楽しみながら食の安全に関する知識を学んでもらった。

(参加人数:37 人(保護者含む))

写真 1 抽出・ろ過を体験する様子



写真 2 食品から抽出した着色料で毛糸染色を行う様子



写真 3 培地作り体験の様子



【第2章 業務実績】

1 企画調整部門

(1) 企画調整担当

企画調整担当の主な業務は、各種調査研究評価委員会の開催、調査研究に係る企画及び連絡調整、試験検査に係る信頼性確保業務及び情報発信業務である。

ア 調査研究評価委員会等の運営

(7) 内部評価委員会

川崎市健康安全研究所調査研究評価委員会設置要綱に基づき、内部評価委員会を開催した。

内部評価委員会は、当該年度に当研究所で実施の「全研究課題」について、委員である当研究所職員が研究計画の評価及び研究結果の評価を行うもので、令和5年度の開催概要は表のとおりである。

(イ) 外部評価委員会

川崎市健康安全研究所調査研究評価委員会設置要綱に基づき、外部評価委員会を開催した。

外部評価委員会は、内部評価委員会で評価された研究課題のうち、「特に重要な研究課題」について、委員である当研究所職員及び本庁関係課職員並びに外部研究機関の有識者が研究計画の評価及び研究結果の評価を行うもので、令和5年度の開催概要は表のとおりである。

(ウ) 倫理審査委員会

川崎市健康安全研究所倫理審査委員会設置要綱に基づき、倫理審査委員会を開催した。

倫理審査委員会は、当該年度に新たに計画された「人を対象とする生命科学・医学系研究」について、委員である当研究所職員及び外部の有識者が、倫理指針等に基づき倫理的観点及び科学的観点からその実施の適否に係る審査を行うもので、令和5年度の開催概要は表のとおりである。

表 令和5年度調査研究評価委員会等開催概要

年月日	委員会	課題数
R5.5.24 R5.5.29 R5.5.31	内部評価委員会(研究計画の評価)	28
R5.7.10	倫理審査委員会	5
R5.7.18	外部評価委員会(研究計画の評価)	9
R6.1.24	内部評価委員会(研究計画(計画変更2、次年度分課題1)の評価)	3
R6.2.6	内部評価委員会(研究結果の評価)	8
R6.2.10	倫理審査委員会	4
R6.2.14 R6.2.21	内部評価委員会(研究結果18、研究計画(次年度分課題1)の評価)	19
R6.2.28	内部評価委員会(研究計画(追加課題1、次年度分課題3)の評価)	4
R6.3.18	外部評価委員会(研究結果の評価)	10

イ 食品衛生検査の信頼性確保業務

食品衛生検査の信頼性確保部門として、収去施設及び食品衛生検査施設に対し次の業務を行った。なお、不適とされたものについては適宜、改善指導を行った。

(7) 内部点検

収去施設(全7区役所地域みまもり支援センター(福祉事務所・保健所支所)衛生課、保健医療政策部食品安全担当(食品専門監視担当)並びに食品衛生検査施設(健康安全研究所及び保健医療政策部中央卸売市場食品衛生検査所)に対し、内部点検を実施した。

内部点検では、標準作業書の作成状況や機械器具の管理等が適切に実施されているかの確認を行った。

(イ) 内部精度管理

検査部門が実施した内部精度管理の実施状況の確認を行った。

(ウ) 外部精度管理調査

毎年度、健康安全研究所及び中央卸売市場食品衛生検査所では、一般財団法人食品薬品安全センターが実施する外部精度管理調査に参加し、客観的な評価を受けている。

令和5年度は、食品添加物・残留農薬等の理化学検査、一般細菌数・大腸菌群等の微生物検査及び動物を用いる検査に係る調査に参加し、結果の確認を行った。

ウ 病原体等検査の信頼性確保業務

病原体等検査の信頼性確保部門として、病原体等検査施設(健康安全研究所)に対し次の業務を行った。なお、食品衛生検査の信頼性確保業務と同様に、不適とされたものは適宜、改善指導を行った。

(ア) 内部監査

内部監査では、標準作業書の作成状況や試験検査に係る書類の作成、機械器具の管理等が適切に行われているかの確認を行った。

(イ) 内部精度管理

検査部門が実施した内部精度管理の実施状況の確認を行った。

(ウ) 外部精度管理調査

令和5年度は、厚生労働省が実施する新型コロナウイルスの次世代シーケンシング(NGS)による遺伝子の解読・解析、麻しん・風しんウイルスの核酸検出検査、厚生労働科学研究の研究班の協力依頼に基づくレジオネラ属菌検査、結核菌VNTR解析及び腸管出血性大腸菌のMLVA法の外部精度管理調査に参加し、結果の確認を行った。

エ 情報発信業務

主にホームページを用いて健康安全研究所の取組内容の情報発信を行っている。ホームページを用いた定期的な情報発信業務としては、「検査情報」を作成・掲載しており、理化学部門及び微生物部門が実施する日常の試験検査実績を、市民にとってわかりやすい体裁に配慮し取りまとめている。令和5年度は理化学検査情報を4回、微生物検査情報を4回作成し公開した。

(2) 感染症情報センター担当

感染症情報センターの役割は、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(以下、「感染症法」という。)」に基づく感染症発生動向調査事業実施要綱に規定されており、「各都道府県等域における患者情報、疑似症情報及び病原体情報を収集、分析し、都道府県等の本庁に報告するとともに、全国情報と併せて、これらを速やかに医師会等の関係機関に提供・公開することとして、各都道府県等域内に1か所、原則として地方衛生研究所の中に設置する。」と明記されている。

川崎市では、平成25年2月まで、健康福祉局健康安全室(現在の健康福祉局保健医療政策部)に感染症情報センターを設置し、「川崎市感染症発生動向調査事業実施要領」に基づき感染症発生動向調査事業を実施してきたが、平成25年3月、感染症情報センター機能を健康安全研究所に移管し、従来から実施してきた業務に加えて、感染症情報発信システムの運用や疫学研究等を行い、機能強化を図っている。また、市内における健康危機事象発生時の初動体制及びネットワークを構築するため、FETP* - Kawasakiプランに基づく取組を行っている。

*FETP:Field Epidemiology Training Program

<感染症発生動向調査事業>

感染症発生動向調査事業は、感染症情報センターの主たる業務であり、前述の感染症発生動向調査事業実施要綱により規定されている。

本事業では、医療機関から届出等される対象疾患について、国、県、指定都市の感染症情報センター等を結んで、感染症発生動向調査情報ネットワークを形成し、全国的な規模で感染症の流行状況の把握、患者発生情報及び検査情報の収集、解析、還元を行っている。市内では、健康福祉局保健医療政策部及び各区役所地域みまもり支援センター等と連携しながら、患者情報等の収集・解析を行い、関係機関に対して感染症情報を迅速に発信するとともに、市民に対しては広報紙「今、何の病気が流行しているか!」やメールマガジン等を毎週定期的に発行している。

ア 全数把握疾患の発生状況(表1~3)

一類感染症の届出はなかった。

二類感染症では、結核225件の届出があり、

急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群(SARS)、中東呼吸器症候群(MERS)、鳥インフルエンザ(H5N1)、鳥インフルエンザ(H7N9)の届出はなかった。

三類感染症では、腸管出血性大腸菌感染症74件の届出があり、コレラ、細菌性赤痢、腸チフス及びパラチフスの届出はなかった。腸管出血性大腸菌感染症は前年と比べて届出数が増加したものの、集団発生事例はなかった。

四類感染症では、E型肝炎16件、デング熱5件、日本紅斑熱1件、レジオネラ症12件の届出があった。日本紅斑熱については、平成29年以来6年ぶりに届出があり、PCR法により血液から病原体遺伝子が検出された。なお、推定感染地域は市外であった。

五類感染症では、アメーバ赤痢8件、ウイルス性肝炎8件、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症29件、急性弛緩性麻痺3件、急性脳炎15件、クロイツフェルト・ヤコブ病2件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症15件、後天性免疫不全症候群10件、ジアルジア症1件、侵襲性インフルエンザ菌感染症9件、侵襲性肺炎球菌感染症24件、水痘(入院例に限る。)8件、梅毒127件、破傷風3件、百日咳21件、麻しん1件の届出があった。梅毒については、平成11年の感染症法施行以降、最多の届出数となった。性別では男性が91件、女性が36件であり、男性は20歳代から50歳代、女性は20歳代の報告が多かった。病期別報告数については、男性は早期顕症梅毒I期が40件と最も多く、次いで早期顕症梅毒II期が29件であった。女性は早期顕症梅毒II期が18件と最も多く、次いで無症候が10件であった。なお、先天梅毒の報告はなかった。麻しんについては、血清IgM抗体が検出され、検査診断例として届出があった。インドネシアへの海外渡航歴があり、ワクチン接種歴は1回であった。なお、当所におけるPCR法による検査結果は陽性であり、遺伝子型はD8であった。

また、新型コロナウイルス感染症は、新型インフルエンザ等感染症として36,013件の届出があった。なお、令和5年5月8日診断分からは、五類感染症の定点把握疾患に変更となった。

表1 届出数（一～三類感染症、指定感染症及び新型インフルエンザ等感染症患者等届出数）

令和5年

	総数	一類感染症	二類感染症		三類感染症					指定感染症 (新型コロナウイルス感染症)	新型インフルエンザ等感染症 (新型コロナウイルス感染症)
		エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱	急性灰白髄炎、ジフテリア、SARS、MERS、鳥インフルエンザ(H5N1)、鳥インフルエンザ(H7N9)	結核	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス		
令和3年	36,420	-	-	227	-	-	47	-	-	3,462	32,684
令和4年	385,529	-	-	204	-	-	41	-	-		385,284
令和5年	36,312	-	-	225	-	-	74	-	-		36,013
川崎	8,809	-	-	67	-	-	21	-	-		8,721
幸	3,755	-	-	19	-	-	19	-	-		3,717
中原	6,681	-	-	44	-	-	12	-	-		6,625
高津	4,375	-	-	26	-	-	-	-	-		4,349
宮前	4,782	-	-	34	-	-	11	-	-		4,737
多摩	4,179	-	-	15	-	-	4	-	-		4,160
麻生	3,731	-	-	20	-	-	7	-	-		3,704

※SARS：重症急性呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属 SARS コロナウイルスであるものに限る。）

※MERS：中東呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属 MERS コロナウイルスであるものに限る。）

※新型コロナウイルス感染症は令和2年2月1日から指定感染症、令和3年2月13日から新型インフルエンザ等感染症となり、令和5年5月8日からは五類感染症の定点把握疾患となった。

表2 届出数（四類感染症患者等届出数）

令和5年

	総数	四類感染症			
		E型肝炎	デング熱	日本紅斑熱	レジオネラ症
総数	34	16	5	1	12
川崎	5	1	2	-	2
幸	3	-	-	-	3
中原	13	8	2	1	2
高津	5	2	-	-	3
宮前	4	3	-	-	1
多摩	1	1	-	-	-
麻生	3	1	1	-	1

※その他の四類感染症の届出はなかった。

表3 届出数（五類感染症（全数把握疾患）患者等届出数）

令和5年

	総数	五類感染症							
		アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	急性弛緩性麻痺	急性脳炎	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群
総数	284	8	8	29	3	15	2	15	10
川崎幸	103	3	3	3	-	-	-	4	7
中原	12	2	-	-	-	-	-	-	-
高津	40	-	2	2	2	1	2	7	2
宮前	37	2	2	1	-	7	-	-	-
多摩	37	-	-	9	-	6	-	1	1
麻生	25	1	-	10	1	1	-	-	-
	30	-	1	4	-	-	-	3	-
	総数	五類感染症							
		ジアルジア症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘(入院例に限る。)	梅毒	破傷風	百日咳	麻疹
総数		1	9	24	8	127	3	21	1
川崎幸		1	4	6	1	70	1	-	-
中原		-	1	1	-	4	-	4	-
高津		-	3	5	3	10	-	1	-
宮前		-	-	1	2	11	-	11	-
多摩		-	1	6	-	10	2	1	-
麻生		-	-	3	2	7	-	-	-
		-	-	2	-	15	-	4	1

※その他の五類感染症の届出はなかった。

イ 定点把握疾患の発生状況（表4）

新型コロナウイルス感染症の流行開始以降、令和4年までは多くの疾患で報告数が減少していたが、令和5年はインフルエンザ、咽頭結膜熱及びヘルパンギーナの報告数が過去5年平均を上回った。なお、令和2年から令和4年までは新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、他疾患の報告数が著しく減少したため、過去5年平均との比較については、平成28年から令和元年までの平均と比較を行った。

インフルエンザについては、第4週(1月第5週)に定点当たり患者報告数が11.30人となり、流行発生注意報基準値(10.00人)を超え、第10週(3月第2週)には定点当たり17.05人と、流行のピークとなった。その後報告数は減少したものの増減を繰り返し、2023/2024シーズンは、第37週(9月第3週)に13.31人となり、流行発生注意報基準値を超えた。なお、年間の定点当たり患者報告数は過去5年平均と比べて1.39倍であった。

新型コロナウイルス感染症については、定点把握疾患となった第19週(5月第2週)以降定点当たり患者報告数が増加し、第36週(9月第2週)に24.95人と流行のピークとなった後、急激に減少したが、第46週(11月第3週)以降再び増加した。

咽頭結膜熱については、9月上旬以降患者報告数が増加し、第43週(10月第5週)に定点当たり3.16人となり、流行発生警報基準値(3.00人)を超えた。第46週(11月第3週)には5.81人と、過去10年間で最多となった。なお、年間の定点当たり患者報告数は過去5年平均と比べて4.38倍であった。

ヘルパンギーナについては、5月中旬以降患者報告数が増加し、第24週(6月第3週)に定点当たり6.95人となり、流行発生警報基準値(6.00人)を超えた。その後第27週(7月第2週)に8.14人と、流行のピークとなった後、急激に減少した。なお、年間の定点当たり患者報告数は過去5年平均と比べて1.36倍であった。

表4 五類感染症（定点把握疾患）の発生状況

【小児科定点、内科定点、眼科定点対象疾患】												令和5年	
	総数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
総数	69,355	3,204	4,081	4,218	1,587	2,575	5,953	5,147	6,990	9,268	8,200	8,868	9,264
水痘	331	12	6	5	19	21	32	14	25	17	24	48	108
流行性耳下腺炎	105	9	3	3	8	16	16	9	11	5	6	12	7
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	4,566	44	68	76	106	229	409	306	333	395	627	1,105	868
感染性胃腸炎	9,212	1,165	1,058	824	598	769	1,076	549	499	451	457	719	1,047
手足口病	1,139	-	2	10	2	18	112	95	115	323	251	143	68
伝染性紅斑	25	-	2	2	1	-	1	2	4	1	3	4	5
突発性発しん	459	31	25	35	46	57	66	29	31	42	32	43	22
ヘルパンギーナ	2,248	6	2	6	12	118	1,045	756	127	103	56	14	3
咽頭結膜熱	2,531	8	19	18	33	67	120	112	140	265	401	901	447
RSウイルス感染症	891	15	1	15	14	78	363	307	68	21	-	7	2
インフルエンザ	30,708	1,910	2,888	3,216	735	468	582	210	560	3,392	5,575	5,315	5,857
新型コロナウイルス感染症	16,534					703	2,077	2,708	4,985	4,152	677	463	769
流行性角結膜炎	606	4	7	8	13	31	54	50	92	101	91	94	61
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※新型コロナウイルス感染症は五類感染症の定点把握疾患となった令和5年5月8日以降診断分を集計

【基幹定点、性感染症定点対象疾患】												令和5年	
	総数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
総数	1,035	84	60	86	79	85	79	59	75	79	134	84	131
細菌性髄膜炎	6	-	1	1	-	-	1	-	-	1	1	1	-
無菌性髄膜炎	17	1	-	2	2	1	4	2	1	-	3	-	1
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
インフルエンザ入院サーベイランス	60	4	2	1	1	1	1	-	2	6	8	9	25
新型コロナウイルス感染症 入院サーベイランス	101									9	44	16	32
淋菌感染症	117	10	4	14	15	12	8	3	13	11	12	9	6
性器クラミジア感染症	428	44	28	44	40	39	41	32	32	32	37	24	35
性器ヘルペスウイルス感染症	137	13	8	10	7	15	6	10	12	9	17	13	17
尖圭コンジローマ	126	8	11	11	13	13	14	9	11	10	9	10	7
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	39	4	6	3	1	4	4	3	2	1	3	2	6
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	4	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	2
薬剤耐性緑膿菌感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※新型コロナウイルス感染症の入院サーベイランスは調査が開始された令和5年9月25日以降診断分を集計

ウ 集団施設における感染症発生情報（表5）

学校保健安全法に規定される対象疾患により出席停止となった患者数について、小学校及び中学校からの報告数を集計することにより、集団施設における感染症発生状況を解析し、関係機関、市民等へ発信している。なお、保育園については、学校等欠席者・感染症情報システムから収集した情報を集計している。

なお、令和2年から令和4年までは新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、他疾患の報告数が著しく減少したため、令和5年の集計における過去5年平均との比較については、平成28年から令和元年までの

平均と比較を行った。

インフルエンザ様疾患については、年間では過去5年平均と比較して1.42倍であったが、特に10月は53.11倍と報告数が大幅に増加した。

新型コロナウイルス感染症については、年間では13,038件の報告があり、昨年と比較して0.25倍であった。なお、1月～5月においては、小学校及び中学校のその他に新型コロナウイルス感染症の濃厚接触者及びその他関連による出席停止が含まれており、同時期のその他全体の98.7%を占めた。

表5 集団施設における感染症発生情報

令和5年

		総数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
総数	総数	111,002	17,569	18,025	11,481	7,383	3,584	4,081	3,094	2,160	11,294	12,930	9,828	9,573
	保育園	18,973	1,841	1,507	998	517	902	1,754	1,563	1,156	2,014	2,410	1,933	2,378
	小学校	73,780	12,468	13,754	9,267	6,315	2,218	1,625	1,014	682	6,433	8,197	6,169	5,638
	中学校	18,249	3,260	2,764	1,216	551	464	702	517	322	2,847	2,323	1,726	1,557
百日咳	総数	19	-	-	2	-	-	3	3	-	-	-	10	1
	保育園	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	小学校	8	-	-	1	-	-	3	3	-	-	-	1	-
	中学校	11	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	9	1
インフルエンザ様疾患	総数	44,067	3,193	4,689	4,189	960	1,187	909	285	226	4,691	10,184	6,890	6,664
	保育園	6,658	674	1,058	748	161	153	66	30	81	618	1,279	673	1,117
	小学校	29,136	1,917	3,085	2,853	744	872	683	178	115	2,976	6,891	4,673	4,149
	中学校	8,273	602	546	588	55	162	160	77	30	1,097	2,014	1,544	1,398
新型コロナウイルス感染症	総数	13,038	2,732	734	100	241	436	959	1,026	1,044	4,848	541	156	221
	保育園	1,841	687	87	20	50	59	85	145	280	315	49	15	49
	小学校	6,821	1,436	458	56	134	177	373	470	478	2,824	254	73	88
	中学校	4,376	609	189	24	57	200	501	411	286	1,709	238	68	84
麻疹	総数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	保育園	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	小学校	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	中学校	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	総数	236	14	9	9	15	30	40	27	4	23	20	31	14
	保育園	57	3	2	2	2	4	9	8	3	6	4	9	5
	小学校	171	10	7	7	11	26	29	19	1	17	15	20	9
	中学校	8	1	-	-	2	-	2	-	-	-	1	2	-
水痘	総数	880	33	27	27	37	115	109	33	21	35	60	126	257
	保育園	162	5	8	11	3	18	13	5	14	19	24	13	29
	小学校	686	24	16	15	32	96	94	27	5	13	32	109	223
	中学校	32	4	3	1	2	1	2	1	2	3	4	4	5
風しん	総数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	保育園	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	小学校	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	中学校	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	総数	1,072	15	21	11	25	20	36	41	118	252	226	172	135
	保育園	591	10	17	5	9	7	13	23	95	115	121	91	85
	小学校	440	4	4	6	12	12	21	17	21	130	95	69	49
	中学校	41	1	-	-	4	1	2	1	2	7	10	12	1
急性出血性結膜炎	総数	17	-	1	-	-	2	-	-	4	3	3	1	3
	保育園	10	-	1	-	-	1	-	-	3	2	2	1	-
	小学校	6	-	-	-	-	1	-	-	1	-	1	-	3
	中学校	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
咽頭結膜熱	総数	1,378	5	7	12	15	22	28	23	38	172	274	419	363
	保育園	889	3	7	11	15	20	19	17	32	128	171	259	207
	小学校	471	2	-	1	-	2	9	6	5	43	101	154	148
	中学校	18	-	-	-	-	-	-	-	1	1	2	6	8
その他*	総数	50,295	11,577	12,537	7,131	6,090	1,772	1,997	1,656	705	1,270	1,622	2,023	1,915
	保育園	8,765	459	327	201	277	640	1,549	1,335	648	811	760	872	886
	小学校	36,041	9,075	10,184	6,328	5,382	1,032	413	294	56	430	808	1,070	969
	中学校	5,489	2,043	2,026	602	431	100	35	27	1	29	54	81	60

※保育園は学校等欠席者・感染症情報システムから収集した情報（令和6年9月11日時点）

* 令和5年5月までの小学校及び中学校のその他は、新型コロナウイルス感染症の濃厚接触者及びその他関連による出席停止を含む。

2 理化学部門

(1) 食品担当

食品衛生法及び食品表示法に基づく食品中の食品添加物検査、成分規格検査、遺伝子組換え食品検査、特定原材料検査、自然毒及び化学物質検査並びに苦情食品検査等を担当している。令和5年度は、保健所、保健所支所、中央卸売市場食品衛生検査所及び港湾局から搬入された食品等123検体、339項目について検査を実施した。(表1)

なお、苦情食品検査の依頼はなかった。

ア 食品添加物検査

食品添加物の使用基準及び表示基準に関する項目について、延べ270項目(保存料、着色料、酸化防止剤等)の検査を実施した。(表2)

イ 遺伝子組換え食品検査

米加工品、ばれいしょ加工品、魚介類、魚介類加工品及び菓子 計21検体について検査を実施した。結果は全て陰性であった。(表3)

ウ 特定原材料検査

特定原材料の使用表示のない食品について、乳を対象に2検体及び卵を対象に8検体の検査を実施した。なお、乳を対象とした2検体は卵も対象としている。スクリーニング検査の結果は、全ての検体で不検出又は基準値である10 μ g/g未満であった。(表4)

エ 自然毒及び化学物質検査

東扇島東公園人工海浜に自生する二枚貝及び市内流通食品、計8検体について貝毒検査を実施した。このうち1検体で下痢性貝毒が検出されたが、規制値以下であった。また、フグ毒検査を1検体及びヒスタミン検査を5検体実施した。(表5)

検査精度確保のため、(一財)食品薬品安全センターが実施する「食品衛生外部精度管理調査」に参加し食品添加物(着色料、ソルビン酸)及び麻痺性貝毒の検査、「遺伝子組換え食品検査の外部精度管理調査」に参加し安全性未審査の遺伝子組換えコメの検査、「食品表示に関する外部精度管理調査」に参加し特定原材料(卵)の検査、(株)森永生科学研究所主催の「第8回食物アレルギー物質検査精度管理サーベイ」に参加し特定原材料(卵及び牛乳)の検査、並びに(一社)日本バイオテクノロジー認証機構主催の「JBC0技能試験2023」に参加しヒスタミンの検査を実施した。

また、地域保健総合推進事業関東甲信静ブロック精度管理事業で実施された模擬訓練に参加した。

さらに、関係機関の調査研究に係る検査に関して、(一財)食品薬品安全センターからの依頼による「特定原材料検査における外部精度管理調査研究」(検査項目:卵)及び埼玉県衛生研究所からの依頼による「食品添加物試験法の妥当性評価法に関する研究」(検査項目:サイクラミン酸)について協力を行った。

表1 食品化学検査内訳

検査内容	項目数
食品添加物検査	270
遺伝子組換え食品検査	21
特定原材料検査	10
自然毒・化学物質検査	22
その他の検査	16
総計	339

表 2 食品添加物検査内訳

検査内容		項目数
保存料	安息香酸	25
	ソルビン酸	36
	パラオキシ安息香酸エステル類	25
着色料	許可酸性タール色素	24
発色剤	亜硝酸根	9
甘味料	サッカリン	12
	アセスルファムカリウム	12
漂白剤	亜硫酸塩	30
酸化防止剤	ブチルヒドロキシアニソール	3
	ジブチルヒドロキシトルエン	3
品質保持剤	プロピレングリコール	13
防かび剤	イマザリル	8
	オルトフェニルフェノール	7
	ジフェニル	7
	チアベンダゾール	8
指定外添加物	サイクラミン酸(甘味料)	27
	TBHQ(酸化防止剤)	8
	アズルピン(着色料)	6
	スーダンⅠ(着色料)	1
	スーダンⅡ(着色料)	1
	スーダンⅢ(着色料)	1
	スーダンⅣ(着色料)	1
	パラレッド(着色料)	1
	キノリンイエロー(着色料)	2
総計		270

表 3 遺伝子組換え食品検査結果

品目	検体数	検査対象	安全性	試験方法	結果	
米加工品 (穀類及びその加工品)	5	遺伝子組換えコメ (63Bt、NNBt、CpTI)	未審査	定性 PCR	陰性	5
菓子	2				陰性	2
ばれいしょ加工品 (野菜果実及びその加工品)	5	遺伝子組換えパレイシヨ (F10、J3)	未審査	定性 PCR	陰性	5
菓子	5				陰性	5
魚介類	1	遺伝子組換えサケ (AquAdvantage)	未審査	定性PCR	陰性	1
魚介類加工品 (びん詰・缶詰食品)	3				陰性	3

表4 特定原材料スクリーニング検査結果

検査対象	品目	検体数	試験方法	結果
乳	パン	1	日本ハム(株)製 FASTKIT エライザ Ver.Ⅲ 牛乳	10μg/g未満
			(株)森永生科学研究所製モリナガ FASPEK エライザⅡ牛乳	10μg/g未満
	菓子	1	日本ハム(株)製 FASTKIT エライザ Ver.Ⅲ 牛乳	10μg/g未満
			(株)森永生科学研究所製モリナガ FASPEK エライザⅡ牛乳	不検出
卵	パン	1	日本ハム(株)製 FASTKIT エライザ Ver.Ⅲ 卵	10μg/g未満
			(株)森永生科学研究所製モリナガ FASPEK エライザⅡ卵(卵白アルブミン)	10μg/g未満
	菓子	1	日本ハム(株)製 FASTKIT エライザ Ver.Ⅲ 卵	10μg/g未満
			(株)森永生科学研究所製モリナガ FASPEK エライザⅡ卵(卵白アルブミン)	不検出
	パン	3	日本ハム(株)製 FASTKIT エライザ Ver.Ⅲ 卵	不検出
			(株)森永生科学研究所製モリナガ FASPEK エライザⅡ卵(卵白アルブミン)	不検出
	菓子	3	日本ハム(株)製 FASTKIT エライザ Ver.Ⅲ 卵	不検出
			(株)森永生科学研究所製モリナガ FASPEK エライザⅡ卵(卵白アルブミン)	不検出

試験方法:1 検体につき2種類のキットを用いて検査を実施し、いずれか1種でも10μg/g以上検出された場合、スクリーニング検査陽性となる。

表5 自然毒及び化学物質検査結果

品目	検体数	自然毒分類	検査項目	結果	
アサリ	6	貝毒	麻痺性貝毒	1.8 MU/g 未満	6
			下痢性貝毒	不検出	6
	1		麻痺性貝毒	1.8 MU/g 未満	1
			下痢性貝毒	0.16 mgOA 当量/kg以下	1
ハマグリ	1		麻痺性貝毒	1.8 MU/g 未満	1
			下痢性貝毒	不検出	1
フグ加工品	1	フグ毒	フグ毒	5 MU/g 以下	1
魚介類加工品	5	化学物質	ヒスタミン	不検出	5

下痢性貝毒の規制値は可食部当たり0.16mgOA当量/kg、麻痺性貝毒の規制値は可食部当たり4MU/g

(2) 水質・環境担当

「水道法」に基づく貯水槽水等の水質検査、「災害時における飲料水及び生活用水の供給源としての井戸及び受水槽の有効活用に関する要綱」に基づく災害用井戸水検査、「神奈川県水浴場等に関する条例」に基づくプール水検査、「川崎市公衆浴場法施行条例」及び「川崎市旅館業法施行条例」に基づく浴槽水検査、「有害物質を含有する家庭用品の規制に関する法律」に基づく家庭用品検査、「食品衛生法」に基づく食品の成分規格等検査のほか、「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」に基づき健康食品等に含まれる医薬品成分（無承認無許可医薬品）検査等を担当している。

令和5年度は保健所及び保健所支所から搬入された検体について検査を実施した。

また、厚生労働省が実施する水道水質検査精度管理のための統一試料調査（硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素、ホルムアルデヒド）、神奈川県が実施する外部精度管理調査（セレン及びその化合物、クロロホルム、ブロモジクロロメタン）に参加し、信頼性確保に係る検査を実施した。

ア 飲料水検査

令和5年度に検査を実施した飲料水は92検体で、検査検体の内訳としては、井戸水（災害用選定の生活用水井戸）83件、貯水槽水3件、小規模水道水3件、専用水道水3件だった。（表1）

イ プール水、浴槽水等検査

市内プール水83検体、浴槽水154検体、計237検体について検査を実施した。（表2）

ウ 家庭用品検査

市販の家庭用品118検体（1検体で複数項目を検査する場合もあり、試買件数としては98件）について13項目の有害物質等の検査を実施したところ、全て基準に適合していた。（表3）

エ 清涼飲料水の規格基準検査

清涼飲料水（ジュース、ミネラルウォーター等）5検体、粉末清涼飲料1検体について5項目〔混濁、沈殿物又は固形の異物、ヒ素、鉛、

スズ（金属製容器包装入りのものに限る）〕の規格検査を実施したところ、全て基準に適合していた。

オ 豆類の規格基準検査

ベビーライマ豆1検体についてシアン化合物の規格検査を実施したところ、基準に適合していた。

カ 器具容器包装の規格基準検査

市内製造の器具容器包装1検体について重金属及び過マンガン酸カリウム消費量の規格検査を実施したところ、基準に適合していた。

キ 魚介類の環境汚染物質検査

多摩川で採取したアユ3検体について金属類等の環境汚染物質検査を実施した。（表4）

ク 医薬品成分検査

市販の健康食品16検体及びローション類（外用）4検体について、医薬品成分14項目の検査を実施した。（表5）

表1 飲料水検査結果

種類	災害用井戸水 (生活用水)※	貯水槽水	小規模水道水	専用水道水	その他	計
検体数	83 (85)	3 (3)	3 (2)	3 (3)	0 (2)	92 (95)
不適合件数	33 (23)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	34 (23)
不 適 合 項 目 件 数	亜硝酸態窒素	3 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (2)
	硝酸態窒素及び 亜硝酸態窒素	3 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (1)
	鉄及びその化合物	28 (16)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	29 (16)
	塩化物イオン	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)
	カルシウム、マグネシウム等 (硬度)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	有機物 (全有機炭素(TOC)の量)	3 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (0)
	pH値	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	味	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	臭気	4 (4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (4)
	色度	16 (13)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	17 (13)
	濁度	12 (8)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	12 (8)
塩素酸	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	

※災害用井戸水に対して水質基準値は設定されていないため、水道法に基づく水道水質基準をあてはめて評価した。

():前年度

表2 プール水、浴槽水検査

種類	検査件数	検査項目
プール水	83 (54)	濁度、過マンガン酸カリウム消費量
浴槽水	154 (145)	濁度、過マンガン酸カリウム消費量、 有機物(全有機炭素(TOC)の量)
計	237 (199)	

():前年度

表3 家庭用品試買試験検査結果

検査項目	対象家庭用品	検体数	違反数
ホルムアルデヒド	繊維製品、つけまつげ用接着剤等	80	0
アゾ化合物	繊維製品	6	0
塩化水素、硫酸	住宅用の洗浄剤	1	0
水酸化カリウム、水酸化ナトリウム	家庭用の洗浄剤	1	0
容器試験	住宅用・家庭用の洗浄剤	2	0
有機水銀化合物	家庭用塗料、家庭用接着剤等	6	0
トリフェニル錫化合物	家庭用塗料、家庭用接着剤等	6	0
トリブチル錫化合物	家庭用塗料、家庭用接着剤等	6	0
ジベンゾ[a, h]アントラセン	防腐・防虫木材、木材防腐剤・防虫剤	2	0
ベンゾ[a]アントラセン	防腐・防虫木材、木材防腐剤・防虫剤	2	0
ベンゾ[a]ピレン	防腐・防虫木材、木材防腐剤・防虫剤	2	0
テトラクロロエチレン	家庭用エアゾル製品	2	0
トリクロロエチレン	家庭用エアゾル製品	2	0
総 数		118	0

表4 多摩川で採取した魚介類の検査結果

項目	1	2	3	定量下限値
総水銀 (ppm)	0.01	0.01	0.01	0.01
銅 (µg/g)	0.4	0.5	0.5	0.2
鉛 (µg/g)	不検出	不検出	不検出	0.1
カドミウム (µg/g)	不検出	不検出	不検出	0.01
マンガン (µg/g)	2.1	2.3	1.9	0.1
クロム (µg/g)	不検出	不検出	不検出	0.1
亜鉛 (µg/g)	13	14	13	0.5
ヒ素 (µg/g)	0.21	0.19	0.17	0.01
トリブチルスズ化合物 (ppm)	不検出	不検出	不検出	0.1
トリフェニルスズ化合物 (ppm)	不検出	不検出	不検出	0.1
ジブチルスズ化合物 (ppm)	不検出	不検出	不検出	0.1

表5 健康食品中医薬品成分検査結果

検査項目		検体数	検出	不検出
痩身成分	フェノールフタレイン	7	0	7
	フェンフルラミン			
	シブトラミン			
	マジンドール			
	クロルプロパミド			
	トルブタミド			
	オリストット			
強壮成分	シルデナフィル	9	0	9
	タダラフィル			12 [※]
	バルデナフィル			9
	クロロプレタダラフィル			
	グリペンクラミド			
	ヨヒンビン			
局所麻酔成分	リドカイン	4	0	4

※タダラフィルについて、形状がカプセルの場合は内容物に加えカプセル皮膜の検査(3件)を実施した。

(3) 残留農薬・放射能検査担当

残留農薬・放射能検査担当では、食品衛生法に基づき、市内産農産物を含めた市内流通食品の残留農薬検査、残留動物用医薬品検査及び食品・水道水等の放射性物質検査を実施した。

精度管理については、一般財団法人食品薬品安全センターが実施する食品衛生外部精度管理調査に参加し、重金属検査(カドミウム)、残留農薬検査(I:個別試験、II:一斉試験)及び残留動物用医薬品検査(定量)を実施した。

ア 残留農薬検査

保健所及び中央卸売市場食品衛生検査所から依頼のあった食品、総数 42 検体・延べ 1822 項目について残留農薬検査を実施した。

(7) 国内産農産物の残留農薬検査

保健所及び中央卸売市場食品衛生検査所依頼分の 30 検体・計 1,499 項目について検査を実施した(表 1-1、1-2、1-3)。

検査した農産物のうち、福島県産きゅうり 1

検体からアクリナトリン 0.018mg/kg(基準値 0.3mg/kg)、茨城県産黄芯白菜 1 検体からボスカリド 0.012mg/kg(基準値 40mg/kg)が検出された。

(イ) 輸入農産物の残留農薬検査

保健所及び中央卸売市場食品衛生検査所依頼分の 5 検体・計 250 項目について検査を実施した(表 2)。エクアドル産バナナ 1 検体からピフェントリン 0.011mg/kg(基準値 0.1mg/kg)が検出された。

(ウ) 玄米中のカドミウム検査

保健所依頼の長野県産玄米 1 検体について検査を実施したところ、0.04 mg/kg 未満(基準値 0.4mg/kg)という結果であった。

(エ) 輸入畜産物の残留農薬検査

保健所依頼の 6 検体・計 72 項目について検査を実施した(表 3)ところ、検出が認められた検体は無かった。

表 1-1 国内産農産物の残留農薬検査結果

単位:mg/kg、括弧内は基準値

農産物名	にんじん	なす	ブロッコリー			きゅうり		トマト		チンゲン菜
			千葉県	高知県	愛知県	埼玉県	福島県	群馬県	茨城県	
検査依頼項目数	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50
検出項目	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
検査依頼項目	1 エチオン	○				○	○	○	○	
	2 エトプロホス	○				○	○	○	○	
	3 カズサホス	○				○	○	○	○	
	4 キナルホス	○				○	○	○	○	
	5 クロルピリホス	○				○	○	○	○	
	6 クロルピリホスメチル	○				○	○	○	○	
	7 クロルフェンビンホス	○				○	○	○	○	
	8 シアノホス	○				○	○			
	9 テルブホス	○				○	○	○	○	
	10 トルクロホスメチル	○				○	○	○	○	
	11 パラチオン(パラチオンエチル)	○				○	○	○	○	
	12 パラチオンメチル	○				○	○	○	○	
	13 ピラクロホス	○				○	○	○	○	
	14 ピリミホスメチル	○				○	○	○	○	
	15 フェナミホス	○				○	○	○	○	
	16 フェニトロチオン(MEP)	○				○	○	○	○	
	17 ブタミホス	○				○	○	○	○	
	18 プロチオホス	○				○	○		○	
	19 ホスチアゼート	○				○	○	○	○	
	20 マラチオン(馬拉ソン)	○				○	○	○	○	
	21 メチダチオン	○				○	○	○	○	
	22 ジメトエート	○				○	○	○	○	
	23 アゾキシストロピン	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	24 アトラジン	○				○	○	○	○	

○:不検出

表1-1 国内産農産物の残留農薬検査結果(続き)

単位:mg/kg、括弧内は基準値

農産物名	にんじん	なす	ブロッコリー		きゅうり		トマト		チンゲン菜
			高知県	愛知県	埼玉県	福島県	群馬県	茨城県	
生産地区	千葉県	高知県	愛知県	埼玉県	福島県	群馬県	茨城県	山形県	静岡県
25 アラクロール	○					○		○	○
26 クレソキシムメチル	○					○	○		
27 ジクロラン	○					○	○	○	○
28 トリアレート	○					○	○	○	○
29 ビフェントリン	○					○	○	○	○
30 フェンバレレート	○					○	○		
31 フェンプロパトリン	○					○	○	○	○
32 フサライド	○					○	○		
33 フルトラニル	○					○	○	○	○
34 プロモプロピレート	○					○	○	○	○
35 ミクロブタニル	○					○	○	○	○
36 レナシル	○					○	○	○	○
37 ジフェノコナゾール	○					○	○	○	○
38 シフルフェナミド	○	○	○	○	○	○	○	○	○
39 アクリナトリン	○					0.018(0.3)	○		
40 ジメチピン	○					○	○		
41 フルシトリネート	○					○	○		
42 EPN	○							○	○
43 クロルフェナピル	○						○	○	○
44 アジンホスメチル	○	○	○	○	○				○
45 ジメチルビンホス	○								
46 ダイアジノン	○						○	○	
47 テトラクロルビンホス	○								
48 ホレート	○						○		
49 クロルプロファミ	○								
50 シアナジン	○								
51 シメコナゾール		○	○			○	○	○	○
52 シプロジニル		○	○	○	○				
53 クロフェンテジン		○		○	○				
54 アニロホス		○	○	○	○				
55 カルバリル		○	○	○	○				○
56 カルプロパミド		○		○	○				
57 テブフェノジド		○	○	○	○				○
58 テフルベンズロン		○	○	○	○				○
59 フェノブカルブ		○	○	○	○				○
60 イミダクロプリド		○	○						○
61 インダノファン		○		○	○				
62 エボキシコナゾール		○							○
63 オキサジクロメホン		○		○	○				
64 クロキントセットメキシル		○	○	○	○				
65 クロチアニジン		○	○						
66 シアゾファミド		○	○	○	○				○
67 ジメトモルフ		○	○	○	○				○
68 チアメキサム		○	○						○
69 トリフルムロン		○	○	○	○				○
70 ノバルロン		○	○	○	○				○
71 ピラクロストロピン		○	○	○	○				
72 ピリミカーブ		○	○	○	○				○
73 フェンアミドン		○	○						
74 フェンピロキシメート		○	○						

○:不検出

表1-1 国内産農産物の残留農薬検査結果(続き)

単位:mg/kg、括弧内は基準値

農産物名	にんじん	なす		ブロッコリー		きゅうり		トマト		チンゲン菜
		千葉県	高知県	愛知県	埼玉県	福島県	群馬県	茨城県	山形県	静岡県
75	フルフェノクスロン		○	○	○	○				○
76	フルリドン		○		○	○				
77	ヘキシチアゾクス		○	○	○	○				
78	ベンゾフェナップ		○	○	○	○				
79	メキシフェノジド		○	○	○	○				○
80	モノニユロン		○		○	○				○
81	ラクトフェン		○	○	○	○				○
82	フェノキシカルブ		○	○	○	○				○
83	インドキサカルブ		○	○	○	○				○
84	オキサミル		○	○	○	○				○
85	ルフェヌロン		○	○	○	○				○
86	クロマフェノジド		○	○	○	○				○
87	クロルフルアズロン		○	○						○
88	イマザリル		○	○						○
89	イプロバリカルブ		○	○	○	○				○
90	オキシカルボキシ		○	○						
91	クロリダゾン		○	○						○
92	ジウロン		○	○	○	○				○
93	ボスカリド		○	○	○	○				○
94	メタバンドキサズロン		○	○	○	○				○
95	チアベンダゾール		○	○	○	○				○
96	チアクロプリド		○	○						
97	チオジカルブ及びメソミル		○	○						
98	ピリフタリド			○	○	○				
99	クロメプロップ			○	○	○				○
100	ブタフェナシル			○	○	○				○
101	ベンダイオカルブ			○	○	○				○
102	ジメチリモール			○						○
103	ナプロアニリド			○						○
104	フラチオカルブ			○						○
105	フラメトピル				○	○				○
106	オリザリン				○	○				○
107	フェリムゾン				○	○				○
108	フェンメディファム				○	○				○
109	ヘキサフルムロン				○	○				○
110	プロパキザホップ				○	○				○
111	クロロクスロン				○	○				
112	テブチウロン				○	○				
113	クミルロン				○	○				
114	ジフルベンズロン									○
115	ペンシクロン									○
116	シクロエート									○
117	ダイムロン									○
118	トリチコナゾール									○
119	フェントエート					○		○	○	
120	ホサロン					○	○	○	○	
121	エンドスルファン					○	○	○	○	
122	フェナリモル					○	○	○	○	
123	ブプロフェジン					○	○	○	○	
124	ピリダベン					○	○	○	○	
125	ペンディメタリン					○	○	○	○	

検査依頼項目

○:不検出

表1-1 国内産農産物の残留農薬検査結果(続き)

単位:mg/kg、括弧内は基準値

農産物名	にんじん	なす	ブロッコリー		きゅうり		トマト		チンゲン菜
			高知県	愛知県	埼玉県	福島県	群馬県	茨城県	
生産地区	千葉県	高知県	愛知県	埼玉県	福島県	群馬県	茨城県	山形県	静岡県
126	ジエトフェンカルブ					○	○		
127	イソプロチオラン							○	○
128	カフェンストロール							○	○
129	フェンスルホチオン							○	○
130	アザコナゾール							○	○
131	キノクラミン(ACN)							○	○
132	プロピコナゾール							○	○
133	ピリダフェンチオン								
134	プロフェノホス								
135	フィプロニル								
136	シフルトリン								
137	フルバリネート								
138	ピペロホス								
139	シハロホップブチル								
140	ピラゾホス								
141	エトリムホス								
142	ベンフルラリン								
143	サリチオン								
144	ジクロフェンチオン								
145	フルキンコナゾール								
146	ジチオピル								
147	アザメチホス								
148	スピノサド								
149	ピラゾリネート								
150	エディフェンホス								
151	ビフェノックス								

○:不検出

表1-2 国内産農産物の残留農薬検査結果

単位:mg/kg、括弧内は基準値

農産物名	ピーマン		キャベツ			さつまいも	さつまいも (紅あずま)	かぼちゃ	(男しやく)
	茨城県	福島県	群馬県	岩手県	神奈川県	千葉県	茨城県	神奈川県	北海道
検査依頼項目数	50	50	50	50	50	50	50	50	50
検出項目	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	エチオン	○	○	○	○			○	
2	エトプロホス	○	○	○	○			○	
3	カズサホス	○	○	○	○			○	
4	キナルホス	○	○	○	○			○	
5	クロルピリホス	○	○	○	○			○	
6	クロルピリホスメチル	○	○	○	○			○	
7	クロルフェンビンホス	○	○	○	○			○	

○:不検出

表1-2 国内産農産物の残留農薬検査結果(続き)

単位:mg/kg、括弧内は基準値

農産物名	ピーマン		キャベツ			さつまいも	(紅あずま) さつまいも		かぼちゃ	(男しゃく) じゃがいも
	茨城県	福島県	群馬県	岩手県	神奈川県	千葉県	茨城県	神奈川県	北海道	
8 シアノホス	○	○	○	○	○				○	
9 テルブホス	○	○	○	○	○				○	
10 トルクロホスメチル	○	○	○	○	○				○	
11 パラチオン(パラチオンエチル)	○	○	○	○	○				○	
12 パラチオンメチル	○	○	○	○	○				○	
13 ビラクロホス	○	○	○	○	○					
14 ビリミホスメチル	○	○	○	○	○				○	
15 フェナミホス			○	○	○				○	
16 フェントロチオン(MEP)	○	○	○	○	○				○	
17 プタミホス	○	○	○	○	○				○	
18 プロチオホス	○	○	○	○	○				○	
19 ホスチアゼート	○	○	○	○	○				○	
20 マラチオン(マラソン)	○	○	○	○	○				○	
21 メチダチオン		○	○	○	○				○	
22 ジメトエート	○	○								
23 アゾキシストロビン	○	○	○	○	○	○	○	○		○
24 アトラジン	○	○	○	○	○				○	
25 アラクロール	○		○	○	○				○	
26 クレソキシムメチル	○	○	○	○	○				○	
27 ジクロラン				○						
28 トリアレート	○	○	○	○	○					
29 ビフェントリン	○	○	○	○	○				○	
30 フェンバレート	○	○							○	
31 フェンプロパトリン	○	○	○	○	○				○	
32 フサライド	○	○	○						○	
33 フルトラニル	○	○	○	○	○				○	
34 プロモプロピレート	○	○	○	○	○				○	
35 ミクロブタニル			○	○	○				○	
36 レナシル	○	○	○	○	○				○	
37 ジフェノコナゾール	○	○	○	○	○					
38 シフルフェナミド	○	○		○						
39 アクリナトリン	○	○								
40 ジメチビン										
41 フルシトリネート	○	○								
42 EPN	○	○	○	○	○				○	
43 クロルフェナピル			○	○	○					
44 アジンホスメチル						○				○
45 ジメチルビンホス				○	○					
46 ダイアジン	○	○	○	○	○				○	
47 テトラクロルビンホス			○						○	○
48 ホレート									○	
49 クロルプロファミ	○	○	○	○	○				○	
50 シアナジン				○	○				○	
51 シメコナゾール			○	○	○	○	○	○	○	
52 シプロジニル						○	○	○		
53 クロフェンテジン						○				
54 アニロホス				○	○	○				○
55 カルバリル						○	○	○		○
56 カルプロパミド						○				
57 テブフェノジド						○	○	○		
58 テフルベンズロン						○	○	○		

検査依頼項目

○:不検出

表1-2 国内産農産物の残留農薬検査結果(続き)

単位:mg/kg、括弧内は基準値

農産物名	ピーマン		キャベツ			さつまいも		さつまいも (紅あずま)		かぼちゃ	(男しゃく) じゃがいも
	茨城県	福島県	群馬県	岩手県	神奈川県	千葉県		茨城県	神奈川県	北海道	
59	フェノブカルブ					○	○	○		○	
60	イミダクロプリド					○	○	○		○	
61	インダノフェン					○					
62	エポキシコナゾール					○					
63	オキサジクロメホン										
64	クロキントセツメキシル					○				○	
65	クロチアニジン					○	○	○		○	
66	シアゾファミド					○	○	○			
67	ジメトモルフ					○	○	○		○	
68	チアメトキサム					○	○	○		○	
69	トリフルムロン					○	○	○		○	
70	ノバルロン					○	○	○		○	
71	ピラクロストロビン					○	○	○		○	
72	ピリミカーブ					○	○	○		○	
73	フェンアミドシ					○	○	○		○	
74	フェンピロキシメート					○	○	○		○	
75	フルフェノクスロン					○	○	○			
76	フルリドン					○	○	○		○	
77	ヘキシチアゾクス					○	○	○			
78	ベンゾフェナップ					○	○	○		○	
79	メキシフェノジド					○	○	○		○	
80	モノニユロン									○	
81	ラクトフェン					○	○	○		○	
82	フェノキシカルブ					○	○	○			
83	インドキサカルブ					○	○	○		○	
84	オキサミル					○	○	○		○	
85	ルフェヌロン					○	○	○		○	
86	クロマフェノジド					○	○	○		○	
87	クロルフルアズロン					○	○	○		○	
88	イマザリル					○	○	○		○	
89	イプロバリカルブ					○					
90	オキシカルボキシシ					○				○	
91	クロリダゾン					○	○	○			
92	ジウロン					○	○	○		○	
93	ボスカリド					○	○	○		○	
94	メタベンズチアズロン					○	○	○		○	
95	チアベンダゾール					○	○	○		○	
96	チアクロプリド					○	○	○		○	
97	チオジカルブ及びメソミル					○	○	○		○	
98	ピリフタリド					○	○	○		○	
99	クロメプロップ									○	
100	ブタフェナシル						○	○			
101	ベンダイオカルブ						○	○		○	
102	ジメチリモール									○	
103	ナプロアニリド										
104	フラチオカルブ						○	○			
105	フラメピル						○	○		○	
106	オリザリン									○	
107	フェリムゾン						○	○		○	
108	フェンメディファム						○	○			

○:不検出

表1-2 国内産農産物の残留農薬検査結果(続き)

単位:mg/kg、括弧内は基準値

農産物名	ピーマン		キャベツ			さつまいも	さつまいも (紅あずま)	かぼちゃ	(男しやく) じゃがいも
	茨城県	福島県	群馬県	岩手県	神奈川県	千葉県	茨城県	神奈川県	北海道
109	ヘキサフルムロン						○	○	○
110	プロパキザホップ						○	○	
111	クロロスロン					○	○	○	
112	テブチウロン						○	○	○
113	クミルロン					○			○
114	ジフルベンズロン								
115	ペンシクロン						○	○	○
116	シクロエート								○
117	ダイムロン								○
118	トリチコナゾール								○
119	フェントエート	○	○	○	○			○	
120	ホサロン	○	○	○	○			○	
121	エンドスルファン	○	○	○	○			○	
122	フェナリモル	○	○	○	○			○	
123	ブプロフェジン	○	○	○	○			○	
124	ピリダベン								
125	ペンディメタリン								
126	ジエトフェンカルブ								
127	イソプロチオラン	○	○						
128	カフェンストロール								
129	フェンスルホチオン								
130	アザコナゾール				○	○			
131	キノクラミン(ACN)								
132	プロピコナゾール								
133	ピリダフェンチオン	○	○	○				○	
134	プロフェノホス	○	○	○	○			○	
135	フィプロニル	○	○	○	○			○	
136	シフルトリン	○	○						
137	フルバリネート	○	○						
138	ビペロホス								
139	シハロホップブチル								
140	ピラゾホス			○				○	
141	エトリムホス				○	○			
142	ベンフルラリン			○				○	
143	サリチオン					○			
144	ジクロフェンチオン							○	
145	フルキンコナゾール							○	
146	ジチオピル								
147	アザメチホス								○
148	スピノサド								
149	ピラゾリネート								
150	エディフェンホス								
151	ビフェノックス								

検査依頼項目

○:不検出

表1-3 国内産農産物の残留農薬検査結果

単位:mg/kg、括弧内は基準値

農産物名	ほうれん草	小松菜	こかぶ	大根		黄芯白菜	春菊	(コシヒカリ)	大豆	日本(幸水)
	栃木県	群馬県	千葉県	神奈川県	茨城県	群馬県	長野県	北海道	栃木県	
検査依頼項目数	50	50	50	50	50	49	50	50	50	50
検出項目	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
検査依頼項目数	1 エチオン	○	○							○
	2 エトプロホス	○	○							
	3 カズサホス	○	○					○	○	○
	4 キナルホス	○	○					○	○	○
	5 クロルピリホス	○	○					○	○	○
	6 クロルピリホスメチル	○	○					○	○	○
	7 クロルフェンビンホス	○	○					○	○	○
	8 シアノホス	○	○					○	○	○
	9 テルブホス	○	○					○		
	10 トルクロホスメチル	○	○					○	○	○
	11 パラチオン(パラチオンエチル)	○	○						○	○
	12 パラチオンメチル	○	○					○	○	○
	13 ビラクロホス	○	○					○	○	○
	14 ピリミホスメチル	○	○					○	○	○
	15 フェナミホス	○	○					○	○	○
	16 フェニトロチオン(MEP)	○	○					○	○	○
	17 プタミホス	○	○					○	○	○
	18 プロチオホス	○	○					○		○
	19 ホスチアゼート		○					○		○
	20 マラチオン(マラソン)	○						○	○	○
	21 メチダチオン	○	○					○	○	○
	22 ジメトエート	○						○	○	○
	23 アゾキシストロビン	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	24 アトラジン	○	○					○	○	○
	25 アラクロール	○	○					○	○	○
	26 クレソキシムメチル	○	○					○	○	
	27 ジクロラン									
	28 トリアレート	○	○					○		○
	29 ビフェントリン	○	○					○		○
	30 フェンバレレート							○	○	○
	31 フェンプロバトリン	○	○						○	
	32 フサライド	○	○					○	○	
	33 フルトラニル	○	○					○	○	
	34 プロモプロピレート	○	○					○	○	○
	35 ミクロブタニル	○	○						○	○
	36 レナシル		○					○	○	○
	37 ジフェノコナゾール	○	○					○	○	○
	38 シフルフェナミド	○	○		○	○		○		○
	39 アクリナトリン							○	○	○
	40 ジメチピン	○						○		○
	41 フルシトリネート		○					○	○	○
	42 EPN	○	○					○	○	○
	43 クロルフェナピル								○	○
	44 アジンホスメチル		○	○	○	○	○	○		○
	45 ジメチルビンホス							○		
	46 ダイアジノン	○	○					○	○	○
	47 テトラクロルビンホス	○	○					○		
	48 ホレート	○	○							
	49 クロルプロファム	○	○						○	

○:不検出

表1-3 国内産農産物の残留農薬検査結果(続き)

単位:mg/kg、括弧内は基準値

農産物名	ほうれん草	小松菜	こかぶ	大根		黄芯白菜	春菊	(コシヒカリ)	大豆	(幸水)
	栃木県	群馬県	千葉県	神奈川県	茨城県	群馬県	長野県	北海道	栃木県	
50 シアナジン	○	○							○	
51 シメコナゾール	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
52 シプロロジニル			○	○	○	○	○			
53 クロフェンテジン			○			○	○			
54 アニロホス			○			○	○			
55 カルバリル			○	○	○	○	○			
56 カルプロバミド			○			○	○			
57 テブフェノジド			○	○	○	○	○			
58 テフルベシズロン			○	○	○	○	○			
59 フェノプカルブ			○	○	○	○	○			
60 イミダクロプリド				○	○		○			
61 インダノファン			○			○	○			
62 エボキシコナゾール			○			○	○			
63 オキサジクロメホン			○			○	○			
64 クロキントセットメキシル			○	○	○	○	○			
65 クロチアニジン							○			
66 シアゾファミド			○	○	○	○	○			
67 ジメトモルフ			○	○	○	○	○			
68 チアトキサム			○			○	○			
69 トリフルムロン			○	○	○	○	○			
70 ノバルロン			○	○	○	○	○			
71 ピラクロストロピン			○	○	○	○	○			
72 ピリミカーブ			○	○	○	○	○			
73 フェンアミドン			○	○	○	○	○			
74 フェンピロキシメート			○	○	○		○			
75 フルフェノクスロン			○	○	○	○	○			
76 フルリドン			○	○	○	○	○			
77 ヘキシチアズクス			○	○	○	○	○			
78 ベンゾフェナップ			○	○	○	○	○			
79 メキシフェノジド			○	○	○	○	○			
80 モリニューロン			○			○	○			
81 ラクトフェン			○	○	○	○	○			
82 フェノキシカルブ			○	○	○	○	○			
83 インドキサカルブ			○	○	○	○	○			
84 オキサミル							○			
85 ルフェヌロン			○	○	○	○	○			
86 クロマフェノジド				○	○	○	○			
87 クロルフルアズロン			○	○	○	○	○			
88 イマザリル			○	○	○	○				
89 イプロバリカルブ			○	○	○	○				
90 オキシカルボキシシ			○			○				
91 クロリダゾン			○	○	○	○				
92 ジウロン			○	○	○	○				
93 ボスカリド			○	○	○	0.012(40)				
94 メタベンズチアズロン			○	○	○	○				
95 チアベンダゾール			○	○	○	○				
96 チアクロプリド										
97 チオジカルブ及びメソミル										
98 ピリフタリド			○	○	○	○	○			
99 クロメブロップ				○	○		○	○		

検査依頼項目

○:不検出

表1-3 国内産農産物の残留農薬検査結果(続き)

単位:mg/kg、括弧内は基準値

農産物名	生産地区	ほうれん草	小松菜	こかぶ	大根		黄芯白菜	春菊	(コシヒカリ) 玄米	大豆	日本(幸水) なし
		栃木県	群馬県	千葉県	神奈川県		茨城県	群馬県	長野県	北海道	栃木県
100	ブタフェナシル				○	○					
101	ベンダイオカルブ			○	○	○					
102	ジメチリモール				○	○					
103	ナプロアニリド				○	○					
104	フラチオカルブ										
105	フラメトピル			○	○	○					
106	オリザリン				○	○					
107	フェリムゾン				○	○					
108	フェンメディファム				○	○					
109	ヘキサフルムロン										
110	プロバキザホップ										
111	クロクスロン			○			○	○			
112	テプチウロン			○			○	○			
113	クミルロン			○			○				
114	ジフルベンズロン				○	○	○				
115	ペンシクロン				○	○					
116	シクロエート							○			
117	ダイムロン							○			
118	トリチコナゾール							○			
119	フェントエート	○	○						○	○	○
120	ホサロン	○									○
121	エンドスルファン		○						○	○	○
122	フェナリモル	○	○							○	○
123	ブプロフェジン	○	○						○	○	○
124	ピリダベン										○
125	ペンディメタリン										○
126	ジエトフェンカルブ										○
127	イソプロチオラン								○	○	○
128	カフェンストール										
129	フェンスルホチオン									○	
130	アザコナゾール									○	
131	キノクラミン(ACN)								○		
132	プロピコナゾール										
133	ピリダフェンチオン		○								
134	プロフェノホス										
135	フィプロニル	○	○						○	○	
136	シフルトリン								○	○	
137	フルバリネート									○	○
138	ビペロホス	○									
139	シハロホップチル	○							○	○	
140	ビラゾホス	○									
141	エトリムホス		○								
142	ベンフルラリン										
143	サリチオン										
144	ジクロフェンチオン										
145	フルキンコナゾール										○
146	ジチオピル								○	○	
147	アザメチホス							○			
148	スピノサド							○			
149	ビラゾリネート				○	○	○				
150	エディフェンホス								○		
151	ビフェノックス								○		

検査依頼項目

○:不検出

表2 輸入農産物の残留農薬検査結果

単位:mg/kg、括弧内は基準値

農産物名	バナナ	グレープフルーツ	メロゴールド		パプリカ		農産物名	バナナ	グレープフルーツ	メロゴールド	パプリカ			
			エクアドル	アメリカ	オランダ	ニュージーランド					エクアドル	アメリカ	オランダ	ニュージーランド
検査依頼項目数		50	50	50	50	50	36	クレンキシムメチル	○	○	○	○	○	
検出項目		1	0	0	0	0	37	クロルフェンゾン	○					
検査依頼項目	1	EPN	○	○	○	○	○	38	シメコナゾール	○	○	○		
	2	アジンホスメチル	○				39	トリアレート	○	○	○	○	○	
	3	エチオン	○	○	○	○	○	40	ハルフェンプロックス	○	○			
	4	エトプロホス	○	○	○	○	○	41	ビフェントリン	0.011(0.1)	○	○	○	○
	5	エトリムホス	○		○		42	フィプロニル	○	○	○	○	○	
	6	カズサホス	○	○	○	○	○	43	フェンバレレート	○	○	○	○	○
	7	キナルホス	○	○	○	○	○	44	フェンプロバトリン	○	○	○	○	○
	8	クロルピリホス	○	○	○	○	○	45	プロフェジン	○	○	○	○	○
	9	クロルピリホスメチル	○	○	○	○	○	46	ミクロブタニル	○	○	○		
	10	クロルフェンビンホス	○	○	○	○	○	47	レナシル	○	○	○	○	○
	11	シアノホス	○	○	○	○	○	48	ジフェノコナゾール	○			○	○
	12	ジクロフェンチオン	○		○			49	シフルフェナミド	○			○	○
	13	テルブホス	○	○	○	○	○	50	フルシトリネート	○	○	○	○	○
	14	トルクロホスメチル	○	○	○	○	○	51	エディフェンホス	○	○	○		
	15	パラチオン(パラチオンエチル)	○	○	○	○	○	52	ダイアジン	○	○	○	○	○
	16	パラチオンメチル	○	○	○	○	○	53	ピリダフェンチオン	○	○	○	○	○
	17	ピラクロホス	○			○	○	54	ブタミホス	○	○	○	○	○
	18	ピリミホスメチル	○	○	○	○	○	55	イソプロチオラン		○		○	○
	19	フェナミホス	○	○	○			56	エンドスルファン		○	○	○	○
	20	フェニトロチオン(MEP)	○	○	○		○	57	トリブホス(DEF)		○			
	21	フェンシルホチオン	○					58	ピラゾホス		○			
	22	フェントエート	○	○	○	○	○	59	フェナリモル		○	○	○	○
	23	プロチオホス	○	○	○			60	フサライド		○	○	○	○
	24	プロフェノホス	○		○	○	○	61	フルキンコナゾール		○			
	25	ホサロン	○	○		○	○	62	プロモプロピレート		○	○	○	○
	26	ホスチアゼート	○	○	○	○	○	63	クロルプロファミ				○	○
	27	ホスファミドン	○					64	フルトラニル				○	○
	28	ホレート	○	○	○			65	ベンフルラリン				○	
	29	マラチオン(マラソン)	○	○	○	○	○	66	アクリナトリン				○	○
	30	メチダチオン	○	○	○	○	○	67	シフルトリン				○	○
	31	ジメトエート	○			○	○	68	フルバリネート				○	○
	32	アゾキシストロピン	○			○	○	69	ジメチルビンホス			○		
	33	アザコナゾール	○	○				70	テトラクロルビンホス			○		
	34	アトラジン	○	○	○	○	○	71	ピペロホス			○		
	35	アラクロール	○	○	○	○	○	72	アニロホス			○		

○:不検出

表3 輸入畜産物の残留農薬検査結果

単位:mg/kg、括弧内は基準値

畜産物名	牛				豚		鶏肉(もも肉)		畜産物名	牛				豚		鶏肉(もも肉)									
	牛肉	牛肉(バラ)	豚肉	豚肉(ヒレ)	鶏肉	鶏肉(もも肉)	牛肉	牛肉(バラ)		豚肉	豚肉(ヒレ)	鶏肉	鶏肉(もも肉)	牛肉	牛肉(バラ)	豚肉	豚肉(ヒレ)	鶏肉	鶏肉(もも肉)						
検査依頼項目数	12	12	12	12	12	12	検査依頼項目	4	BHC	○	○	○	○	○	○	○	9	クロルデン	○	○	○	○	○	○	
検出項目	0	0	0	0	0	0	5	γ-BHC	○	○	○	○	○	○	○	○	10	ジコホール	○	○	○	○	○	○	
検査依頼項目	1	エンドスルファン	○	○	○	○	○	○	6	DDT	○	○	○	○	○	○	○	11	ヘキサクロベンゼン	○	○	○	○	○	○
	2	ビフェントリン	○	○	○	○	○	○	7	アルトリン及びディルドリン	○	○	○	○	○	○	○	12	ヘプタクロ	○	○	○	○	○	○
	3	プロシミドン	○	○	○	○	○	○	8	エンドリン	○	○	○	○	○	○	○								

○:不検出

イ 残留動物用医薬品検査

(7) 国内産畜産物の検査

保健所及び中央卸売市場食品衛生検査所依頼分の11検体・計192項目について検査を実施したところ、検出が認められた検体は無かった(表4)。

(イ) 輸入畜水産物及び水産物の検査

保健所及び中央卸売市場食品衛生検査所依頼分の15検体・計218項目について検査を実施したところ、検出が認められた検体は無かった(表5)。

表4 国産畜産物の動物用医薬品検査結果

単位:mg/kg、括弧内は基準値

畜産物名	鶏肉(むね肉)		鶏肉(ささみ)		鶏卵(赤玉)		鶏卵(白玉)		牛肉(ネック)	豚肉(カタローズ)	
	青森県	岩手県	宮崎県	岩手県	福島県	岩手県	福島県	(市外)			
検査依頼項目数	18	18	18	18	18	17	17	17	17	17	
検出項目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
検査依頼項目	1	トリメブリン					○	○	○	○	
	2	スルファジアジン	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	3	オルメブリン					○	○	○	○	
	4	スルファピリジン	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	5	スルファメラジン	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	6	スルファジミジン(スルファメサジン)	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	7	スルファメキシピリダジン	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	8	スルファモノメキシ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	9	スルファクロルピリダジン	○	○	○	○					○
	10	スルファメキサゾール	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	11	スルファドキシ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	12	スルファキノキサリン	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	13	スルファジメキシ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	14	スルファニトラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	15	フルメキン	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	16	ミロキサシ	○	○	○	○					○
	17	オキシロニック酸	○	○	○	○	○	○	○	○	
	18	ピロミド酸	○	○	○	○					○
	19	ジフロキサシ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	20	ナリジクス酸	○	○	○	○	○	○	○	○	○

○:不検出

表5 輸入畜水産物の動物用医薬品検査結果

単位:mg/kg、括弧内は基準値

畜水産物名	牛肉	牛肉 (バラ)	豚肉	豚肉 (ヒレ)	鶏肉	鶏肉 (もも肉)	えび	ブラックタイガー				(バナメイエビ) むき海老	バナメイエビ	サーモン	サーモン トラウト
生産国	オーストラリア		アメリカ		ブラジル		インドネシア				ベトナム	インド	チリ		
検査依頼項目数	17	17	17	17	18	18	13	13	13	13	13	13	12	12	12
検出項目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
検査依頼項目	1 トリメプリム	○	○				○	○	○	○	○	○			
	2 スルファジアジン	○	○	○	○	○							○	○	○
	3 オルメプリム	○	○					○	○	○	○	○			
	4 スルファピリジン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	5 スルファメラジン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	6 スルファジミジン(スルファメサジン)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	7 スルファメキシピリダジン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	8 スルファモノメキシシ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	9 スルファクロルピリダジン			○	○	○									
	10 スルファトキサゾール	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	11 スルファドキシシ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	12 スルファキノキサリン			○	○	○									
	13 スルファジメキシシ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	14 スルファニトラン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
	15 フルメキン	○	○	○	○	○	○								
	16 ミロキサシ			○	○	○								○	○
	17 オキシロニック酸	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	18 ピロミド酸	○	○	○	○	○									
	19 ジフロキサシ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
	20 ナリジクス酸	○	○	○	○	○								○	○

○:不検出

ウ 放射性物質検査

平成23年3月11日の福島第一原発事故後より放射性ヨウ素(ヨウ素 131)と放射性セシウム(Cs-134とCs-137)について測定を行っている。保健所及び上下水道局水道水質課から依頼のあった、総数10検体・延べ20項目(内訳:食品2検体4項目、水など環境試料8検体16項目)について放射能検査(放射性セシウム測定)を実施した。

また、チェルノブイリ原発事故後、放射性セシウム(Cs-134とCs-137)について、平成元年から市内に流通する輸入食品を対象に行っており、今年度は1検体2項目の検査を実施した。

(7) 市内流通食品

保健所依頼分の、市内に流通する一般食品3検体について検査を実施したところ、国産干し芋にCs-137が2.1 Bq/kg、輸入食品のポルチーニにCs-137が2.5 Bq/kg(基準値(Cs-134及び137の合計で100 Bq/kg以下))検出した(表6)。

(イ) 水道水

上下水道局水道水質課依頼分の水道原水及び配水8検体について検査を実施したところ、検査結果は全て不検出であった(表7)。

表6 市内流通食品の放射性物質検査結果

基準値 適応区分	品名	検査件数	原材料等産地 又は 製造所等所在地	放射性セシウム(Bq/kg)	
				Cs-134	Cs-137
一般食品	干し芋	1	茨城県	不検出(2.3 Bq/kg 未満)	2.1 Bq/kg
	さくらんぼゼリー	1	山形県	不検出(2.1 Bq/kg 未満)	不検出(2.0 Bq/kg 未満)
	ポルチーニ	1	ルーマニア	不検出(2.3 Bq/kg 未満)	2.5 Bq/kg

表7 水道水等の放射性物質検査結果

基準値 適応区分	品名	検査件数	水源地	放射性セシウム(Bq/kg)	
				Cs-134	Cs-137
飲料水	水道原水	4	神奈川県	不検出(1.0 Bq/kg 未満)	不検出(1.0 Bq/kg 未満)
	水道水	4	神奈川県	不検出(1.0 Bq/kg 未満)	不検出(1.0 Bq/kg 未満)

3 微生物部門

(1) 消化器・食品細菌担当

腸管系細菌検査では、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づく届出及び市内外の食中毒の発生により消化器症状（下痢、腹痛等）を呈した患者やその接触者から腸管系感染症原因菌（コレラ菌、赤痢菌、チフス菌・パラチフス A 菌、腸管出血性大腸菌等）の分離・同定を行い、市内における食中毒被害の拡大防止や感染症のまん延防止に寄与している。また、分離された原因菌について、遺伝子解析を行い得られた分子疫学解析結果を保健所等の行政機関に還元している。

食品細菌検査では、食中毒予防等のため、川崎市食品衛生監視指導計画に基づき保健所及び 7 保健所支所から搬入された市内流通食品（食肉製品、乳製品、弁当類、そうざい等）について、食品衛生法に基づく成分規格検査や衛生指導検査（細菌数、大腸菌群、サルモネラ属菌、黄色ブドウ球菌、腸管出血性大腸菌等）を実施している。また、川崎市食品 GLP の対応として、外部精度管理調査（一般細菌数測定、黄色ブドウ球菌、サルモネラ属菌、大腸菌群、E.coli 検査）に年 5 回参加している。

ア 腸内細菌

(7) 感染性細菌検査

感染症の発生に伴う感染性細菌検査や市内医療機関で分離された菌株について、354 検体、669 項目の検査を実施した。月別検査件数は、表 1 のとおりである。また、菌種別の検出状況は、表 2 のとおりである。

分離又は搬入された腸管出血性大腸菌 98 検体（すべて感染症検体由来）についての血清型及び毒素型は、表 3 に示すとおりである。カルバペネム耐性腸内細菌目細菌（CRE）の β -ラクタマーゼ遺伝子検査は、届出対象外も

含め、41 検体が搬入された。菌種別カルバペネマーゼ遺伝子の保有状況は、表 4 のとおりである。

(4) 細菌性食中毒検査

市内の食中毒や有症苦情及び他都市食中毒関連調査の検体が 559 検体搬入された。月別検査件数は、表 5 のとおりで、カンピロバクター・ジェジュニが 22 件で、最も多く検出された。

イ 食品細菌

食品細菌検査は、表 6 に示すとおりである。総検体数は 1046 検体で、不適項目（食品衛生法成分規格及び川崎市の食品等の衛生指導基準等による）は延べ 101 件（9.66%）で、成分規格違反はなく、すべて川崎市衛生指導基準等による不適件数であった。

食品別の細菌検出状況については、大腸菌群は非加熱そうざい、弁当類、加熱そうざい等から、セレウス菌は非加熱そうざい、豆腐等から、腸炎ビブリオは魚介類等から、ウェルシュ菌は加熱そうざい等から検出されている。

ウ 水質検査

水質細菌検査は、総検体数 335 検体（井戸水 83 検体、浴槽水 159 検体、貯水槽水 9 検体、プール水 84 検体等）が搬入された。

水質基準に関する省令、遊泳用プールの衛生基準等を基に一般細菌数及び大腸菌又は大腸菌群の検査を実施し、井戸水で一般細菌数 17 件、大腸菌 2 件、プール水で一般細菌数 2 件、浴槽水で大腸菌群 3 件が基準不適であった。

表1 感染性細菌検査における月別検査件数（菌株含む）

項目	検体数	コレラ菌	赤痢菌	チフス菌	パラチフスA菌	下痢原性大腸菌	サルモネラ属菌 (チフス菌・パラチフスA菌を除く)	腸炎ビブリオ(コレラ菌を除く)	カンピロバクター・ジエジュニ	カンピロバクター・コリ	エルシニア・エンテロコリチカ	ナグビブリオ	ビブリオ・フルビアリス	ビブリオ・ファアーニシイ	エロモナス・フィドロフィラ	エロモナス・ソブリア	プレシオモナス・シゲロイデス	※1 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	その他	総項目数
月																				
4月	5	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	5
5月	27	9	9	9	9	62	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	1	0	198
6月	37	0	1	1	1	35	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	6	0	47
7月	60	0	1	0	0	56	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	60
8月	86	1	1	1	1	87	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	0	105
9月	39	0	0	0	0	35	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	39
10月	23	0	0	0	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	23
11月	26	0	0	0	0	23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	26
12月	21	1	1	5	1	15	1	1	2	2	1	1	1	1	1	1	1	5	0	41
1月	14	1	1	4	1	11	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	4	0	33
2月	9	1	1	1	1	10	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	0	28
3月	7	3	3	3	3	15	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	4	0	64
総計	354	16	18	24	17	370	17	16	18	18	16	16	16	16	16	16	16	41	2	669

※1 β-ラクタマーゼ遺伝子検査

表2 感染性細菌検査における検出状況（菌株含む）

項目	コレラ菌	赤痢菌	チフス菌	パラチフスA菌	下痢原性大腸菌 (腸管出血性大腸菌を除く)	腸管出血性大腸菌	サルモネラ属菌 (チフス菌・パラチフスA菌を除く)	腸炎ビブリオ (コレラ菌を除く)	カンピロバクター・ジエジュニ	カンピロバクター・コリ	エルシニア・エンテロコリチカ	ナグビブリオ	ビブリオ・フルビアリス	ビブリオ・ファアーニシイ	エロモナス・フィドロフィラ	エロモナス・ソブリア	プレシオモナス・シゲロイデス	※1 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	その他	検出細菌数 合計
月																				
4月																				0
5月						5													1	6
6月						10												1		11
7月						22												2		24
8月						21														21
9月						14												1		15
10月						8														8
11月						7												1	2	10
12月			3			6												1		10
1月						3												1		4
2月						2												1		3
3月									1									3		4
検出件数	0	0	3	0	0	98	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	11	3	116

※1 β-ラクタマーゼ遺伝子検出検体

表3 腸管出血性大腸菌のO血清群及び毒素型

O血清群	毒素型	株数
O26	VT1	4
O157	VT2	38
O157	VT1&2	36
O103	VT1	4
O103	VT1&2	1
O111	VT1&2	1
O91	VT1	1
O91	VT1&2	1
O137	VT2	3
OUT	VT1	3
OUT	VT2	2
OUT	VT1&2	4
計		98

表4 カルバペネム耐性腸内細菌目細菌（CRE）の菌種別遺伝子検出状況（令和5年4月～令和6年3月）

菌種	遺伝子検査 実施数	カルバペネマーゼ遺伝子 保有数	カルバペネマーゼ遺伝子 内訳
<i>Enterobacter cloacae</i>	18	2	IMP-1
<i>Klebsiella aerogenes</i>	19	0	—
<i>Escherichia coli</i>	2	2	NDM-5、NDM-7
<i>Klebsiella pneumoniae</i>	2	0	—
計	41	4	

表5 細菌性食中毒検査における月別検査件数及び検出状況（菌株含む）

項目	検体数	赤痢菌	サルモネラ属菌 (チフス菌、パラチフスA菌を除く)	病原性大腸菌 (腸管出血性大腸菌を除く)	腸管出血性大腸菌	腸炎ビブリオ (コレラ菌含む)	黄色ブドウ球菌	カンピロバクター・ジェジュニ	カンピロバクター・コリ	ウエルシユ菌	エルシニア・エンテロコリチカ	ナグビブリオ(コレラ菌非O1)	ビブリオ・フルビアリス	ビブリオ・ファーンシイ	エロモナス・フィドロフィラ	エロモナス・ソブリア	プレシオモナス・シゲロイデス	セレウス菌	クドア・セブテンブククタータ	検出細菌種数 合計
月																				
4月	4							1												1
5月	22						1	1												2
6月	2						1	2												3
7月	37		4				2													6
8月	50				1		1													2
9月	6						1	2												3
10月	109						2	3		5										10
11月	42							1		5										6
12月	17						1	2												3
1月	71		2					4		2										8
2月	72							5		1										6
3月	127						3	1	1	1										6
総計	559	0	6	0	1	0	12	22	1	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	56

(2) 呼吸器・環境細菌担当

結核菌・レジオネラ属菌・溶血性レンサ球菌・インフルエンザ菌・百日咳菌等の呼吸器系細菌や髄膜炎菌等の検査ならびに研究を行っている。

ア 結核関連検査

(7) 塗抹・培養検査

結核登録患者管理検診、結核患者接触者健診対象者に対して塗抹・培養検査を実施している。

令和 5 年度は 68 件の搬入があった。結果は全て陰性であった。

(4) I G R A 検査

結核患者接触者健診において IGRA 検査を実施している。QFT-PLUS 検査件数は 271 件で、結果は表 1 に示すとおり陽性 34 件(12.5%)、陰性 237 件(87.5%)であった。

(7) 結核菌分子疫学解析

川崎市分子疫学調査として、平成 25 年度から川崎市内で発生届のあった患者の菌株を収集し、JATA15-VNTR 法で遺伝子解析を行っている。令和元年度から解析領域を 24 領域に拡大し、解析を実施している。

令和 5 年度は菌株 55 株が搬入され遺伝子解析を行った。更に、患者の疫学情報とあわせて分析を行い、菌バンクとしてデータを蓄積した。

イ レジオネラ属菌検査

浴槽水等の環境水、レジオネラ症患者発生時の患者喀痰や患者環境調査検体等からのレジオネラ属菌の分離培養を行った。また、遺伝子検査として LAMP 法を行った。

レジオネラ属菌検査の総数は 284 件、LAMP 法は 29 件であった。

各検査材料別の件数および検出血清型は表 2-1 及び表 2-2 に示すとおりである。

ウ 感染症発生動向調査

A 群溶血性レンサ球菌検査について、令和 5 年度は 7 件の搬入があった。このうち 5 件で A 群溶血性レンサ球菌が検出された。T 型別結果は表 3 に示すとおりである。

エ 感染症細菌検査

感染症の発生に伴う細菌検査や市内医療機関で分離された菌株について検査を実施した。

インフルエンザ菌は 10 株搬入され、f 型 1 株、e 型 1 株、non-typable (NTHi) 8 株であった。

劇症型溶血性レンサ球菌は 17 症例 18 株搬入され、A 群 11 株、B 群 1 株、G 群 5 株であった。型別結果は表 4 に示すとおりである。

肺炎球菌は 24 症例 24 株の搬入があり、血清型別を行った。血清型別結果は表 5 に示すとおりである。

表1 QFT-PLUS検査

依頼件数	陽 性	陰 性	判定不可
271	34(12.5%)	237(87.5%)	0(0.0%)

表2-1 レジオネラ属菌検出状況

		環境			感染症		計
		浴槽水	採暖槽水	シャワー水等	喀痰	患者環境調査	
総検体数		187	33	8	12	44	284
検出検体数(※)		28	10		2		40
検 出 数	<i>L. pneumophila</i>	計	39	12		2	53
	血 清 群	SG1	7	2		2	11
		SG3	6	1			7
		SG5	9	3			12
		SG6	5	2			7
		SG7	2	1			3
		SG8	2	3			5
		SG9	2				2
		SG10	1				1
		SG12	4				4
		SGUT	1				1

※ 1検体から複数の属・血清群が分離された場合は1と計上

表2-2 LAMP法によるレジオネラ属菌遺伝子検出状況

	環境		感染症		計
	浴槽水	採暖槽水	喀痰	患者環境調査	
総検体数	16	2	4	7	29
検出検体数	9			1	10

表3 A群溶血性レンサ球菌 T 型別

区分	T 型別				計
	T1	T12	T28	型別不能	
件数	2	1	1	1	5

表4 劇症型溶血性レンサ球菌 型別

区分	A群		B群	G群	計
	T 型別				
	T1	型別不能			
件数	6	5	1	5	17

表5 肺炎球菌 血清型別

区分	血清 型別															計
	13価ワクチン含有株		23価ワクチン含有株													
	3	19A	8	11A/E	15B	22F	21	24F	31	35B	24B	15C	37	25F	34	
件数(15歳未満)						1	1	2		1	1					6
件数(15歳以上)	4	1	1	1	1				1	3	2	1	1	1	1	18

(3) ウイルス・衛生動物担当

ウイルス・衛生動物検査担当では、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症法）に基づく感染症発生動向調査事業及び感染症対策における積極的疫学調査等により、患者等から採取された検体について、ウイルス及びリケッチアの検査を行っている。また、食品衛生法に基づくノロウイルス等食中毒起因ウイルスの検査及びクモ・アリ等の衛生害虫の同定検査を行っている。

ア 感染症対策におけるウイルス等検査

(7) 感染症発生動向調査事業

市内の病原体定点医療機関等においてインフルエンザ様疾患、RS ウイルス感染症、伝染性紅斑、水痘、手足口病、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱、流行性角結膜炎、無菌性髄膜炎、感染性胃腸炎、急性脳炎（急性脳症含む）及び急性弛緩性麻痺と診断された患者から採取された 327 検体について、遺伝子検査及び培養細胞を用いたウイルス分離培養を行った。結果については月別件数を表 1、疾患別件数を表 2 に示した。

(イ) 発熱発疹性ウイルス検査

医療機関において麻しん又は風しん（疑い含む）と診断された患者 16 名の検体について遺伝子検査を行った。その結果、麻しんウイルス及び風しんウイルスはすべて陰性であった。なお、先天性風しん症候群の検査依頼はなかった。

(ウ) 蚊媒介感染症検査

医療機関においてデング熱（疑い含む）又はチクングニア熱疑いと診断された患者 6 名について遺伝子検査を実施した。5 名がデングウイルス陽性となり、デングウイルス 2 型が 3 例、1 型と 3 型が各 1 例から検出された。

(エ) ダニ媒介感染症検査

医療機関において日本紅斑熱疑い、つつが虫病疑いと診断された患者 2 名について日本紅斑熱を含むリケッチア及びつつが

虫病リケッチアの遺伝子検査を実施し、日本紅斑熱リケッチアが 1 例陽性であった。また、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）疑いと診断された患者について SFTS ウイルスの遺伝子検査を行い、陰性であった。

(オ) A 型肝炎・E 型肝炎ウイルス検査

医療機関において E 型肝炎と診断された患者の計 12 名について、型別のための遺伝子検査を行った。E 型肝炎ウイルス G3 が 4 例から検出された（表 3）。なお、A 型肝炎の検査依頼はなかった。

(カ) エムポックスウイルス検査

医療機関においてエムポックス（サル痘）疑いと診断された患者 2 名についてエムポックスウイルス及び水痘帯状疱疹ウイルスの遺伝子検査を実施したところ、すべて陰性であった。

(キ) 小児の原因不明急性肝炎ウイルス検査

「欧州及び米国における小児の原因不明の急性肝炎の発生について（協力依頼）」（令和 4 年 4 月 27 日付け厚生労働省県境局結核感染症課事務連絡）に基づき、医療機関から搬入された患者 1 名の検体について、原因探索のためのウイルス遺伝子検査を実施したが、すべて陰性であった。なお、令和 5 年 8 月で本件に係る保健所における調査は終了した。

(ク) 中東呼吸器症候群（MERS）検査

中東に渡航歴があり、中東呼吸器症候群（MERS）疑いと医療機関において診断された患者 2 名について原因探索のためのウイルス遺伝子検査を実施した。MERS コロナウイルスはすべて陰性であり、新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）が 1 名陽性であった。

(ケ) 集団かぜ患者のインフルエンザウイルス検査

市内各区における小学校の集団かぜ初発患者から鼻腔ぬぐい液を採取し、PCR 及びウイルス分離培養にて検査を行った。その結果、7 集団でインフルエンザウイルスが

検出された(表 4)。

(コ) 新型コロナウイルス検査

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、令和5年5月8日から感染症法上の位置付けが新型インフルエンザ等感染症(いわゆる2類相当)から5類感染症となり、新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)の保健所支所からの検査の依頼目的は、主に社会福祉施設での集団発生の拡大防止であった。発症者及び濃厚接触者等の鼻咽頭ぬぐい液又は唾液等136検体についてリアルタイムPCR検査を行ったところ15例が陽性となった(表5-1)。

また、令和3年2月5日付け厚生労働省健康局結核感染症課長通知(健感発0205第4号)「新型コロナウイルス感染症の積極的疫学調査におけるゲノム解析及び変異株PCR検査について(要請)」に基づき、類型変更後も新たな懸念される変異株の出現に注意が必要であることから、令和5年5月8日から市内14医療機関の協力のもとSARS-CoV-2ゲノムサーベイランス事業を開始した。COVID-19の患者1,034例について次世代シーケンサーを用いたゲノム解析を実施し、結果は随時川崎市健康安全研究所ホームページで公開した(表5-2)。令和5年4月頃はオミクロン株のBA.2の亜系統の組換え体であるXBB系統が主流であり、中でもEG.5系統が5月下旬から増えて主流となった。11月中旬からはBA.2.86系統が増加し、12月からその亜系統であるJN.1系統が出現し増加し、令和6年1月中旬には主流となった。

(ク) 感染症媒介蚊のウイルス検査

蚊媒介感染症の流行を早期に把握する

ため、感染症媒介蚊の発生数及び分布域等のモニタリング及びウイルス保有状況の検査を実施している。市内8箇所において、令和5年5月から10月まで捕集された蚊について種別し、その雌成虫236匹(表6-1、6-2)を用いて蚊媒介感染症のウイルス検査を行った。その結果、ウエストナイルウイルス、デングウイルス、チクングニアウイルス及びフラビウイルス属(ジカウイルスを含む)は、いずれも不検出であった。

イ 食中毒起因ウイルス検査

(7) 食中毒原因究明のための検査

食中毒の原因究明のため、食中毒症状を呈した患者の臨床検体や原因と疑われる施設従業員の検便検体(計320検体)について食中毒起因ウイルスの遺伝子検査を行い、92例でノロウイルスが検出された(表7)。最も多く検出された遺伝子型はGII.4の69例で、次いでGII.2の12例、GI.1の11例であった。また、食中毒疑い事例に伴い検査依頼のあった食品及び拭き取り液208検体についてノロウイルス検査を行ったところ、食品(生かき)1検体からノロウイルスGI.3が陽性となった(表8)。

(イ) 収去検査

中央卸売市場北部市場で流通している生かき10検体についてノロウイルス検査を実施したところ、すべて陰性であった。

ウ 衛生動物検査

保健所に相談があった虫体又は卵のうち2検体について、形態学的同定検査及び遺伝子検査を行い、それぞれシロホシヒメグモ、ハイイロゴケグモと同定した。

表1 感染症発生動向調査事業におけるウイルス検出状況（月別）

発症年月	R5.4	5	6	7	8	9	10	11	12	R6.1	2	3	合計
検査検体数	18	26	41	30	18	34	22	30	30	30	21	27	327
検査症例数	18	17	33	18	12	26	22	26	24	24	17	21	258
ウイルス検出症例数	14	13	30	15	10	23	18	21	23	19	14	17	217
インフルエンザウイルスAH1型	1		4	1	1	2	2	7	5	3	1	3	30
インフルエンザウイルスAH3型	7	3	2	3	4	13	9	7	9	6	1		64
インフルエンザウイルスB型						1			1	8	9	8	27
RSウイルスA型			1								1	2	4
RSウイルスB型			2								1	1	4
パラインフルエンザウイルス1型									1				1
パラインフルエンザウイルス2型						1							1
パラインフルエンザウイルス3型		1											1
パラインフルエンザウイルス4型			1	1									2
ライノウイルス	2	4	2	1			3		1				13
アデノウイルス3型							1	3	4				8
アデノウイルス54型						2							2
コクサッキーウイルスA2型		1	2										3
コクサッキーウイルスA4型			2										2
コクサッキーウイルスA6型			1										1
コクサッキーウイルスA16型								1					1
コクサッキーウイルスB5型					1								1
エンテロウイルスA71型		1				1		1					3
ヒトパレコウイルス3型		1	4	2		1							8
新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)	1	4	11	7	3	3	3	2	2	3		4	43
ノロウイルスGⅡ.2									1				1
ノロウイルスGⅡ.4											1	1	2
水痘・帯状疱疹ウイルス	2						2						4
EBウイルス				1									1
サイトメガロウイルス	1		1		1	1				1		1	6
ヒトヘルペスウイルス6型			1					1	1			1	4
ヒトヘルペスウイルス7型	1				1		1	1				1	5

表2 感染症発生動向調査におけるウイルス検出状況（疾患別）

診断名(疑いを含む)	インフルエンザ様疾患	RSウイルス	伝染性紅斑	水痘	手足口病	ヘルパンギーナ	咽頭結膜熱	流行性角結膜炎	無菌性髄膜炎	感染性胃腸炎	急性脳炎	急性弛緩性麻痺	合計
検査症例数	187	5	1	1	4	5	7	7	16	7	16	2	258
ウイルス検出症例数	165	5	1	1	2	5	7	6	8	3	14	0	217
インフルエンザウイルスAH1型	30												30
インフルエンザウイルスAH3型	64												64
インフルエンザウイルスB型	27												27
RSウイルスA型		3									1		4
RSウイルスB型	1	2					1						4
パラインフルエンザウイルス1型	1												1
パラインフルエンザウイルス2型	1												1
パラインフルエンザウイルス3型	1												1
パラインフルエンザウイルス4型	1					1							2
ライノウイルス	10								1		2		13
アデノウイルス3型							4	4					8
アデノウイルス54型								2					2
コクサッキーウイルスA2型						2	1						3
コクサッキーウイルスA4型						1					1		2
コクサッキーウイルスA6型						1							1
コクサッキーウイルスA16型					1								1
コクサッキーウイルスB5型	1												1
エンテロウイルスA71型					1	1					1		3
ヒトパレコウイルス3型									4		4		8
新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)	42										1		43
ノロウイルスGⅡ.2										1			1
ノロウイルスGⅡ.4										2			2
水痘・帯状疱疹ウイルス				1					3				4
EBウイルス									1				1
サイトメガロウイルス	1								1		4		6
ヒトヘルペスウイルス6型							1				3		4
ヒトヘルペスウイルス7型	1		1	1							2		5

表3 E型肝炎ウイルス検査

検査年月	R5.4	5	6	7	8	9	10	11	12	R6.1	2	3	合計
検査件数		1	1	1	1			2	1	3	4	2	16
検査症例数		1	1	1	1			2	1	2	1	2	12
E型肝炎ウイルスⅢ型検出例									1		1	2	4

表4 集団かぜ患者のインフルエンザウイルス検査

検体採取日	学校名	検体数	インフルエンザウイルス検出検体数		
			AH1pdm09	AH3亜型	B型
R5.9.11	大師小学校	5		5	
R5.9.12	はるひ野小学校	1		1	
R5.9.12	富士見台小学校	3	3		
R5.9.13	末長小学校	3		3	
R5.9.13	宿河原小学校	3	2		
R5.9.19	御幸小学校	2	2		
R5.9.28	下小田中小学校	2		2	

表5-1 新型コロナウイルス検査（依頼検査）

検査年月	R5.4	5	6	7	8	9	10	11	12	R6.1	2	3	合計
検査件数	1	93			11	10			21				136
新型コロナウイルス陽性数		1			11	2			1				15
ゲノム解析数					11								11

表5-2 新型コロナウイルス検査（ゲノムサーベイランス）

検査年月	R5.4	5	6	7	8	9	10	11	12	R6.1	2	3	合計
検査件数		38	126	113	131	97	79	79	80	78	114	79	1,014
新型コロナウイルス陽性数		34	122	111	129	94	76	71	78	76	111	78	980
発生動向調査検体	1	4	11	4									20
ゲノム解析数	1	42	137	117	131	97	79	79	80	78	114	79	1,034

表6-1 市内8か所における蚊雌成虫の捕集数

区	回数 設置月 捕集場所	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
		5月	6月	6月	7月	7月	7・8月	8月	8月	9月	9月	10月	10月	
川崎区	稲毛公園	0	0	0	1	2	1	1	0	0	0	2	2	9
	健康安全研究所	3	15	0	8	6	0	2	0	2	2	2	0	40
幸区	夢見ヶ崎動物公園	1	1	4	4	1	1	0	2	10	9	5	2	40
中原区	等々力緑地	0	1	0	0	0	18	3	1	2	1	4	6	36
高津区	緑ヶ丘霊園	0	5	9	3	11	0	15	1	0	4	4	0	52
宮前区	宮崎第4公園	2	1	1	2	2	1	2	1	3	5	8	3	31
多摩区	稲田公園	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	3
麻生区	王禅寺ふるさと公園	2	1	1	1	0	1	1	1	7	4	3	3	25
	合計	8	24	15	19	22	22	24	6	26	26	28	16	236

* 捕集方法：人囃法（健康安全研究所のみ炭酸ガストラップ法）

表6-2 市内蚊雌成虫の種類別捕集数

回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
ヒトスジシマカ	2	9	13	10	16	22	23	6	22	25	26	12	186
アカイエカ	4	15	1	8	6	0	1	0	2	1	1	1	40
オオクロヤブカ	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	1	4
ヤマトヤブカ	2	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	2	6
合計	8	24	15	19	22	22	24	6	26	26	28	16	236

表7 食中毒起因ウイルス検査（患者等の臨床検体からの検出数）

検査年月	R5.4	5	6	7	8	9	10	11	12	R6.1	2	3	合計
検査件数	4	14	2	8	1	6	55	29	42	39	38	82	320
検出件数	2	8	0	5	1	0	1	16	17	27	15	28 ^{**}	92
ノロウイルスGI.1									1		3	7	11
ノロウイルスGI.3												1	1
ノロウイルスGI.4									1				1
ノロウイルスGI.6								1					1
ノロウイルスGII.2		4								1		7	12
ノロウイルスGII.3											1		1
ノロウイルスGII.4		1		4			1	10	11	23	9	10	69
ノロウイルスGII.6								2					2
ノロウイルスGII.7										1		1	2
ノロウイルスGII.17	2				1					1		2	6
ノロウイルスGII（型別不明）		3						3	4	1	2	3	16

※1つの検体で複数種のウイルス検出あり

表8 食品及び拭き取り液からのノロウイルス検査（収去検査を除く）

検査年月	R5.4	5	6	7	8	9	10	11	12	R6.1	2	3	合計
検査件数	0	15	0	9	0	0	29	23	0	40	39	53	208
ノロウイルスGI.3 検出件数											1		1

【第3章 試験検査】

1 月別検査件数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
結核	分離・同定・検査・検出	2	3	3	3	7	2	3	6	11	6	6	10	62
	核酸検査	6	5	2	1	5	3	7	4	4	9	2	4	52
性病	化学療法剤に対する耐性検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	梅毒	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ウイルス・リケッチア等検査	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	分離・同定・検出	23	174	219	163	180	178	117	114	134	113	143	122	1,680
病原性微生物の動物試験	リケッチア	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	6
	クラミジア・マイコプラズマ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
抗原検査	ウイルス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	リケッチア	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
病原性微生物の動物試験	クラミジア・トラコマティス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
原虫・寄生虫等	原虫	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	寄生虫	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
食中毒	そ族・節足動物	0	5	10	12	18	16	16	0	0	0	0	0	77
	真菌・その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
病原性微生物検査	細菌	4	7	2	19	43	6	76	34	17	31	33	74	346
	ウイルス	4	14	2	8	1	6	55	29	42	39	38	82	320
臨床検査	核酸検査	1	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	4
	理化学的検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
血液検査	血液検査(血液一般検査)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	血液等検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
生化学検査	エイズ(HIV)検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	HBs抗原・抗体検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
尿検査	その他HCV	12	11	16	16	32	43	51	36	14	6	21	15	273
	先天性代謝異常検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アレルギー検査(抗原検査・抗体検査)	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	尿一般	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	神経芽細胞腫	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アレルギー検査(抗原検査・抗体検査)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
食品等検査	微生物学的検査	72	134	115	146	84	137	193	117	124	117	92	1,463	
	理化学的検査(残留農薬・食品添加物)	6	18	69	55	109	34	25	71	26	65	18	520	
	動物を用いる試験	1	0	1	1	1	0	3	1	1	0	0	10	
	その他(ウイルスも含む)	2	17	28	11	10	28	8	3	12	0	5	138	
	分離・同定・検出	10	30	39	62	93	37	23	33	23	21	11	395	
	核酸検査	5	2	3	3	5	2	5	7	3	2	2	42	
	抗体検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	化学療法剤に対する耐性検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	医薬品	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	医薬部外品	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	化粧品	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	医療用品	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	毒劇物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	家庭用品	0	0	0	16	20	19	17	17	0	13	13	0	115
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	23	0	0	23	
栄養関係検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
水道等水質検査	水道原水	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	細菌学的検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	理化学的検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	生物学的検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	細菌学的検査	0	0	0	2	1	0	14	32	17	25	1	0	92
	理化学的検査	0	0	2	0	3	0	16	18	31	19	7	0	96
	細菌学的検査	4	17	39	62	40	17	29	18	2	7	1	7	243
	理化学的検査	0	2	48	33	68	20	22	21	9	7	0	7	237
	細菌学的検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	理化学的検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
廃棄物関係検査	生物学的検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	細菌学的検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	理化学的検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	生物学的検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
環境・公害関係検査	大気検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		SO ₂ ・NO ₂ ・O _x 等													
		浮遊粒子状物質	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		降下煤塵	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		有害化学物質・重金属等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		酸性雨	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	水質検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		公共用水	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		工場・事業場排水	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		浄化槽放流水	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	騒音・振動	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	土壌・底質検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
環境生物検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	藻類・プランクトン・魚介類														
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
一般室内環境	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
放射能	環境試料(雨水・空気・土壌等)	0	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	0	8
	食品	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
温泉(鉱泉)泉質検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
その他	0	0	0	0	0	0	7	0	0	2	0	0	5	14	

2 依頼別・項目別検査件数

		依頼によるもの				依頼によらないもの(5)	検査件数合計	検査項目又は検体名	延検査項目数(小計)	
		住民(1)	保健所(2)	保健所以外の行政機関(3)	その他(医療機関、学校、事務所)(4)					
結核	分離・同定・検出	0	62	0	0	0	62		0	
	核酸検査	0	52	0	0	0	52		0	
	化学療法剤に対する耐性検査	0	0	0	0	0	0		0	
性病	梅毒	0	0	0	0	0	0		(0)	
								1. STS 定性	0	
								2. STS 定量	0	
								3. TPHA 定性	0	
								4. TOHA 定量	0	
								5. 梅毒(ELISA)	0	
							6. その他	0		
	その他	0	0	0	0	0	0		(0)	
							1. 淋病	0		
							2. その他	0		
ウイルス・リケッチア等検査	ウイルス	0	1,680	0	0	0	1,680		(1,827)	
								1. 細胞培養	271	
								2. 鶏卵培養	0	
								3. 酵素抗体	0	
								4. 蛍光抗体	0	
								5. 遺伝子増幅	1,556	
								6. その他	0	
	分離・同定・検出	リケッチア	0	6	0	0	0	6		(6)
									1. 細胞培養	0
									2. 鶏卵培養	0
									3. 酵素抗体	0
									4. 蛍光抗体	0
									5. 遺伝子増幅	6
									6. その他	0
	クラミジア・マイコプラズマ	0	0	0	0	0	0	0		(0)
									1. 細胞培養	
									2. 鶏卵培養	0
									3. 蛍光抗体	0
									4. 遺伝子増幅	0
									5. その他	0
抗体検査	ウイルス	0	0	0	0	0	0		(0)	
								1. 中和試験	0	
								2. HI試験	0	
								3. CP試験	0	
								4. 酵素抗体	0	
								5. ワイル・フェリックス反応	0	
							6. その他	0		
	リケッチア	0	0	0	0	0	0		0	
	クラミジア・トラコマティス	0	0	0	0	0	0	0		(0)
									1. 性器クラミジア抗体IgA	0
							IgG	0		
病原微生物の動物試験	0	0	0	0	0	0		0		

		依頼によるもの				依頼によらないもの(5)	検査件数合計	検査項目又は検体名	延検査項目数(小計)	
		住民(1)	保健所(2)	保健所以外の行政機関(3)	その他(医療機関、学校、事務所)(4)					
原虫・寄生虫	原虫	0	0	0	0	0	0	(0)		
								1. アメーバー赤痢	0	
								2. その他	0	
	寄生虫	0	0	0	0	0	0	(0)		
								1. 蟯虫	0	
								2. その他	0	
	そ族・節足動物	0	77	0	0	0	77	(77)		
								1. 害虫動物	77	
								2. 殺虫効力試験	0	
								3. 生態習性試験	0	
							4. その他	0		
真菌・その他	0	0	0	0	0	0	0			
食中毒	病原微生物検査	細菌	0	346	0	0	0	346	(7070)	
									1. 食中毒病原菌14菌種	7,056
									2. 腸管出血大腸菌O157	6
								3. その他の細菌	8	
	ウイルス(SRSV) (A型肝炎)	0	320	0	0	0	320	(238)		
								1. SRSV電子顕微鏡	0	
								2. NV遺伝子増幅	238	
	核酸検査	0	4	0	0	0	4	4		
	理化学的検査	0	0	0	0	0	0	0		
	その他	0	0	0	0	0	0	0		
臨床検査	血液検査(血液一般検査)	0	0	0	0	0	0	0		
	血液等検査	エイズ(HIV)検査	0	0	0	0	0	0	(0)	
									1. PA法	0
								2. 確認試験(W,B)	0	
		HBs抗原、抗体検査	0	0	0	0	0	0	(0)	
									1. HBs抗原	0
									2. HBs抗体	0
								3. HBe抗原	0	
							4. HBe抗体	0		
							5. IgMHbC抗体	0		
							6. その他	0		
	その他	0	273	0	0	0	273	(273)		
								1. HCV抗体	0	
								2. QFT	273	
								3. その他	0	
生化学検査	先天性代謝異常検査	0	0	0	0	0	0			
	その他	0	0	0	0	0	0			
尿検査	尿一般	0	0	0	0	0	0			
	神経芽細胞腫	0	0	0	0	0	0			
	その他	0	0	0	0	0	0			
アレルギー検査(抗原検査・抗体検査)	0	0	0	0	0	0	0			
その他	0	0	0	0	0	0	0			

		依頼によるもの				依頼によらないもの(5)	検査件数合計	検査項目又は検体名	延検査項目数(小計)							
		住民(1)	保健所(2)	保健所以外の行政機関(3)	その他(医療機関、学校、事務所)(4)											
食品等検査	微生物学的検査	0	1,463	0	0	0	1,463		(9,757)							
	食品細菌	0	1,046	0	0	0	1,046		(5,375)							
								1. 生菌数	1,023							
								2. 大腸菌数	853							
	食中毒細菌(食品・ふき取り等)	0	213	0	0	0	213		(4,217)							
								1. 食中毒病原菌14菌種	4,200							
								2. 腸管出血大腸菌O157	9							
	食中毒ウイルス(食品等)	0	204	0	0	0	204		(165)							
								1. 電子顕微鏡	0							
								2. 遺伝子増幅	165							
	理化学的検査(残留農薬・食品添加物等)	0	169	0	0	351	520		(35,195)							
								食品添加物	0	102	0	0	167	269		(559)
															1. 食品添加物	525
	2. 遺伝子組換え食品	16														
	残留農薬	0	67	0	0	184	251		(34,636)							
1. 残留農薬								34,030								
2. 動物用医薬品								606								
3. 金属類								0								
動物を用いる試験	0	4	5	0	1	10		0								
その他	0	28	14	9	87	138		(475)								
							1. 金属類	49								
							2. 炭水素等	0								
							3. その他	426								
(上記以外)細菌検査	分離・同定・検出	0	358	0	0	37	395		(676)							
								1. 赤痢菌	18							
								2. サルモネラ(腸・バラ含む)	24							
								3. 病原大腸菌	68							
								4. 腸炎ビブリオ	16							
								5. コレラ菌	16							
								6. 病原ブドウ球菌	0							
								7. カンピロバクター・ジェジュ/コラー	36							
								8. 腸管出血大腸菌O157	287							
								9. その他の腸管病原菌	112							
								10. レンサ球菌	31							
	11. その他の細菌	68														
核酸検査	0	42	0	0	0	42		0								
抗体検査	0	0	0	0	0	0		0								
化学療法剤に対する耐性検査	0	0	0	0	0	0		0								

		依頼によるもの				依頼によらないもの(5)	検査件数合計	検査項目又は検体名	延検査項目数(小計)	
		住民(1)	保健所(2)	保健所以外の行政機関(3)	その他(医療機関、学校、事務所)(4)					
医薬品・家庭用品等検査	医薬品	0	0	0	0	0	0		0	
	医薬部外品	0	0	0	0	0	0		0	
	化粧品	0	0	0	0	0	0		0	
	医療用具	0	0	0	0	0	0		0	
	毒劇物	0	0	0	0	0	0		0	
	家庭用品	0	98	0	0	17	115		(332)	
								1.ホルムアルデヒド	88	
								2.有機水銀化合物	8	
								3.トルフェニル銀化合物	8	
								4.トリブチル錫化合物	8	
								5.酸/アルカリ定量	2	
							6.容器試験	8		
							7.テトクロロエチレン	3		
							8.トリクロロエチレン	3		
							9.メタノール	3		
							10.蛍光	0		
							11.その他	201		
	その他	0	23	0	0	23	1.健康食品等	0		
栄養関係検査		0	0	0	0	0	1.成分検査	0		
水道等水質検査	水道原水	細菌学的検査	0	0	0	0	0		0	
		理化学的検査	0	0	0	0	0		0	
		生物学的検査	0	0	0	0	0		0	
	飲用水	細菌学的検査		0	92	0	0	92		(184)
									1.一般細菌数	92
									2.大腸菌等	92
								3.その他	0	
		理化学的検査		0	92	0	0	4	96	(1,026)
									1.井戸水	830
									2.貯槽水	30
								3.船舶水	0	
							4.簡易水道水	0		
							5.専用水道水	80		
							6.水道直結栓水	0		
						7.その他	86			
(プール水等を含む)	細菌学的検査		0	243	0	0	243		(729)	
								1.一般細菌数	243	
								2.大腸菌群	243	
							3.その他	243		
	理化学的検査	0	237	0	0	0	237	(473)		
							1.プール水	166		
							2.その他	307		

			依頼によるもの				依頼によ らないも の(5)	検査件数 合計	検査項目又は検体名	延検査 項目数 (小計)	
			住民(1)	保健所(2)	保健所以 外の行政 機関(3)	その他 (医療機 関、学 校、事務 所)(4)					
廃棄物関係検査	一般廃棄物	細菌学的検査	0	0	0	0	0	0	0		
		理化学的検査	0	0	0	0	0	0	0		
		生物学的検査	0	0	0	0	0	0	0		
	産業廃棄物	細菌学的検査	0	0	0	0	0	0	0		
		理化学的検査	0	0	0	0	0	0	1. 汚泥	0	
		生物学的検査	0	0	0	0	0	0	0	0	
環境・公害関係	大気汚染	SO ₂ ・NO ₂ ・O _x 等	0	0	0	0	0	0	0		
		浮遊粒子状物質	0	0	0	0	0	0	0		
		降下煤塵	0	0	0	0	0	0	0		
		有害化学物質・重金属	0	0	0	0	0	0	0		
		酸性雨	0	0	0	0	0	0	0		
		その他	0	0	0	0	0	0	0		
	水道検査	公共用水		0	0	0	0	0		(0)	
										1. 河海水底質	0
										2. その他	0
		工場・事業場排水		0	0	0	0	0	0		(0)
										1. 工場・事業場排水	0
										2. その他	0
			浄化槽放流水	0	0	0	0	0	0		0
			その他	0	0	0	0	0	0		(0)
									1. 一般細菌数	0	
									2. 大腸菌群	0	
									3. その他	0	
		騒音・振動	0	0	0	0	0	0		0	
		土壌・低質検査	0	0	0	0	0	0		0	
	環境生物検査	藻類・プランクトン・魚介類	0	0	0	0	0	0		0	
		その他	0	0	0	0	0	0		0	
	一般室内環境	0	0	0	0	0	0	1. 落下細菌	0		
	その他	0	0	0	0	0	0		0		
放射能	環境試料(雨水・空気・土壌等)		0	0	8	0	0	8		(16)	
									1. セシウム134	8	
									2. セシウム137	8	
									3. ヨウ素131	0	
	食品		0	3	0	0	0	3		(6)	
									1. セシウム134	3	
									2. セシウム137	3	
		その他	0	0	0	0	0	0		0	
									3. ヨウ素131	0	
									1. セシウム134	0	
								2. セシウム137	0		
								3. ヨウ素131	0		
	温泉(鉱泉)泉質検査	0	0	0	0	0	0		0		
	その他	0	14	0	0	0	14		0		
	計	0	5,686	27	9	497	6,219		58,364		

4 水質別検査項目内訳

区分	項目	総検体数	総項目数	外観・濃度・色度・臭・味	P H	窒素化合物	有機物	硬度	陽イオン類	陰イオン類	蒸発残留物	残留塩素	溶存酸素	C O D	B O D	浮遊物質	陰イオン界面活性剤	n-ヘキサン可溶性物質	その他の理化学試験	一般細菌数	大腸菌又は大腸菌群	その他の細菌学的試験	放射能	
飲料水検査	水道水	浄水	9	18																9	9			
		貯水槽水(細)																						
		その他(ウォータークーラー)																						
	井戸水	貯水槽水(理)	9	192	27	9	18	9	9	75	9								36					
		その他(ウォータークーラー)																						
		水道原水	4	8																			8	
		水道配水	4	8																			8	
		井戸水(細)	83	166																	83	83		
		その他(ミネラルウォーター)																						
		井戸水(理)	83	830	249	83	166	83	83	83	83													
	その他(ミネラルウォーター)																							
利用水関係検査	中水道水(細)																							
		その他																						
	中水道水(理)																							
		その他																						
	生物学的検査																							
		生物学的検査																						
	下水関係検査	下水(細)																						
		その他																						
		下水(理)																						
		その他																						
清掃関係検査	生物学的検査	生物学的検査																						
		し尿																						
	浄化放流水(細)	浄化放流水(細)																						
		浄化槽水																						
	浄化放流水(理)	浄化放流水(理)																						
		浄化槽水																						
公害・一般環境検査	河川汚濁	河川水底質																						
		産業排水																						
	その他(浄水発生土)	その他(コレラ)																						
		浴槽水	349	848	152																159	159	223	
	プール水・採暖槽水	プール水・採暖槽水	185	385	83																84	84	51	
		その他(クーリングタワー)																						
	温泉(鉱泉)	その他(海水)																						
		その他(シャワー水等)	7	15																				
	合計		733	2,470	511	92	184	246	92	158	92								120	335	335	289	16	

【第4章 調査研究】

1 令和5年度調査研究課題一覧

令和5年度に当研究所で実施した調査研究課題を次に示す。

研究課題名	担当	研究の種類
デオキシニバレノールとオクラトキシンAの同時分析法の開発と精米中の総アフラトキシンの分析法の開発	食品	共同研究
食品中の食品添加物分析法の設定(プロピレングリコールの分析法の妥当性評価)	食品	受託研究
総不揮発性物質試験法の性能評価	水質・環境	共同研究
家庭用品に含まれる有害物質(PAHs)検査法の検討	水質・環境	共同研究
免疫磁気ビーズを用いた腸管出血性大腸菌分離法の検討	消化器・ 食品細菌	経常研究
次世代シーケンサー(NGS)を用いた腸管出血性大腸菌の分子疫学解析法の検討	消化器・ 食品細菌	経常研究
腸管出血性大腸菌のStxサブタイプ解析及び病原性関連遺伝子の保有状況の検討	消化器・ 食品細菌	経常研究
川崎市における侵襲性肺炎球菌感染症(IPD)の発生状況と血清型分布状況について	呼吸器・ 環境細菌	共同研究
非結核性抗酸菌のハウスキーピング遺伝子解析を用いた同定	呼吸器・ 環境細菌	共同研究
結核菌株の各クラスターにおける全ゲノム解析と疫学情報を用いた結核菌の相同性の検討	呼吸器・ 環境細菌	共同研究
レジオネラ属菌の新規検査法の検討と施設における汚染状況の解析	呼吸器・ 環境細菌	共同研究
ウエルシュ菌食中毒の制御のための検査法の開発及び汚染実態把握のための研究(大規模な汚染実態調査の実施)	呼吸器・ 環境細菌	共同研究
新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)における発症病日とCt値の解析(追加検討)	ウイルス・ 衛生動物	経常研究
インフルエンザウイルス及びノロウイルスに対するマルチプレックスリアルタイムPCR法の検討	ウイルス・ 衛生動物	経常研究
次世代シーケンサーを用いた呼吸器関連ウイルス検出法の検討	ウイルス・ 衛生動物	経常研究
ウイルス変異を考慮した大量自動検査システムの研究	ウイルス・ 衛生動物	共同研究
新興感染症流行時における地方自治体の食品防御対策の検討 ～食品におけるSARS-CoV-2の汚染状況の有無の検証～	ウイルス・ 衛生動物	共同研究
新興感染症流行時における地方自治体の食品防御対策の検討 ～行政機関における食品防御対策の検討～	ウイルス・ 衛生動物	共同研究
SARS-CoV-2抗原・インフルエンザウイルス抗原同時検出試薬に関する検討	ウイルス・ 衛生動物	受託研究
過粘稠性肺炎桿菌(hypermucoviscous Klebsiella pneumoniae: hvKP)の発生状況の把握と重症例の解析に関する研究	感染症情報 センター	共同研究
3類等感染症の広域散発事例における疫学情報及びゲノム情報の監視・分析に関する検討	感染症情報 センター	共同研究
川崎市健康安全研究所における職員のウイルス抗体価調査	感染症情報 センター	共同研究
志賀毒素産生性大腸菌の「感染症の病原体を保有していないことの確認方法について」の改定に係るエビデンスの形成	感染症情報 センター	共同研究
医療機関と行政が連携した実践的な訓練の仕組みと評価方法の構築	感染症情報 センター	共同研究
HPVワクチンの安全性に関する研究	所長	共同研究

研究課題名	担当	研究の種類
新型コロナワクチン接種後の遷延する症状に係る実態調査	所長	共同研究
ワクチンで予防可能な疾病のサーベイランス及びワクチン効果の評価に関する研究 -VPD に対する疫学調査に基づいた予防法の評価、各種ワクチンの有効性、安全性、免疫原性、累積接種率 など、予防接種行政及び国民への情報還元に不可欠な知見に関する研究-	所長	共同研究
感染症予防計画のフォローアップ及び感染症指定医療機関の施設基準の見直しの検討に資する研究	所長	共同研究
新型コロナ対策における抗原定性検査キットの活用実態とその影響についての研究	所長	共同研究
		計 29課題

研究の種類について

研究の種類	内容	課題数 [※]
経常研究	職員の通常業務上からの発想に基づく研究	6
共同研究	国、地方公共団体、大学及び民間企業等と研究内容を分担し、共同で実施する研究	21
受託研究	他の機関から委託を受けて行う研究	2
合計		29

※令和5年度件数

2 調査研究報告等実績一覧

令和5年度の調査研究成果の報告実績を次に示す。

(1) 令和5年度学会発表実績(口演発表)

○:発表者 下線:健康安全研究所職員

年月日	演題名	学会名	場所	発表者(共同研究者等を含む)
R5.9.21	astA保有大腸菌接種食品での増菌および分離培養法の検討	第44回日本食品微生物学会学術総会	大阪公立大学・中百舌鳥キャンパス	○ <u>荒木靖也</u> , 新井沙倉, 小西典子, 土井りえ, 山谷聡子, 土屋彰彦, <u>小嶋由香</u> , 尾畑浩魁, 貫洞里美, 曾根美紀, 廣瀬昌平, 大西貴弘, 工藤由起子
R5.10.25~27	新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)における発症病日とCt値の解析	第72回日本感染症学会東日本地方会	東京ドームホテル	○ <u>夏井航平</u> , <u>三崎貴子</u> , <u>岡部信彦</u>
R5.10.26	川崎市における新型コロナウイルス感染症(COVID-19)リアルタイムサーベイランスの利用状況	第72回日本感染症学会東日本地方会学術集会	東京ドームホテル	○ <u>丸山絢</u> , <u>三崎貴子</u> , <u>岡部信彦</u>
R5.11.18	浴槽水等から分離されたレジオネラ属菌の分子疫学解析の検討	神奈川県感染症医学会	神奈川労働プラザ	○ <u>淀谷雄亮</u> , <u>西里恵美莉</u> , <u>小嶋由香</u> , <u>本間幸子</u> , <u>岡部信彦</u>
R5.11.2	川崎市におけるE型肝炎の報告数増加と献血時のHEV-NAT導入との関連	第82回日本公衆衛生学会総会	つくば国際会議場	○ <u>廣富匡志</u> , <u>丸山絢</u> , <u>三崎貴子</u> , <u>岡部信彦</u>
R5.11.18	川崎市における侵襲性インフルエンザ菌感染症の10年間の発生動向	第91回神奈川県感染症医学会	神奈川県立かながわ労働プラザ	○ <u>佐藤佑樹</u> , <u>丸山絢</u> , 津村和太, <u>三崎貴子</u> , <u>岡部信彦</u>
R5.11.18	小学校の長期休業が学童における新型コロナウイルス感染症の感染抑制に与える効果—川崎市—	第91回神奈川県感染症医学会	神奈川県立かながわ労働プラザ	○ <u>今井治彦</u> , <u>丸山絢</u> , 黒澤仁美, 小田真智子, 小泉祐子, <u>三崎貴子</u> , <u>岡部信彦</u>
R5.11.20	神奈川県における急性脳炎発生動向(2014~2022年)	第69回神奈川県公衆衛生学会	横浜ワールドポーターズ	○大屋日登美, 木村睦未, 伊藤舞, 内藤智貴, 横山涼子, 畔上栄治, 高井麻実, 加藤美奈子, <u>丸山絢</u> , <u>廣富匡志</u> , <u>荒井智博</u> , 井村香織, 金沢聡子, 関戸晴子, 多屋馨子
R6.2.9~11	質量分析法で同定困難な非結核性抗酸菌の菌種及び亜種同定に関する検討	日本臨床微生物学会	パシフィコ横浜	○ <u>西里恵美莉</u> , <u>淀谷雄亮</u> , <u>小嶋由香</u> , 小嶋修平, 佐々木健太, 関根由貴, 菊池眸, 近松絹代, 御手洗聡, <u>岡部信彦</u>
R6.2.9~11	川崎市内で分離されたMRSA菌株のNGS解析	日本臨床微生物学会	パシフィコ横浜	○ <u>淀谷雄亮</u> , <u>西里恵美莉</u> , <u>小嶋由香</u> , <u>本間幸子</u> , <u>岡部信彦</u>
R6.2.18	新型コロナウイルス感染症流行が小児定期予防接種の接種率に及ぼす影響—第3報—	第15回予防接種に関する研究報告会	リロの会議室コンフォート新宿	○ <u>三崎貴子</u> , <u>丸山絢</u> , 小泉祐子, 勝田友博, <u>岡部信彦</u>

(2) 令和5年度学会発表実績(示説発表)

○:発表者 下線:健康安全研究所職員

年月日	演題名	学会名	場所	発表者(共同研究者等を含む)
R5.6.29～ 30	PCR 検査における検査情報システムの フィールド評価	日本機械学会 ロボティク ス・メカトロニクス 講演会 2023	名古屋国際会 議場	○野々山 良介, 清水 英明, 赤星 千絵, 夏井 航平, 谷口 清州, 調 恒明, 白井 千香, 神野 誠
R5.10.12 ～13	食品表面からの新型コロナウイルス(SARS- CoV-2)検査方法の検討	第119回日本食品衛生学 会	タワーホール船 堀	○ <u>島山理沙</u> , 佐々木国玄, 赤星千絵, <u>小河内麻衣</u> , 駒根綾子, 清水英明, 渡 辺麻衣子, 工藤由起子, 岡部信彦
R5.11.9～ 10	小麦加工品中の環状デブシペプチド系カビ 毒の汚染実態調査	第60回全国衛生化学技 術協議会年会	ホテル福島グ リーンパレス コラッセふくしま	○佐藤英子, 今井朝香, 江原庸, 栗田 史子, 赤星千絵, 浅井威一郎
R5.11.9～ 10	アフラトキシンとステリグマトシステンの国内 流通食品における汚染実態とリスク評価	第60回全国衛生化学技 術協議会年会	ホテル福島グ リーンパレス コラッセふくしま	○吉成知也, 村山智史, 福光徹, 中村 歩, 谷口賢, 竹内浩, 下山晃, 佐藤英 子, 大脇進治, 工藤由起子
R5.11.9～ 10	食品中の食品添加物分析法改正に向けた 検討(令和4年度)	第60回全国衛生化学技 術協議会年会	ホテル福島グ リーンパレス コラッセふくしま	○多田敦子, 堀江正一, 内山陽介, 栗 田史子, 安井朋子, 杉浦潤, 大槻崇, 渡 部緑, 團野武亘, 久保田浩樹, 建部千 絵, 寺見祥子, 日置冬子, 佐藤恭子, 杉 本直樹
R5.11.9～ 10	令和4年度室内空気環境汚染に関する全国 実態調査	第60回全国衛生化学技 術協議会年会	ホテル福島グ リーンパレス コラッセふくしま	○大嶋直浩, 高木規峰野, 酒井信夫, 五十嵐良明, 大泉詩織, 岩館樹里, 今 野鈴子, 大槻良子, 草原紀子, 大竹正 芳, 角田徳子, 上村仁, 田中礼子, 高居 久義, 渡邊好介, 堀井裕子, 望月映希, 羽田好考, 山本優子, 若山貴成, 小寺 明, 吉田俊明, 古市裕子, 八木正博, 伊 達英代, 高木春佳, 島田友梨, 松永尚 子, 田崎盛也
R5.11.9～ 10	TDBPP及びBDBPP化合物の試験法改定に 係る検討	第60回全国衛生化学技 術協議会年会	ホテル福島グ リーンパレス コラッセふくしま	○河上強志, 大嶋智子, 大山正幸, 菅 谷なえ子, 西以和貴, 吉富太一, 高居久 義, 若山貴成, 大野浩之, 田原麻衣子, 五十嵐良明
R6.2.5～7	1人前のLC-MS/MS分析者になるための ロードマップのご提案	第15回JBFシンポジウム	京都市勧業館 みやこめっせ	○栗栖泰之介, 赤木祐介, 浅野慎介, 伊藤利将, 上田裕子, 江原庸, 松田侑 大, 八木遼太郎, 大和遼, 吉村柚紀, 山 田直人

(3) 令和5年度学会発表実績(誌上発表)

○:発表者 下線:健康安全研究所職員

年月日	演題名	学会名	発表者(共同研究者等を含む)
R5.11.20	食品衛生行政機関における食品防御対策 の検討について	第69回神奈川県公衆衛生学会	○赤星千絵, 島山理沙, 生山温子, 油 田卓士, 赤木英則, 浅井威一郎, 岡部 信彦

題名	学術誌等の名称・掲載ページ等	著者(共著者を含む)
新型コロナウイルス感染症流行に伴う麻疹及び風しんの発生状況とMRワクチン接種率の低下	ワクチン学会ニュースレター「新型コロナウイルス感染症流行に伴う麻疹及び風しんの発生状況とMRワクチン接種率の低下」	<u>三崎貴子</u>
麻疹ウイルス遺伝子D8型が検出されたインドネシア渡航歴のある麻疹事例－川崎市	病原微生物検出情報 (IASR) Vol. 44 p.137-138: 2023年9月号	<u>三崎貴子</u> , <u>若菜愛澄</u> , <u>夏井航平</u> , <u>荒井千寛</u> , <u>島山理沙</u> , <u>佐々木国玄</u> , <u>赤星千絵</u> , <u>荒井智博</u> , <u>廣富匡志</u> , <u>丸山絢</u> , <u>岡部信彦</u>
川崎市における感染症の流行状況と最近の話題	川崎市小児科医会誌・第56号	<u>三崎貴子</u>
神奈川県における急性脳炎発生動向(2014～2022年)	神奈川県衛生研究所研究報告 No.53 (2023)	大屋日登美, 木村睦未, 松永涼夏, 伊藤舞, 内藤智貴, 横山涼子, 畔上栄治, 高井麻実, 加藤美奈子, <u>丸山絢</u> , <u>廣富匡志</u> , <u>荒井智博</u> , 井村香織, 金沢聡子, 関戸晴子, 多屋馨子
Acute and Postacute Clinical Characteristics of Coronavirus Disease 2019 in Children in Japan	Ped Inf Dis J 42(3):p 240-246, March 2023. DOI: 10.1097/INF.0000000000003792	Katsuta Tomohiro, Aizawa Yuta, Shoji Kensuke, Shimizu Naoki, Okada Kenji, Nakano Takashi, Kamiya Hajime, Amo Kiyoko, Ishiwada Naruhiko, Iwata Satoshi, Oshiro Makoto, <u>Okabe Nobuhiko</u> , Korematsu Seigo, Suga Shigeru, Tsugawa Takeshi, Nishimura Naoko, Hishiki Haruka, Fujioka Masashi, Hosoya Mitsuki, Mizuno Yumi, Miyairi Isao, Miyazaki Chiaki, Morishima Tsuneo, Yoshikawa Tetsushi, Wada Taizo, Ouchi, Kazunobu, Moriuchi Hiroyuki, Tanaka-Taya Keiko and Saitoh Akihiko
Addressing practical issues in the smooth implementation of revised guidelines for non-clinical studies of vaccines for infectious disease prevention	Regulatory Toxicology and Pharmacology. Available online 23 May 2023, 105413 https://doi.org/10.1016/j.yrtph.2023.105413	Atsuko Okumoto, Yumiko Nomura, Kazushige Maki, Takashi Ogawa, Hiroshi Onodera, Mayumi Shikano, <u>Nobuhiko Okabe</u>
Survey and risk assessment of aflatoxins and sterigmatocystin in Japanese staple food items and the evaluation of an in-house ELISA technique for rapid screening	Food Control 157(2024)110154	Tomoya Yoshinari, Yoshiko Sugita-Konishi, <u>Eiko Sato</u> , Hiroshi Takeuchi, Masaru Taniguchi, Toru Fukumitsu, Akira Shimoyama, Ayumu Nakamura, Satoshi Murayama, Shinji Owaki, Shiro Miyake, Yukiko Hara-Kudo
ポリカーボネート製器具・容器包装の溶出試験における改良ビスフェノールA分析法の室間共同実験	食品衛生学雑誌 2023 年 64 巻 4 号 p. 154-160	片岡洋平, 六鹿元雄, 阿部智之, 阿部裕, <u>生山温子</u> , 内山陽介, 大野浩之, 大橋公泰, 風間貴充, 木村亜莉沙, 小林保志, 近藤翠, 佐藤環, 座間俊輔, 高橋良幸, 竹澤有紗, 田中葵, 照井善光, 永井慎一郎, 野村千枝, 花澤耕太郎, 早川雅人, 平林尚之, 藤吉智治, 堀田沙希, 宮川弘之, 村山悠子, 四柳道代, 渡辺一成, 佐藤恭子

題名	報告書の名称・掲載ページ等	報告者(共同研究者等を含む)
新興感染症流行時における地方自治体の食品防御対策の検討	厚生労働科学研究費補助金(食品の安全確保推進研究事業)「新型コロナウイルス感染症対策に取り組む食品事業者における食品防御の推進のための研究」令和5年度 総括・分担研究報告書	岡部信彦, 赤星千絵, 佐々木国玄, 畠山理沙, 牛山温子, 浅井威一郎, 赤木英則, 油田卓士, 渡辺麻衣子, 工藤由起子
新興感染症流行時における地方自治体の食品防御対策の検討	厚生労働科学研究費補助金(食品の安全確保推進研究事業)「新型コロナウイルス感染症対策に取り組む食品事業者における食品防御の推進のための研究」令和3-5年度 総括・分担研究報告書	岡部信彦, 赤星千絵, 佐々木国玄, 畠山理沙, 牛山温子, 浅井威一郎, 赤木英則, 油田卓士, 渡辺麻衣子, 工藤由起子
医療機関と行政が連携した実践的な訓練の仕組みと評価方法の構築	厚生労働行政推進調査事業費補助金(新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業) 令和5年度分担研究報告書	三崎貴子, 岡部信彦, 小泉祐子
カビ毒の分析法の開発と汚染実態調査	厚生労働科学研究「国内流通食品に検出されるカビ毒に対する安全性確保の方策の確立に資する研究」令和5年度 総括・分担研究報告書	吉成知也, 青木渉, 佐藤英子, 谷口賢, 原有紀, 福光徹, 後藤麻美子, 廣川有里加, 朝倉敬行, 飯田智成, 竹内俊彦, 徳本脩, 下山晃, 中村歩, 五十嵐奈津子, 立石晶浩, 石田和暁
市販製品に残存する化学物質に関する研究	厚生労働科学研究費補助金(食品の安全確保推進研究事業)「食品用器具・容器包装等の衛生的な製造管理等の推進に資する研究」令和5年度総括・分担研究報告書	六鹿元雄, 藤原恒司, 浅川大地, 阿部裕, 石井進之輔, 岩越景子, 大野浩之, 尾崎麻子, 小澤敦揮, 風間貴充, 片岡洋平, 岸 映里, 近藤翠, 佐藤環, 竹田美徳, 西崎雄三, 水口智晴, 宮川弘之, 山口未来, 阿部智之, 池田真季, 糸川尚子, 牛山温子, 内山陽介, 占部彩花, 海野明弘, 榎田 剛, 大橋公泰, 大畑昌輝, 小野寺裕一, 片桐真貴子, 菊地侑里華, 熊坂謙一, 後藤麻美子, 小林哲也, 小林保志, 近藤貴英, 杉本直樹, 高坂典子, 高島秀夫, 田中葵, 田中秀幸, 田中佑典, 外岡大幸, 永井慎一郎, 柴田博, 早川雅人, 平林尚之, 藤吉智治, 細野加芳, 村山悠子, 八巻ゆみこ, 山田恭平, 横峯真吾, 吉川光英, 四柳道代, 若山貴成, 渡辺一成

(6) 令和5年度その他執筆実績

下線:健康安全研究所職員

題名	学術誌等の名称・掲載ページ等	著者(共著者を含む)
新型コロナウイルス感染症の現在とこれから	JOHNS 39(1):9-12, 2023	<u>岡部信彦</u>
専門家会議—これまでの背景と役割—	別冊・医学のあゆみ COVID-19診療最前線の記録 P.86-91 医歯薬出版 2023.2	<u>岡部信彦</u>
子どもたちの感染症対策, 教育とのバランスが大きな課題	新型コロナウイルス感染症対応記録 監修: 尾身 茂・脇田隆字 編集: 正林督章・和田耕治 P.457-460 日本公衆衛生協会 2023.3	<u>岡部信彦</u>
感染症関連部分	新・小学校 ほけん(教科書) 3・4年 大修館書店 2023.4	<u>岡部信彦(監修)</u>
感染症の予防	P.48-P.55 新・小学校 保健(教科書) 5・6年 大修館書店 2023.4	<u>岡部信彦(監修)</u>
新型コロナウイルス感染症:対策の課題と今後の展望(序文)	新型コロナウイルス感染症 監修・医療科学研究所 法研 2023.5	<u>岡部信彦</u> , 武藤香織
巻頭エッセイ「感染症の大流行(パンデミック)と子ども」	体育科教育 71(8):9 2023	<u>岡部信彦</u>
予防接種に関するQ&A集 2023	日本ワクチン産業会 2023.8	<u>岡部信彦</u> , 多屋馨子, 神谷 元
高齢者保健福祉実務事典「感染症:新型コロナウイルス感染症」COVID-19」	追録第142~145号 P.851-864 第一法規株式会社 2023.11.	<u>岡部信彦</u>
予防接種法と予防接種基本計画	小児科診療 10(7):1159-1164, 2023	<u>岡部信彦</u>
新型コロナウイルス感染症について(小児を中心として)	愛知県小児科医会会報 No.118 Nov. 29-36, 2023	<u>岡部信彦</u>
学校保健の動向(令和5年度版)	「感染症」P.55-66 丸善 2023.10	<u>岡部信彦</u>
PHNブックレットNo.23 コロナ禍の健康への影響, 子ども発達, 今後の公衆衛生と保健師活動の課題	「改めて(コロナ)感染症を学ぶ」 P.46-57 萌文社 2023.10	<u>岡部信彦</u>
特集:新型コロナウイルスの「5類感染症」移行 1章:新型コロナウイルス感染症のこれまでを振り返る 2章:5類感染症以降の背景から学ぶ, 感染対策の以考え方 3章:「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル」改訂のポイント	健 52(9):7-21, 2023	<u>岡部信彦</u>

(7) 令和5年度表彰等受賞実績

表彰の名称	学会名等	演題・研究課題名等	表彰者
支部長表彰	地方衛生研究所全国協議会 関東甲信静支部		丸山 絢
支部長表彰	地方衛生研究所全国協議会 関東甲信静支部		三崎貴子
論文賞	日本食品衛生学会	合成樹脂製の器具・容器包装における溶出試験の精度の検証	尾崎麻子, 六鹿元雄, 岸映里, 阿部智之, 阿部裕, 安藤景子, 石原絹代, 牛山温子, 内田晋作, 大坂郁恵, 大野浩之, 風間貴充, 加藤千佳, 小林尚, 佐藤環, 柴田博, 関戸晴子, 高島秀夫, 田中葵, 外岡大幸, 花澤耕太郎, 山口未来, 山田悟志, 吉川光英, 渡辺一成, 佐藤恭子

3 調査研究報告

令和5年度調査研究結果並びに事例等の一部を次ページ以降で報告する。

- (1) 川崎市のインフルエンザ様疾患の検査状況について・・・・・・・・・・86
(研究責任者：ウイルス・衛生動物担当 夏井 航平)
※本報告のカラー版については、川崎市健康安全研究所ホームページに掲載のPDF版年報を参照してください。

- (2) 川崎市におけるE型肝炎の報告数増加と献血時のHEV-NAT導入との関連・・・・・・・・90
(研究責任者：感染症情報センター担当 廣富 匡志)

- (3) 川崎市における新型コロナウイルス感染症（COVID-19）
リアルタイムサーベイランスの利用状況・・・・・・・・・・91
(研究責任者：感染症情報センター担当 丸山 絢)

川崎市のインフルエンザ様疾患の検査状況について

夏井航平、喜田智美、畠山理沙、小河内麻衣、佐々木国玄、須崎聰、赤星千絵、本間幸子、三崎貴子

【はじめに】

川崎市健康安全研究所では、2016年の「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律の一部を改正する法律」（平成二十六年法律第百十五号）が施行された2016年4月以降、インフルエンザ非流行期を含めてインフルエンザ様疾患（ILI）の原因ウイルスの探索を行っている。ILIは「38℃以上の発熱かつ急性呼吸器症状（鼻水、鼻閉、咽頭痛または咳のいずれか1つ以上）を呈した場合」と定義されており、症状のみではインフルエンザとの鑑別は困難である。今回、2017～2023年度の川崎市市内におけるインフルエンザ流行状況及びILIの起因ウイルスの検出状況について解析した結果を報告する。

【対象】

2017年4月～2024年3月に感染症発生動向調査事業の一環として医療機関から提出されたインフルエンザ及びILI患者の検体961件（鼻腔拭い液、咽頭拭い液、鼻汁）を対象とした。検体はそれぞれ患者1例から各1件が採取され、検体に付随する患者情報は性別及び年齢のみ対象とした。また同期間を、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）流行前（2020年3月まで）、流行後（2020年4月以降）に分け、呼吸器系ウイルスの網羅的探索を行った。

【検査方法】

検査対象の検体を用いて、インフルエンザウイルスのリアルタイムRT-PCR法を用いた遺伝子検査及びウイルス分離を行った。2022年12月以降は、新型コロナウイルス（重症急性呼吸器症候群コロナウイルス-2：SARS-CoV-2）のリアルタイムRT-PCR法を用いた遺伝子検査を追加した。インフルエンザウイルス及びSARS-CoV-2がいずれも陰性の検体は、以下の検査項目（呼吸器系ウイルス8種）についてマルチプレックスPCR法及びダイレクトシーケンス法を用いた遺伝子検査を行った。各遺伝子検査及びウイルス分離は検査実施標準作業書に基づき実施した。

検査項目（呼吸器系ウイルス8種）：ヒトメタニューモウイルス（hMPV）、RSウイルス（RSV）、パラインフルエンザウイルス1～4型（PIV）、ライノウイルス（HRV）、ヒトコロナウイルス（HCoV）、ヒトアデノウイルス（HAdV）、ヒトボカウイルス（HBoV）、エンテロウイルス属（ライノウイルスを除く、EV）

【結果】

（1）陽性検体及び検体に付随する患者情報の内訳

対象961件の患者内訳は、男性が519件（54%）、女性が442件（46%）であり、年齢中央値は23歳（2か月～104歳）であった。検査の結果、何らかのウイルスが陽性と判定されたのは855件で、全て陰性と判定されたのは106件であった。陽性と判定された855件の検出ウイルスの内訳を表1に示す。また1検体から重複してウイルスが検出された場合の検出状況を表2に示す。

インフルエンザウイルスの検査は対象961件すべてに実施しており、このうち780件（81%）が陽性と判定された。2022年12月以降に搬入された検体についてはSARS-CoV-2の検査を実施し、217件中45件（21%）が陽性と判定された。インフルエンザウイルス及びSARS-CoV-2がいずれも陰性の149件について呼吸器系ウイルス8種の検査を実施した結果、陽性は43件（29%）であった。呼吸器系ウイルス8種のいずれかが陽性と判定された患者はインフルエンザウイルスとSARS-CoV-2と比べて年齢中央値が7歳と低年齢であった。

表1 陽性検体の内訳（重複を含む） n=855

検出ウイルス	性別(件)	年齢 中央値(範囲)
インフルエンザウイルス (n=780)	男性 417(53.5%) 女性 363(46.5%)	20 歳 (2 か月～104 歳)
SARS-CoV-2 (n=45)	男性 26(57.8%) 女性 19(42.2%)	34 歳 (7 歳～90 歳)
呼吸器系ウイルス 8 種 (n=43)	男性 24(55.8%) 女性 19(44.2%)	7 歳 (7 か月～65 歳)

表2 重複検出されたウイルスの内訳

重複検出ウイルスの内訳(件)	
流行前	FluA&FluB (2)、RS&PIV (1)、 HRV&EV (2)、HRV&HBoV (1)
流行後	FluA&SARS-CoV-2 (9)、FluB&SARS- CoV-2 (4)、HBoV&PIV (1)、 HBoV&hMPV (2)、HRV&PIV (1)

(2) 月別のウイルス検出状況

対象期間のウイルス検出状況を図1に示す。COVID-19 流行前は季節性のインフルエンザ流行期に検体数が増加し、主にインフルエンザウイルスが検出され、他の呼吸器系ウイルスが散発的に検出された。一方、COVID-19 流行後では季節による検体数の著しい増加はみられず、2023年6～7月はSARS-CoV-2の検出割合（6月：55%、7月：50%）がインフルエンザウイルスの検出割合（6月：30%、7月：29%）よりも高かった。

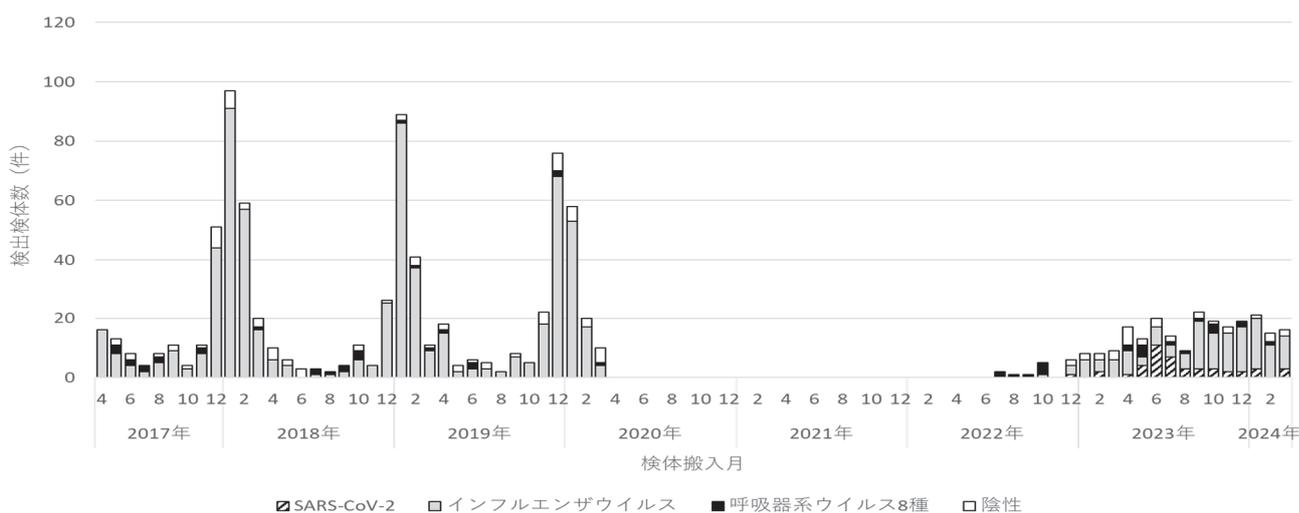


図1 月別のウイルス検出状況

(3) 月別のインフルエンザウイルス検出状況及び検出割合

月別のインフルエンザウイルス検出状況及び検出割合を図2-1、2-2に示す。COVID-19 流行前に搬入された738件のうち639件（86.5%）、流行後に搬入された223件のうち141件（63.2%）からインフルエンザウイルスが検出された。

インフルエンザウイルスの検出割合はシーズン毎に変化しており、2017/2018シーズンは、9～12月にAH1pdm09が高い割合で検出されたが、1月以降はAH3亜型とB型（山形系統）の検出割合が増加した。2018/2019シーズンは12月以降からA型の検出数が増加し、12月はAH1pdm09の検出割合が高く、1月以降はAH3亜型の検出割合が最も高かった。2019/2020シーズンは9～1月はAH1pdm09が主流であり、2月からはB型（ビクトリア系統）が主流となった。またCOVID-19流行後の2022/2023シーズンは一部B型が検出されたが、AH3亜型の検出割合が最も高かった。2023/2024シーズンは12月までAH3亜型の検出割合が最も高く、1月以降はB型の検出割合が増加した。

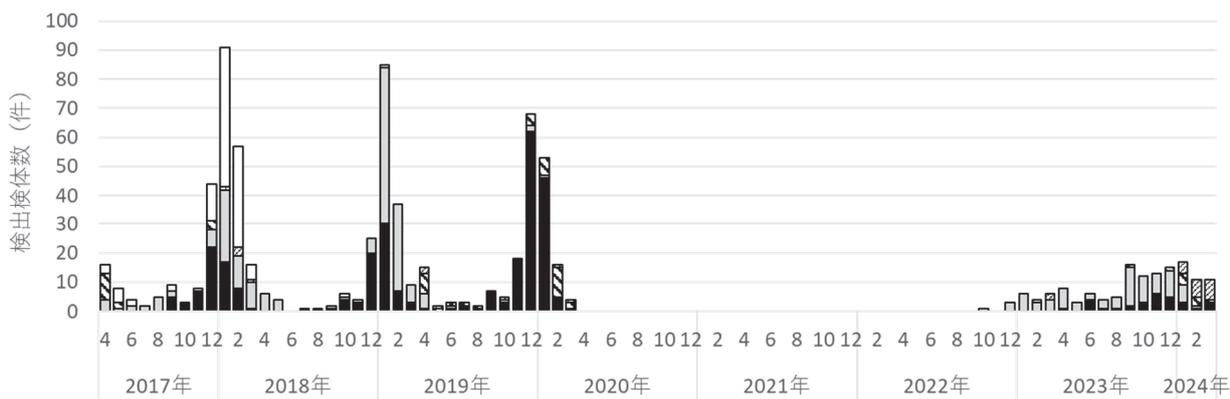


図 2-1 月別のインフルエンザウイルス検出状況

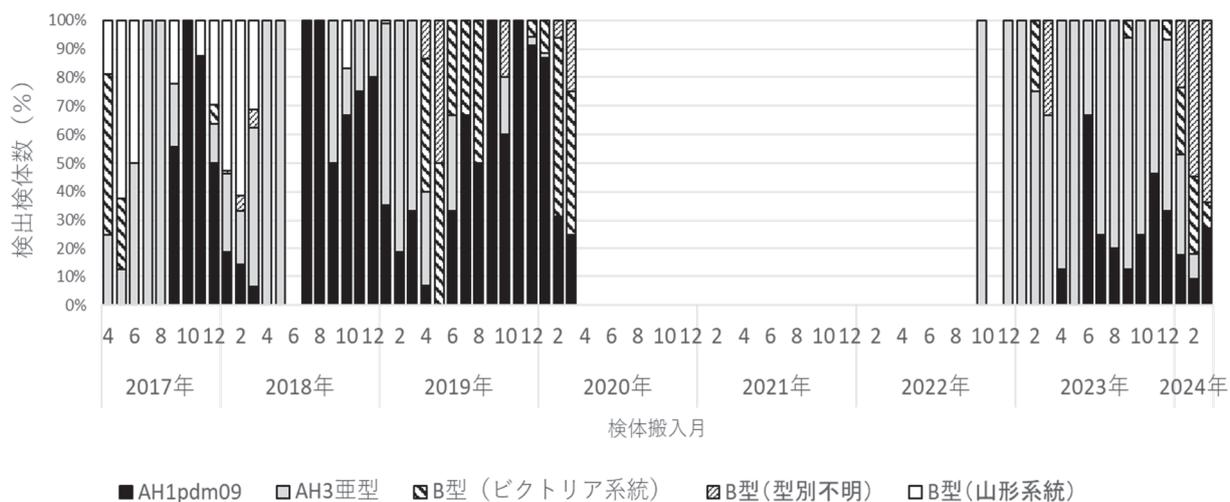


図 2-2 月別のインフルエンザウイルス検出割合

(4) インフルエンザウイルス以外のウイルス検出状況

インフルエンザウイルス以外のウイルス検出状況を図 3 に示す。COVID-19 流行前は HRV が最も多く検出され、流行後は SARS-CoV-2 が最多であった。

インフルエンザウイルス、SARS-CoV-2 のいずれも陰性だった検体における COVID-19 流行前後の呼吸器系ウイルス 8 種の検出状況を図 4 に示す。呼吸器系ウイルス 8 種のいずれかが陽性と判定された検出数は流行前が 24 件 (24.2%)、流行後が 19 件 (38%) であった。検出ウイルスの割合は HRV が流行前に 12 件 (50.0%)、流行後に 9 件 (47.3%) と最も高かった。

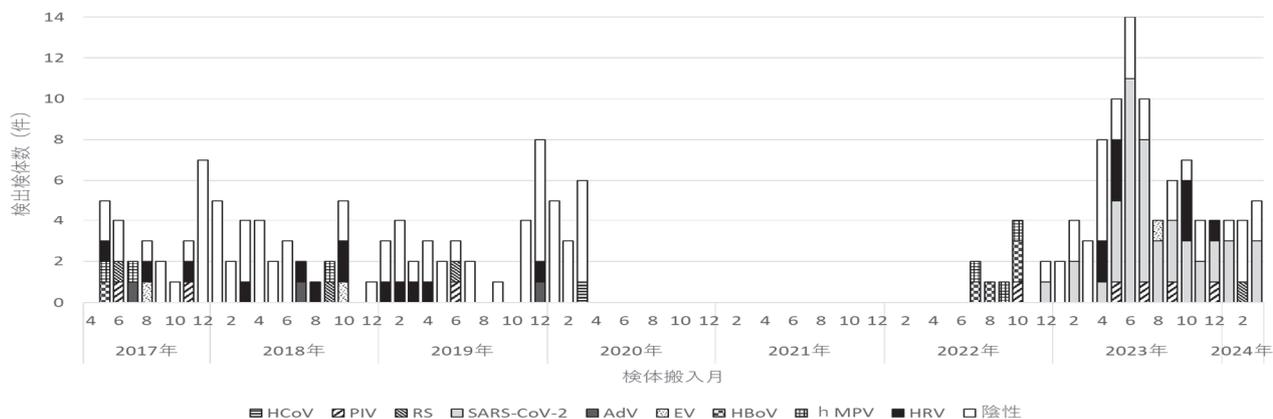


図 3 月別のインフルエンザウイルス以外のウイルス検出状況

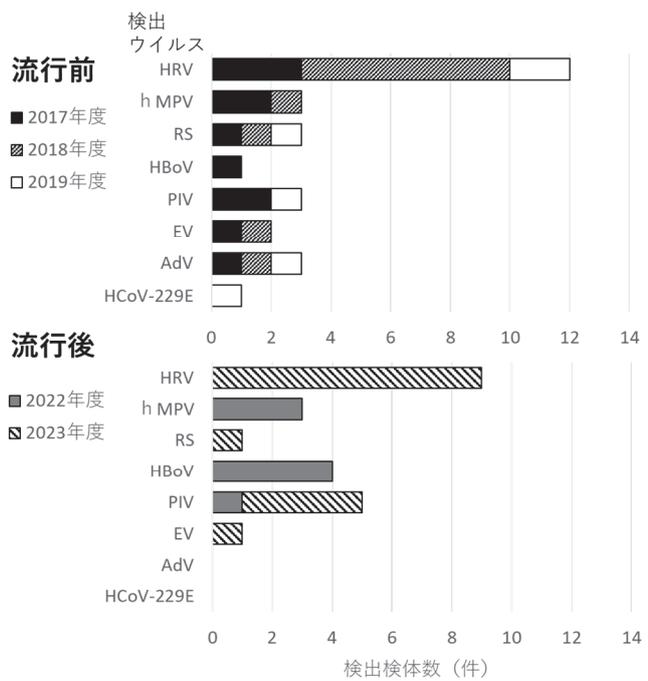
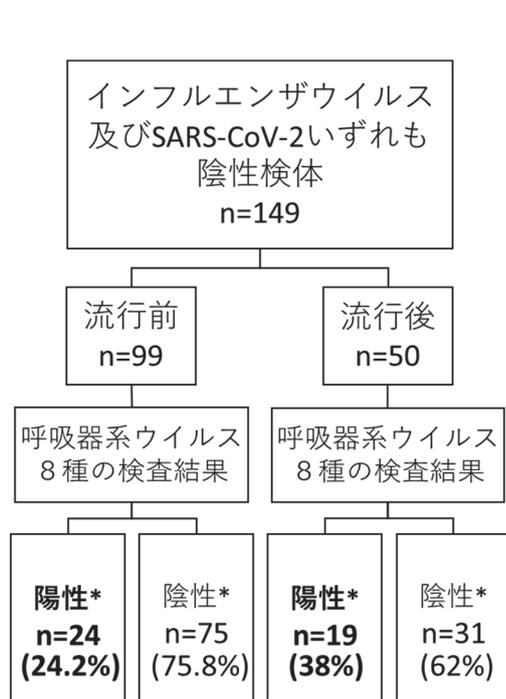


図 4 COVID-19 流行前後の呼吸器系ウイルス 8 種の検出状況

【考察】

インフルエンザウイルスの検出割合は、COVID-19 流行後に 63.2%となり、流行前の 86.5%から 23.3%ポイント減少し、COVID-19 流行の影響を受けたと考える。

インフルエンザウイルス及び SARS-CoV-2 以外の呼吸器系ウイルスは、COVID-19 流行に関わらず検出され、特に HRV を中心に複数のウイルスが検出された。

【結語】

ILI を含む急性呼吸器感染症の原因ウイルスはインフルエンザウイルス、SARS-CoV-2 だけではないため、今後はより簡便かつ網羅的な病原体検索を進め、疫学情報を含めた解析を実施していきたい。

川崎市における E 型肝炎の報告数増加と献血時の HEV-NAT 導入との関連

川崎市健康安全研究所 廣富匡志 丸山 絢 三崎貴子 岡部信彦

【目的】

E 型肝炎は通常、発熱や悪心・嘔吐、全身倦怠感等の症状を呈するが、無症状のまま健康診断等の血液検査を契機に診断されることもあり、近年では献血を機に発覚する事例が川崎市内でも散見されている。日本赤十字社が 2020 年 8 月に全輸血用血液製剤の検査に導入した HEV-NAT が、患者報告数の増加に関連したかどうかを検討するため、市内における E 型肝炎の発生動向について調査を行った。

【方法】

2014 年第 1 週～2023 年第 16 週に、川崎市内で「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づき届出のあった E 型肝炎の報告 95 件を対象として、疫学的特徴をまとめ、献血時の検査導入と報告数の増加との関連について検討した。

【結果】

対象 95 件は、男性の割合が 80.0%で、40 歳以上が 85.3%を占めており、全国と同様の傾向であった。

2014 年に 3 件であった報告数は徐々に増加し、2019 年には 17 件となった。2020 年に 10 件と減少したものの、2021 年は 15 件、2022 年は 17 件と再び増加し、2023 年は第 16 週時点で 8 件が報告されている。

2019 年までの 45 件中、無症状病原体保有者は 2 件 (4.4%) であったが、2020 年以降は 50 件中 7 件 (14.0%) と増加していた。また、2020 年以前は自覚症状のない患者及び無症状病原体保有者の割合は概ね 20.0%前後であったのに対し、2021 年以降は 37.5～46.7%と増加した。

2020 年 8 月以降に、献血時の検査を機に医療機関を受診した症例は、2020 年 (8 月以降) から 2023 年 (5 月まで) に各々 33.3%、26.7%、23.5%、37.5%であり、4 年間で 46 件中 13 件 (28.3%) であった。13 件のうち、患者は 6 件 (うち、自覚症状がない症例は 4 件)、無症状病原体保有者は 7 件であった。

【結論】

HEV-NAT の導入後、献血時の検査を機に報告されたケースは全体の 3 割近くを占め、明らかに増加していた。また、多くが無症状病原体保有者若しくは自覚症状がない症例であったことから、市中には多くの感染者が潜在的に存在している可能性も示唆された。無症状病原体保有者や自覚症状のない感染者からの感染リスクは不明だが、感染すると死亡する危険性が高い妊婦等については、適切な啓発を行うことが重要であると考えられる。

川崎市における新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) リアルタイムサーベイランスの利用状況

川崎市健康安全研究所

丸山 絢、三崎貴子、岡部信彦

【背景及び目的】

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の定点把握疾患への変更に伴い、川崎市では令和 5 年 5 月 8 日から川崎市感染症情報発信システム (KIDSS) を用いた COVID-19 リアルタイムサーベイランス (RTS) を開始した。RTS の有効性を検討するため、報告状況を調査した。

【方法】

令和 5 年 5 月 8 日～10 月 1 日の RTS の入力状況 (10 月 3 日時点) をまとめ、定点医療機関からの報告と比較検討した。

【結果】

RTS は最大 196 医療機関から計 58390 人の報告があり、市内 61 定点からの報告数は計 14625 人であった。医療機関当たり報告数/週の推移は概ね一致していたが、お盆を除く流行のピークは、RTS は第 35 週、定点は第 36 週であった。また、RTS は 15 歳未満の報告が 10.8%、定点は 29.1%であった。RTS の医療機関当たり報告数は、定点の平均 1.7 倍であったが、8 月下旬から 9 月上旬にかけて報告数比が増加し、定点における小児の報告割合との間に負の相関がみられた。

【考察】

RTS は定点の最大 3.2 倍の医療機関から報告があり、医療機関当たり報告数は平均 1.7 倍と、COVID-19 診療医療機関が積極的に報告していた。また、定点における小児の割合は RTS の 2.7 倍であり、定点の 73.8%が小児科であるためと考えられる。一方で小児科の割合は、RTS は 40.5%、市内医療機関は 20.3%であり、RTS はより実際の状況を反映していると考えられる。小児における流行時には定点の報告数が増加するため、流行状況は複数のサーベイランスデータから総合的に評価することが重要である。

RTS は感染症発生状況の正確かつ迅速な把握に有効であり、今後も継続する必要がある。

【第5章 職員に関する事項】

1 人事記録

(1) 異動(出)

年月日	役職	氏名	配属先
R5.4.1	課長補佐	佐々木 清隆	麻生区役所地域みまもり支援センター衛生課課長補佐
R5.4.1	担当係長	吉田 裕一	建設緑政局緑政部夢見ヶ崎動物公園担当係長
R5.4.1	主任	阿部 光一郎	病院局井田病院検査科主任
R5.4.1		沼田 航遥	健康福祉局保健医療政策部食品安全担当
R5.4.1		荒井 千寛	健康福祉局保健医療政策部中央卸売市場食品衛生検査所

(2) 異動(入)

年月日	役職	氏名	前所属
R5.4.1	担当課長	本間 幸子	健康福祉局保健医療政策部中央卸売市場食品衛生検査所所長
R5.4.1	担当係長	石堂 陽子	健康福祉局保健医療政策部中央卸売市場食品衛生検査所理化学検査係長
R5.4.1	主任	小河内 麻衣	健康福祉局保健医療政策部動物愛護センター
R5.4.1		遠藤 康寿	健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当

(3) 内部異動

年月日	役職	氏名	所属
R5.4.1	担当係長	小嶋 由香	微生物担当課長から呼吸器・環境細菌へ異動
R5.4.1	主任	池田 史朗	昇任

2 職員名簿（令和5年4月1日現在）

担当理事
（所長） 技術職員 岡部 信彦

担当部長
（副所長） 技術職員 須崎 聰

〔総務〕

担当係長 事務職員 盛崎 健一
主任 同 平賀 江利子
主任 同 門脇 幸子
同 成田 哲治

〔企画調整〕

担当部長 技術職員 三崎 貴子

〔企画調整〕

担当係長 技術職員 杉本 徳子
同 荒木 啓佑

〔感染症情報センター〕

担当係長 技術職員 丸山 絢
同 廣富 匡志
同 荒井 智博

〔理化学〕

担当課長 技術職員 清水 英明

〔食品〕

課長補佐 技術職員 浅井 威一郎
主任 同 佐藤 英子
主任 同 栗田 史子
主任 同 江原 庸
同 今井 朝香

〔水質・環境〕

担当係長 技術職員 石堂 陽子
主任 同 小林 亨
主任 同 田中 佑典
主任 同 牛山 温子
主任 同 高居 久義

〔残留農薬・放射能〕

担当係長 技術職員 岸 美紀
主任 同 三亀 美津徳
同 遠藤 康寿
同 江崎 康司

〔微生物〕

担当課長 技術職員 本間 幸子

〔消化器・食品細菌〕

担当係長 技術職員 湯澤 栄子
主任 同 池田 史朗
同 安澤 洋子
同 福島 和弥
同 荒木 靖也

〔呼吸器・環境細菌〕

担当係長 技術職員 小嶋 由香
主任 同 淀谷 雄亮
同 西里 恵美莉

〔ウイルス・衛生動物〕

担当係長 技術職員 赤星 千絵
主任 同 佐々木 国玄
主任 同 小河内 麻衣
同 畠山 理沙
同 若菜 愛澄
同 夏井 航平

令和5年度
川崎市健康安全研究所年報
第11号(通巻第59号)

令和6年度発行

発行・編集 川崎市健康安全研究所

所在地 〒210-0821

川崎市川崎区殿町 3-25-13

川崎生命科学・環境研究センター(LiSE)2階

TEL 044(276)8250

FAX 044(288)2044

印刷 清光堂印刷株式会社